

## 第 2 章

---

### 調査結果の概要-区民調査-

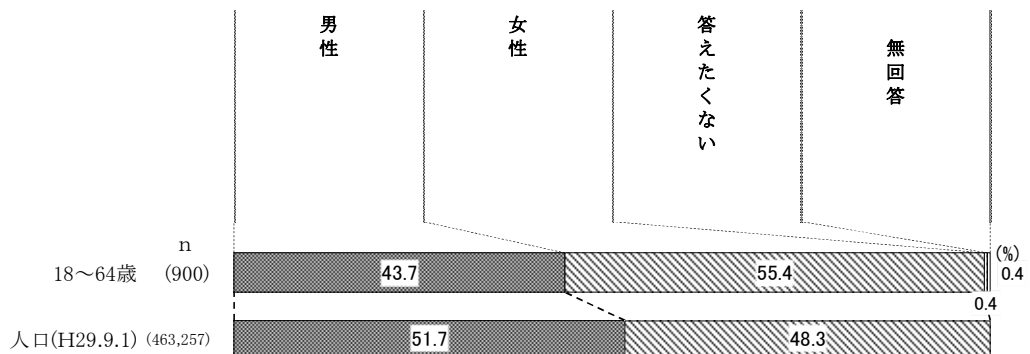


# 1. 対象者属性、家族・居住の状況

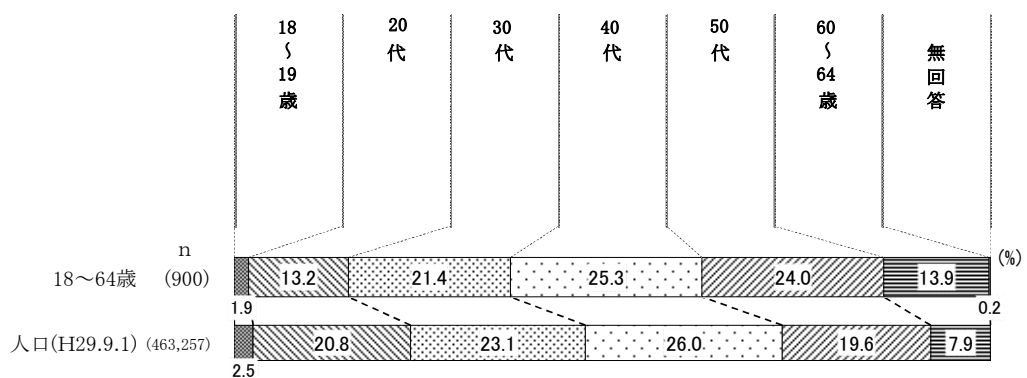
## (1) 性別・年齢【若問1、問2】【高問4、問5】

①18～64歳調査回答者（以下「18～64歳」とする。）の構成は、区の人口構成より女性の割合が高く、年齢構成では年齢の高い層の割合が多くなっている。

<図表1-1> 性別(18～64歳)



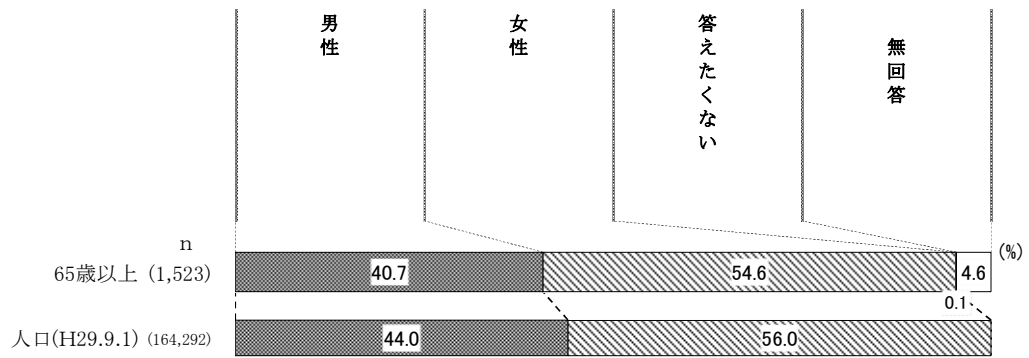
<図表1-2> 年齢(18～64歳)



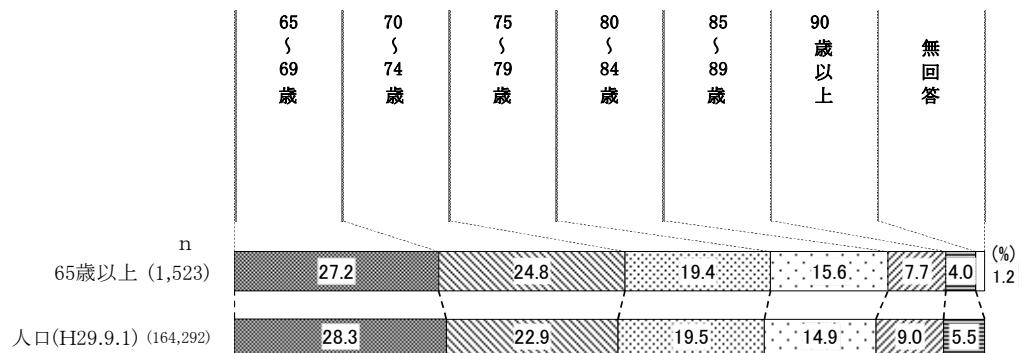
(1) 性別・年齢(続き)

②65歳以上の調査回答者(以下「65歳以上」とする)の性別・年齢構成は、区の人口構成とほぼ同じとなっている。

<図表1-3> 性別(65歳以上)



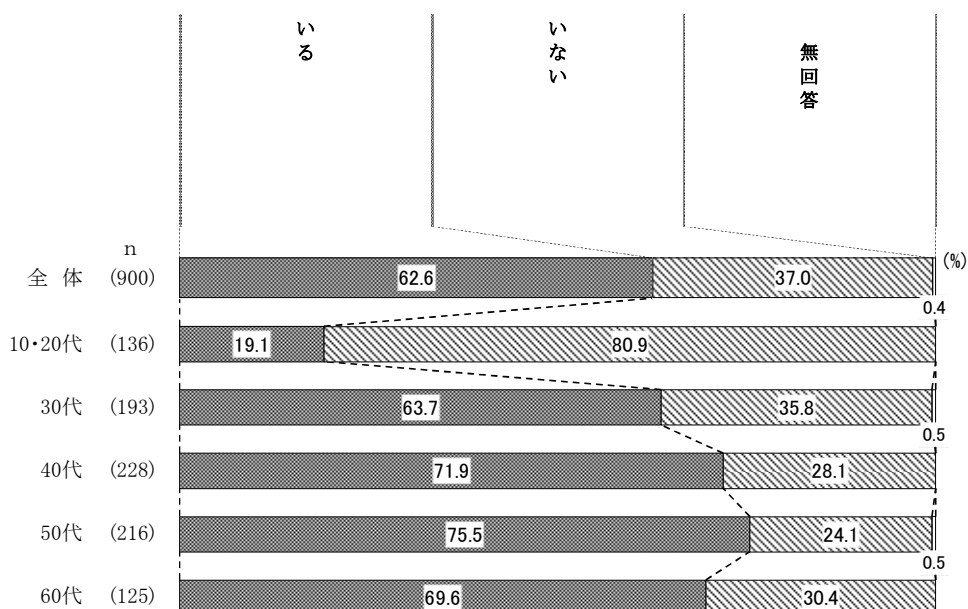
<図表1-4> 年齢(65歳以上)



(2) 家族構成【若問3～5】【高問6～問6-1】

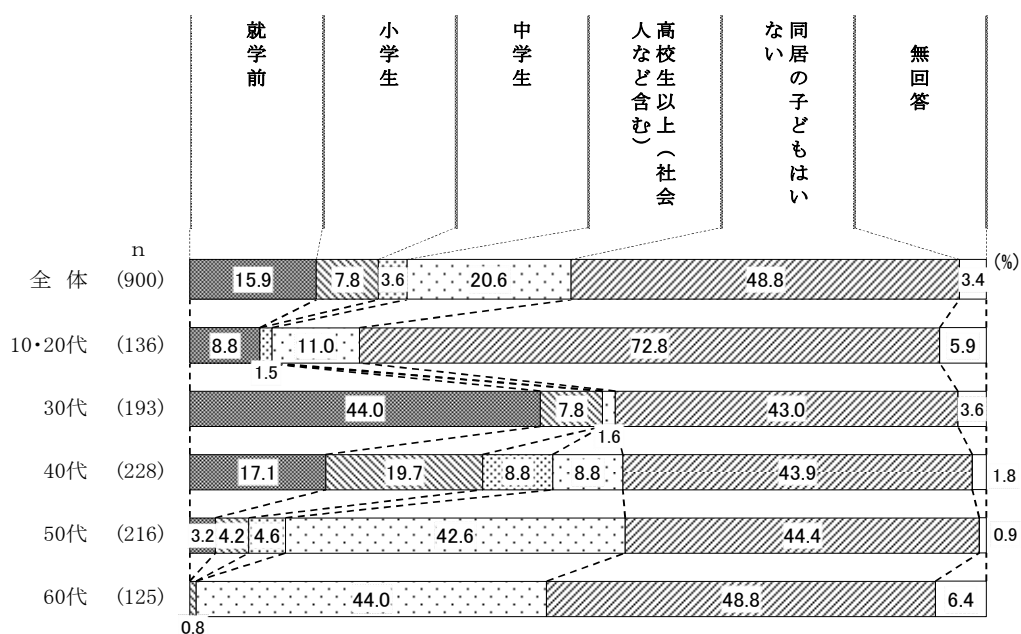
①配偶者の有無については、10・20代では19.1%、30代・40代・50代・60代では60%を超えている。

<図表1-5> 配偶者の有無(18~64歳)



②一番下の子どもの年齢については、「就学前」は30代で44.0%、「小学生」は40代で19.7%、「高校生以上」は60代で44.0%が最も高くなっている。

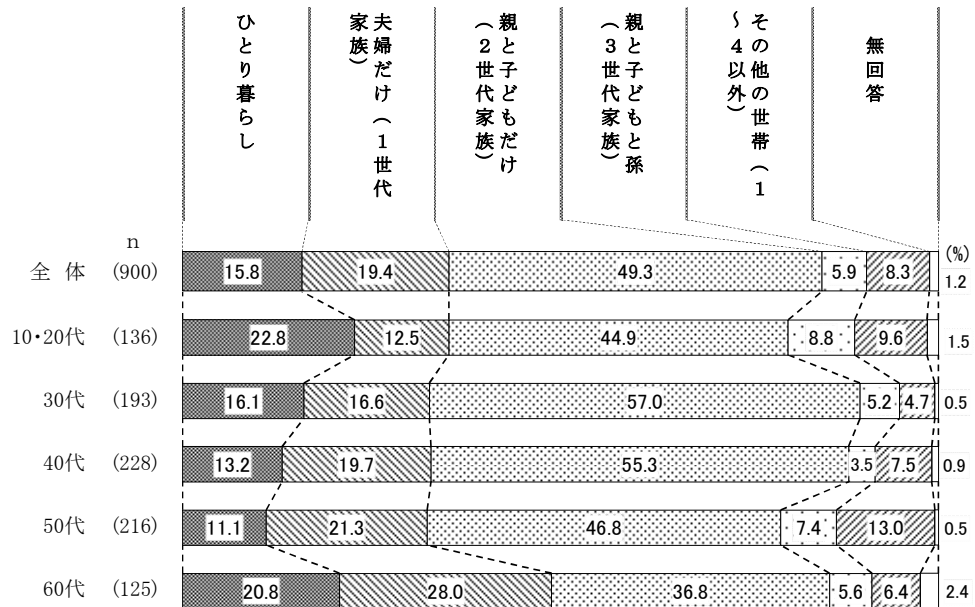
<図表1-6> 一番下の子どもの年齢(18~64歳)



(2) 家族構成 (続き)

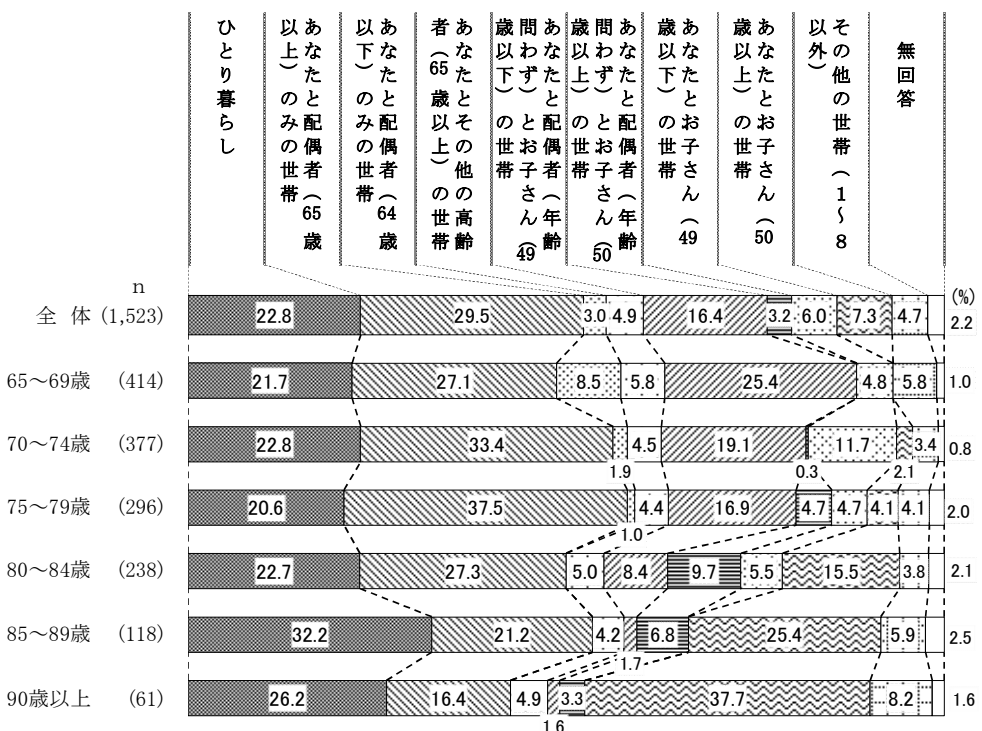
③家族構成について18歳～64歳では、どの世代においても「親と子どもだけ(2世代家族)」が最も高くなっている。一方、「ひとり暮らし」は50代で11.1%と最も低くなっている。

<図表1-7> 家族構成(18～64歳)



④家族構成について65歳以上では、「ひとり暮らし」と「あなたと配偶者(65歳以上)のみの世帯」と「あなたとその他の高齢者(65歳以上)の世帯」を合わせると57.2%となり、高齢者のみで構成された世帯が半数を超えている。

<図表1-8> 家族構成(65歳以上)



## (2) 家族構成 (続き)

⑤65歳以上の同居家族については、「ひとり暮らし」と「本人と配偶者(65歳以上)のみ」が増加傾向にある。一方、「本人と配偶者(64歳以下)のみ」が減少傾向にある。

<図表1-9> 家族構成 (平成24年度、平成20年度との比較) (65歳以上)

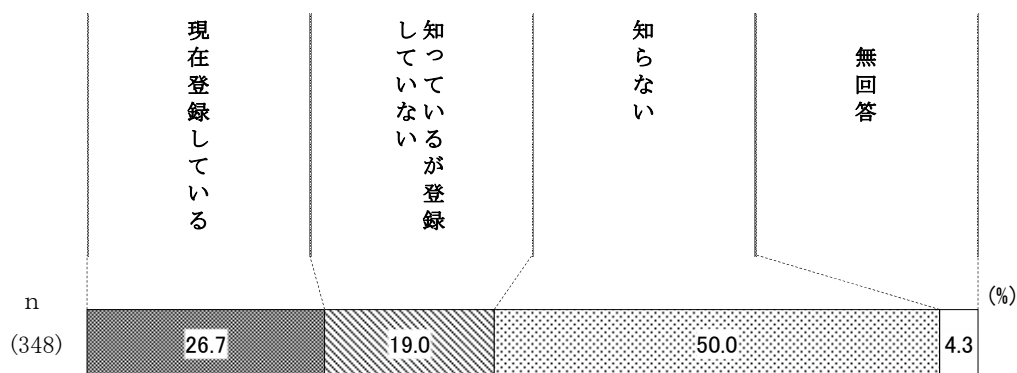
(単位: %)

	平成29年度 n=1,523	平成24年度 n=1,707	平成20年度 n=1,283
ひとり暮らし	22.8	19.7	18.6
本人と配偶者(65歳以上)のみ	29.5	26.9	27.5
本人と配偶者(64歳以下)のみ	3.0	9.5	11.2
本人とその他の高齢者	4.9	8.8	8.3
その他の世帯(1~4以外)※	32.9	32.9	31.4
無回答	4.7	2.1	3.0

※平成29年度調査において「あなたと配偶者(年齢問わず)とお子さん(49歳以下)の世帯」「あなたと配偶者(年齢問わず)とお子さん(50歳以上)の世帯」「あなたとお子さん(49歳以下)の世帯」「あなたとお子さん(50歳以上)の世帯」の数値を合算

⑥65歳以上で緊急時の連絡先を区に登録できる「ひとり暮らし高齢者登録」を「知らない」との回答が50.0%となっている。

<図表1-10> ひとり暮らし高齢者登録の周知状況 (65歳以上)

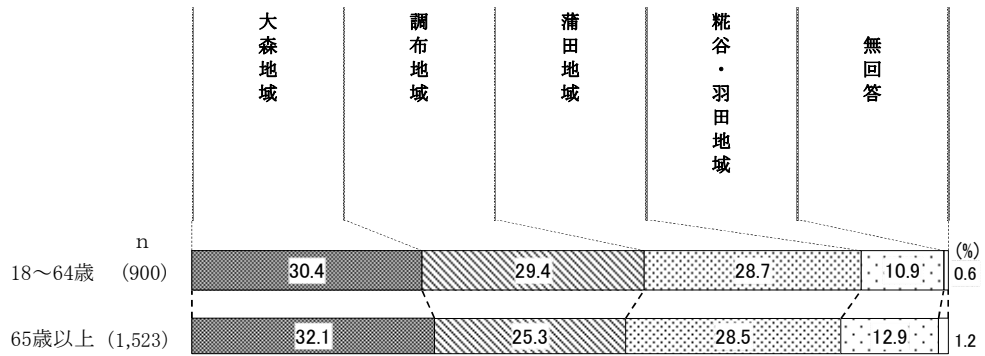


(3) 居住地・居住年数【若問8、問9】【高問3】

①回答者を居住地別にみると、18～64歳、65歳以上ともに「大森地域」が30%を超えている。

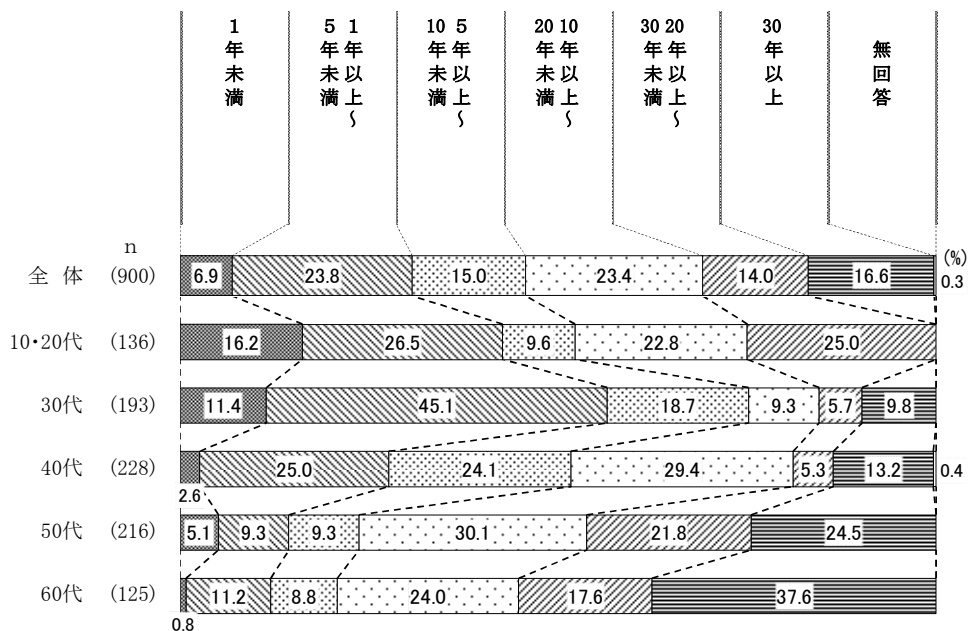
「調布地域」「蒲田地域」については、18～64歳、65歳以上ともに20%台、「糎谷・羽田地域」については、18～64歳、65歳以上ともに10%台となっている。

<図表1-11> 居住地(18～64歳)(65歳以上)



②18～64歳の居住年数について年齢別にみると、10代～30代は「1年以上5年未満」の割合が最も高く、40代・50代は「10年以上～20年未満」、60代は「30年以上」の割合が最も高くなっている。

<図表1-12> 年齢別に見た居住年数(18～64歳)

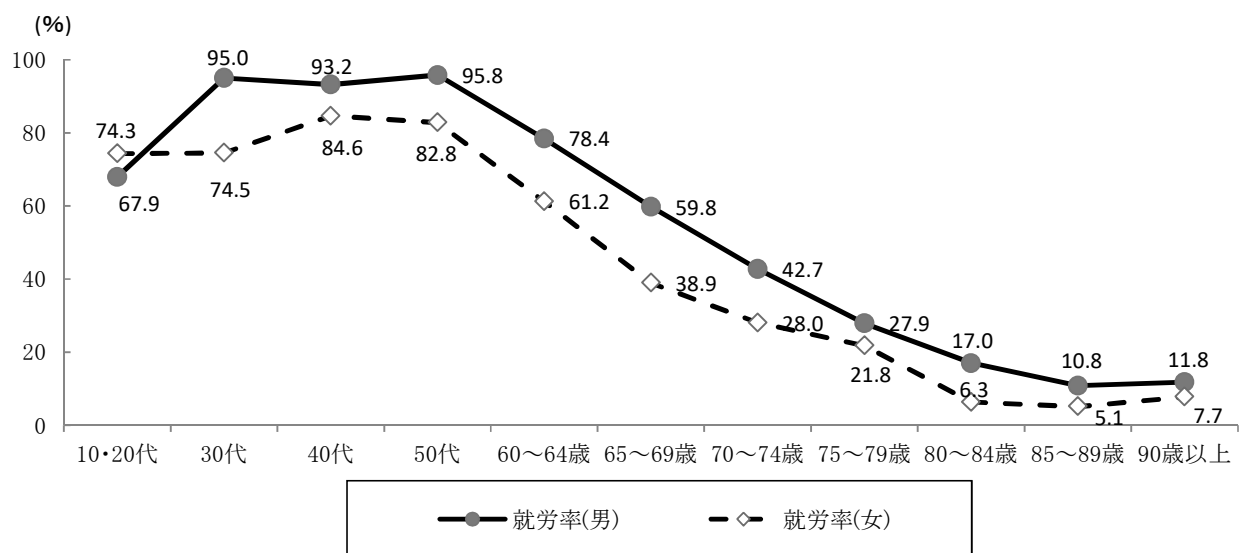




#### (4) 就労の現状【若問 11】【高問 14】

①就労率（就労形態で正社員・正職員、派遣・契約社員、パートタイム・アルバイト、内職、自営業（農業・漁業を含む）、家族従業員（家業の手伝い）と回答した人の合計割合）は、男性では50代を頂点として、女性では40代を頂点として、以降減少している。

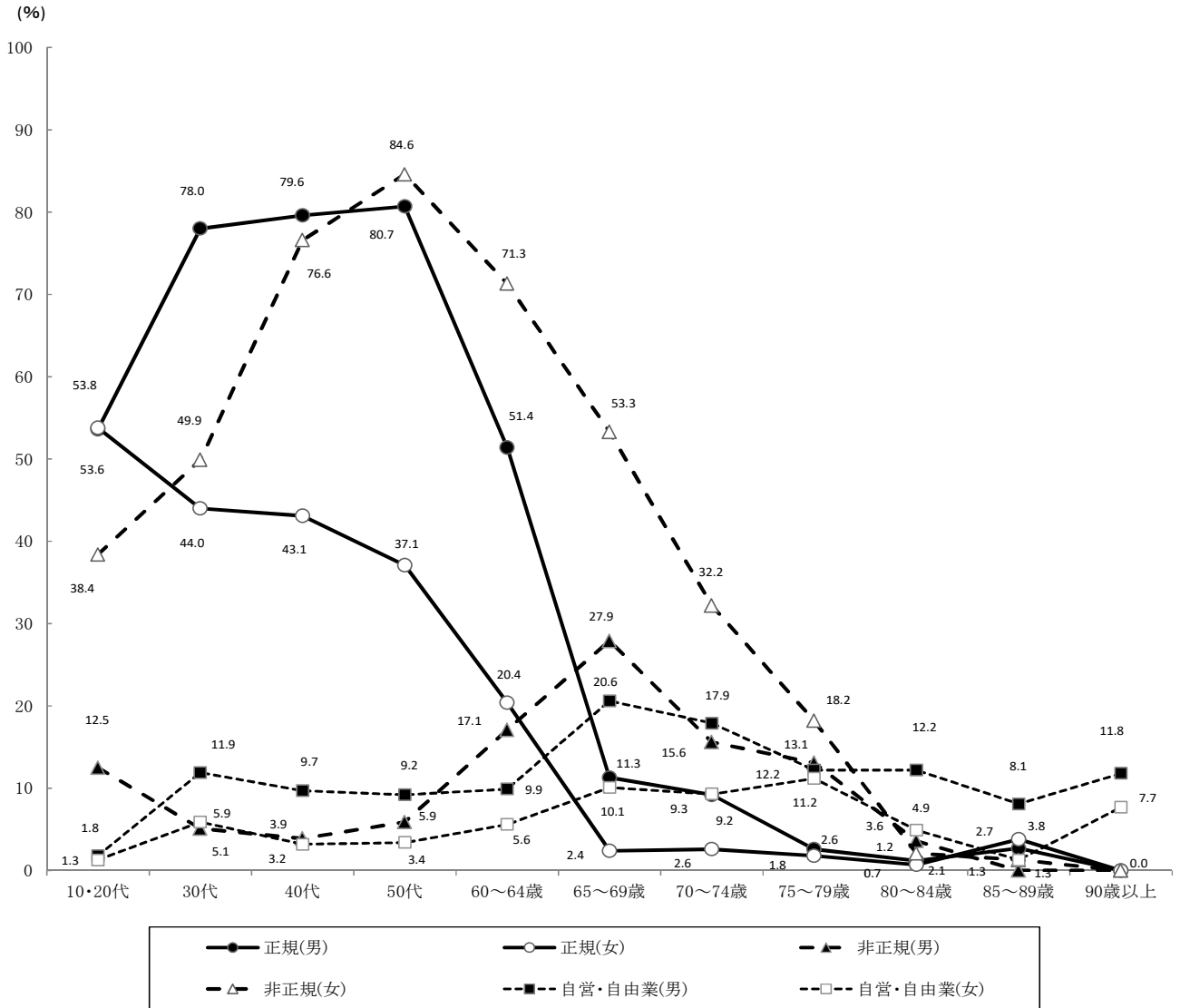
<図表 1-13> 性別・年齢別にみた就労率(18~64歳)(65歳以上)



#### (4) 就労の現状 (続き)

②男性の就労形態については65～69歳では、「正規雇用(正社員・正職員、以下同様)」から「非正規雇用(派遣・契約社員、パートタイム、アルバイト、内職、以下同様)」「自営・自由業(家族従業員含む)、以下同様」へ移行している。女性では30代で「非正規雇用」が「正規雇用」を上回り、50代では「非正規」は84.6%となっている。

<図表1-14> 性別・年齢別にみた就労形態(18～64歳)(65歳以上)



(5) 障がいの有無・要介護認定を受けた経験の有無【若問6～問7-1】【高問8～問9-1】

①障がいの有無について、何らかの障がいがあると回答した割合は18～64歳では3.6%、65歳以上では9.0%となっている。障がいの種別など内訳は下表のとおりである。

<図表1-15> 障がいの有無(18～64歳)(65歳以上)

(単位：人)

	n	身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	発達障がいの診断を受けている	持っていない	無回答
18～64歳	900	15	10	5	4	822	46
65歳以上	1,523	131	1	5	-	1,140	246

<身体障害者手帳>

(単位：人)

	n	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	無回答
18～64歳	15	2	4	2	2	1	2	-	2
65歳以上	131	44	15	19	27	6	6	-	14

<愛の手帳> (単位：人)

	n	1度	2度	3度	4度	無回答
18～64歳	10	4	4	2	-	-
65歳以上	1	-	-	-	-	1

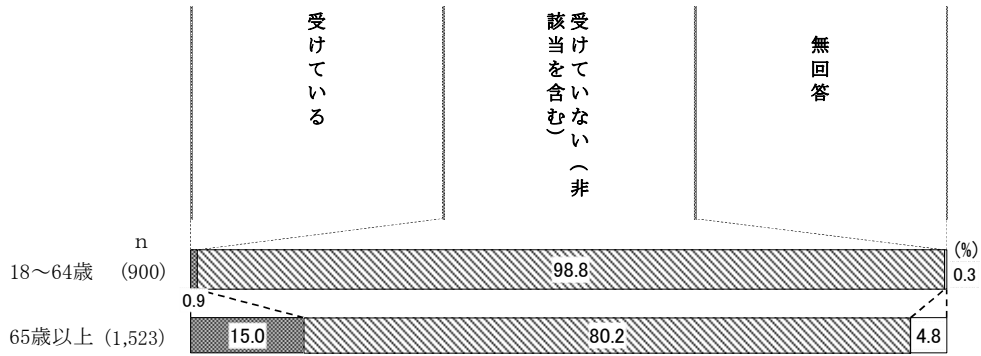
<精神障害者保健福祉手帳> (単位：人)

	n	1級	2級	3級	無回答
18～64歳	5	-	2	1	2
65歳以上	5	1	3	-	-

(5) 障がいの有無・要介護認定を受けた経験の有無 (続き)

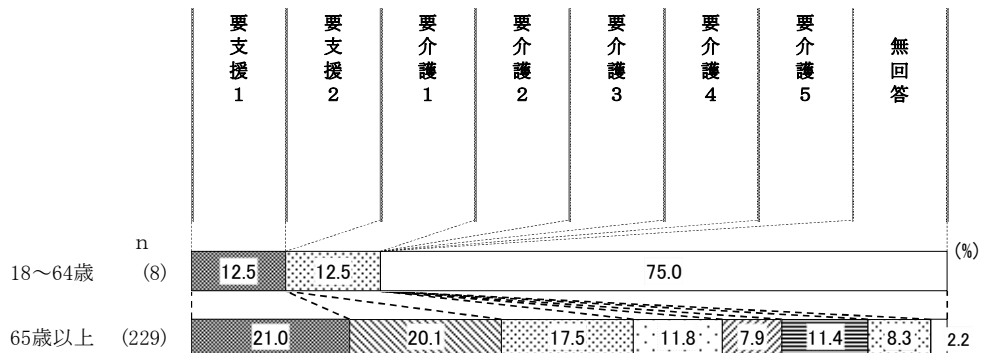
②要介護認定を受けた経験について「受けている」と回答した割合は、18～64歳では0.9%、65歳以上では15.0%となっている。

<図表 1-16> 要介護認定を受けた経験(18～64歳)(65歳以上)



③要介護度について、18～64歳では「要支援1」「要介護1」がともに12.5%となっている。65歳以上では「要支援1」が21.0%、次いで「要支援2」が20.1%と要介護度が上がるにつれて減少する傾向にある。

<図表 1-17> 要介護度(18～64歳)(65歳以上)



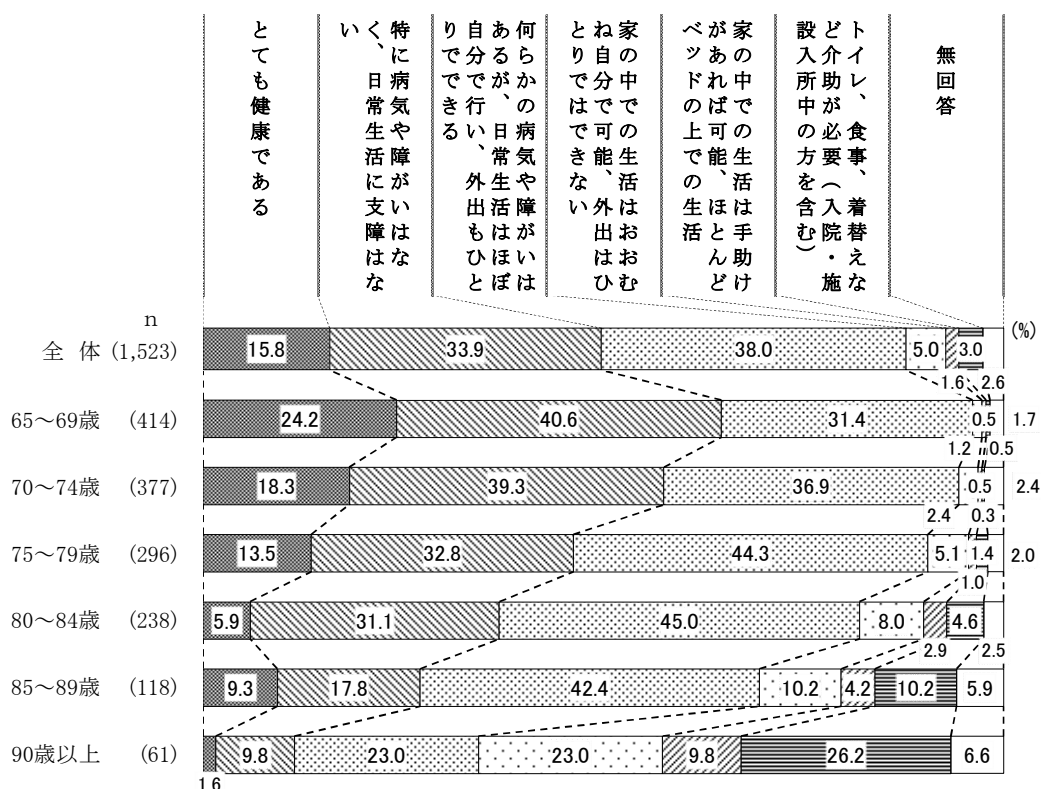
## 2. 日常生活の課題について

### (1) 健康状態【高問 10】

①65歳以上全体の健康状態については、「何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分でい、外出もひとりできる」が38.0%で最も高く、次いで「特に病気や障がいはなく、日常生活に支障はない」が33.9%、「とても健康である」が15.8%の順となっている。

年齢別にみると、65～69歳では「特に病気や障がいはなく、日常生活に支障はない」が40.6%で最も高く、その割合は年齢が高くなるにつれて減少する傾向にある。

＜図表2-1＞ 年齢別にみた健康状態(65歳以上)

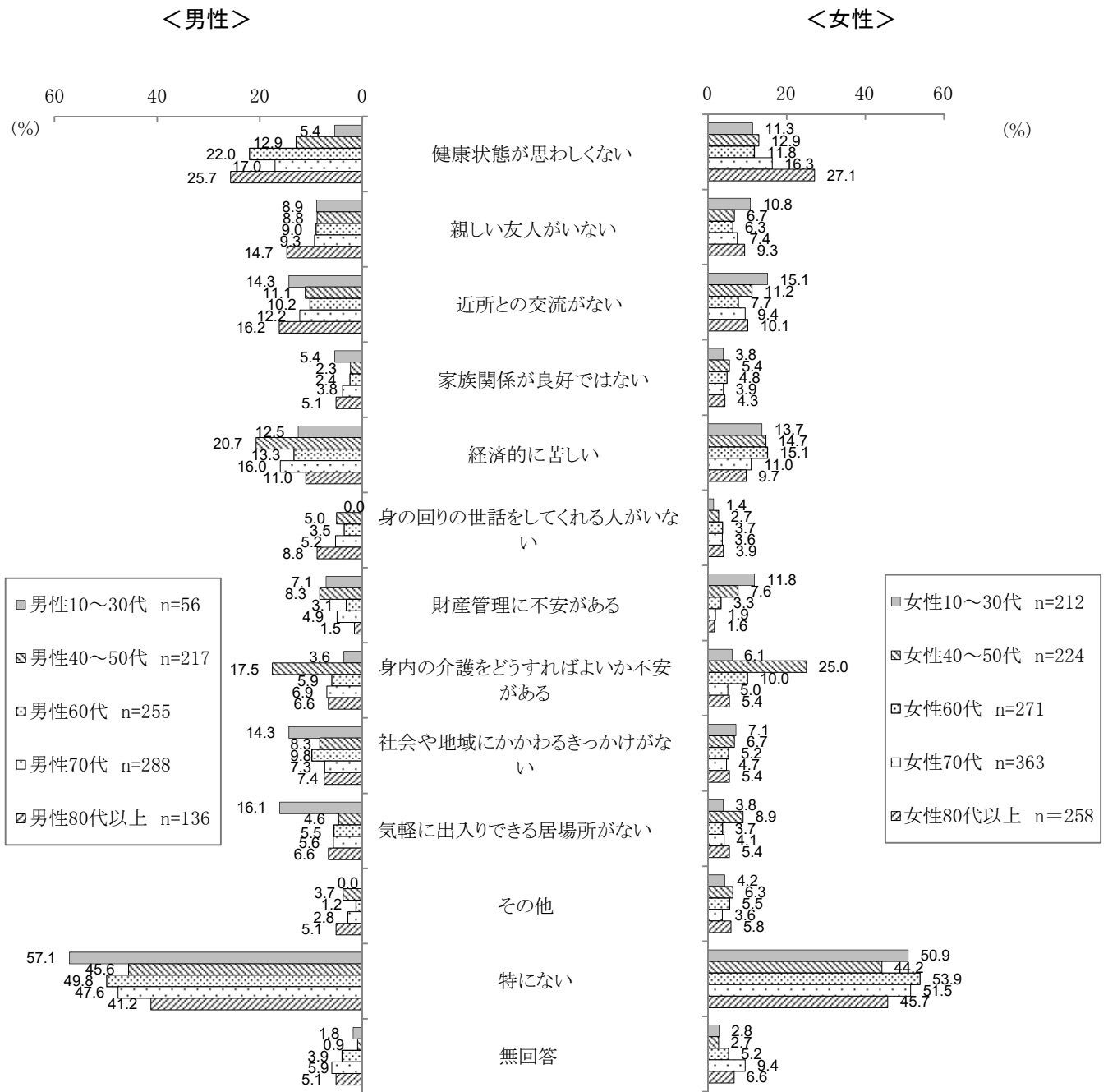


(2) 現在の悩みや不安【若問 12】【高問 11】

①現在の悩みや不安について、男性では「健康状態が思わしくない」が、80代以上で25.7%となっている。「特にない」は10~30代で57.1%と最も高くなっている。

一方、女性では「健康状態が思わしくない」が80代以上で27.1%となっている。また、「身内の介護をどうすればよいか不安がある」は40~50代で25.0%と高くなっている。

<図表 2-2> 性・年齢別にみた現在の悩みや不安(18~64歳)(65歳以上)



## (2) 現在の悩みや不安 (続き)

②65歳以上の現在の悩みや不安を平成24年度と比べると、「特にない」が9.9ポイント増加しているものの、「親しい友人がいない」が1.1ポイント（平成20年度比では3.8ポイント）、「家族関係がよくない」が0.6ポイント（平成20年度比では、1.1ポイント）増加している。一方で、「健康状態が思わしくない」が3.2ポイント、「身内の介護をどうすれば良いか不安がある」が5.0ポイント、「気軽に出入りできる居場所がない」が3.4ポイント減少している。

＜図表2-3＞ 現在の悩みや不安(平成24年度、平成20年度との比較)(65歳以上)

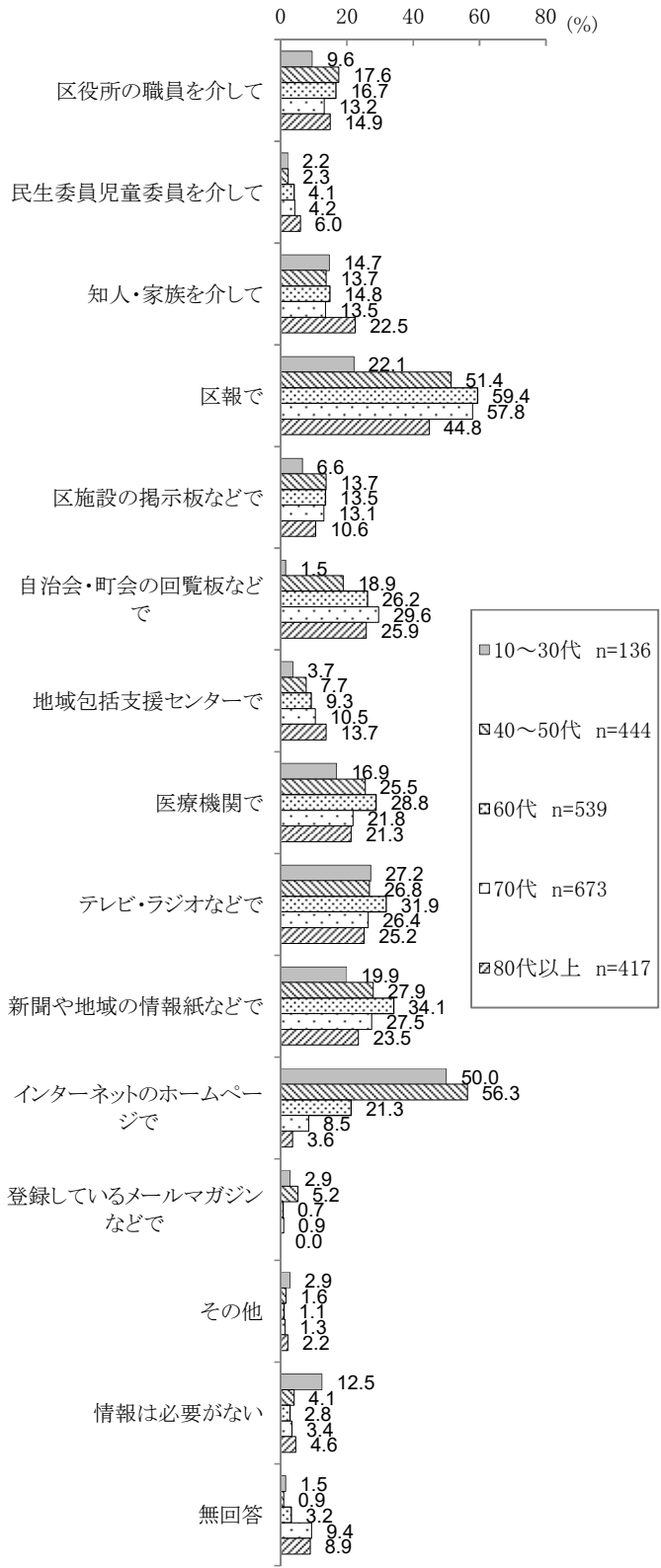
(単位：%)

	平成29年度 n=1,523	平成24年度 n=1,707	平成20年度 n=1,283
健康状態が思わしくない	18.9	22.1	15.9
親しい友人がいない	9.1	8.0	5.3
近所との交流がない	10.5	11.7	6.8
家族関係がよくない	3.8	3.2	2.7
経済的に苦しい	12.4	13.8	14.0
身の回りの世話をしてくれる人がいない	4.2	4.7	4.7
財産管理に不安がある	2.8	2.6	2.3
身内の介護をどうすれば良いか不安がある	6.0	11.0	12.9
社会や地域にかかわるきっかけがない	6.1	7.0	6.2
気軽に出入りできる居場所がない	4.9	8.3	6.2
その他	3.7	1.5	2.9
特にない	49.6	39.7	42.2
無回答	6.5	10.4	12.9

(3) 希望する保健福祉情報の入手方法【若問 13】【高問 12】

①希望する保健福祉情報の入手方法については、「区報で」は40代から70代にかけて50%を超えている。また、「インターネットのホームページで」は40～50代で56.3%と最も高く、以降は年齢が高くなるにつれて減少する傾向にある。

<図表 2-4> 年齢別にみた希望する保健福祉情報の入手方法(18～64歳)(65歳以上)





### (3) 希望する保健福祉情報の入手方法 (続き)

②65歳以上が希望する保健福祉情報の入手方法については、「区報で」が平成24年度調査より11.3ポイント減少しているほか、「自治会・町会の回覧板などで」「新聞や地域の情報誌などで」も減少している。

一方、「医療機関で」及び「区施設の掲示板などで」は9.3ポイント増加している。

<図表2-5> 希望する保健福祉情報の入手方法(平成24年度、平成20年度との比較)(65歳以上)

(単位：%)

	平成29年度 n=1,523	平成24年度 n=1,707	平成20年度 n=1,283
区役所の職員を介して	14.4	13.0	19.9
民生委員児童委員を介して	4.6	4.7	7.6
知人・家族を介して	15.6	11.8	16.4
区報で	54.7	66.0	71.2
区施設の掲示板などで※1	12.6	3.3	4.3
自治会・町会の回覧板などで	27.6	35.8	42.7
地域包括支援センターで	10.8	7.0	4.1
医療機関で	23.4	14.1	12.4
テレビ・ラジオなどで	27.4	24.5	38.7
新聞や地域の情報誌などで	28.0	33.6	44.7
インターネットのホームページで	9.5	13.3	10.1
登録しているメールマガジンなどで※2	0.5	-	-
その他	1.5	1.2	1.4
情報は必要ない	3.6	2.1	1.1
無回答	7.6	6.2	5.5

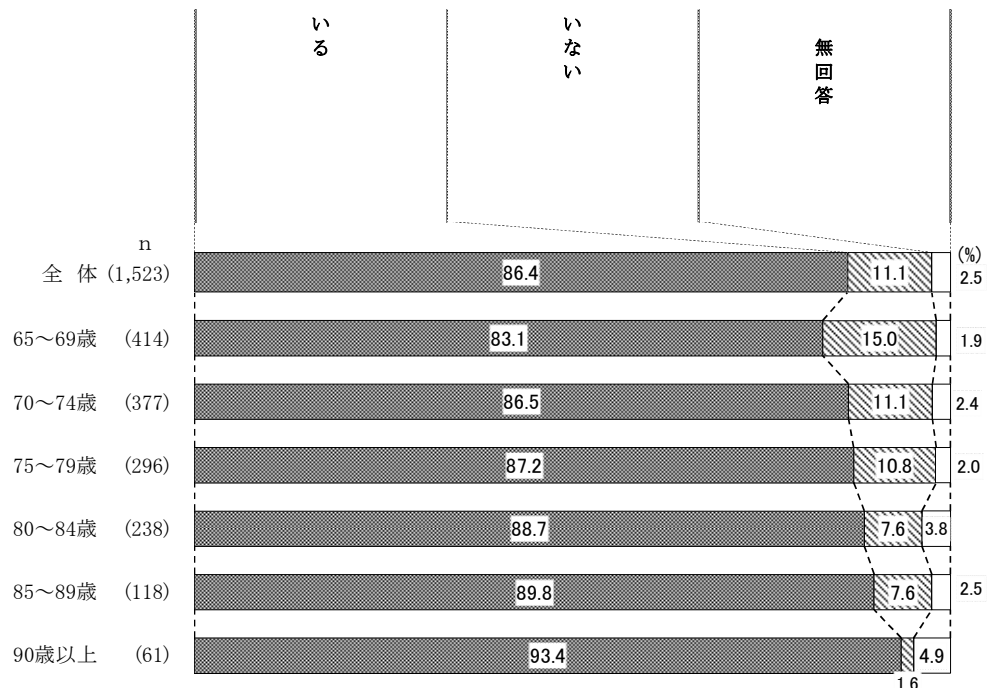
※1 平成24年度、平成20年度調査では「区民センターやゆうゆうくらぶ(老人いこいの家)など施設の掲示板などで」

※2 「登録しているメールマガジンなどで」は平成29年度調査からの新規項目

(4) 悩みや困ったことの相談先【若問 14】【高問 13、問 13-1】

①65 歳以上で悩みや困ったことの相談相手については、「いる」は全体で 86.4%と高くなっている。

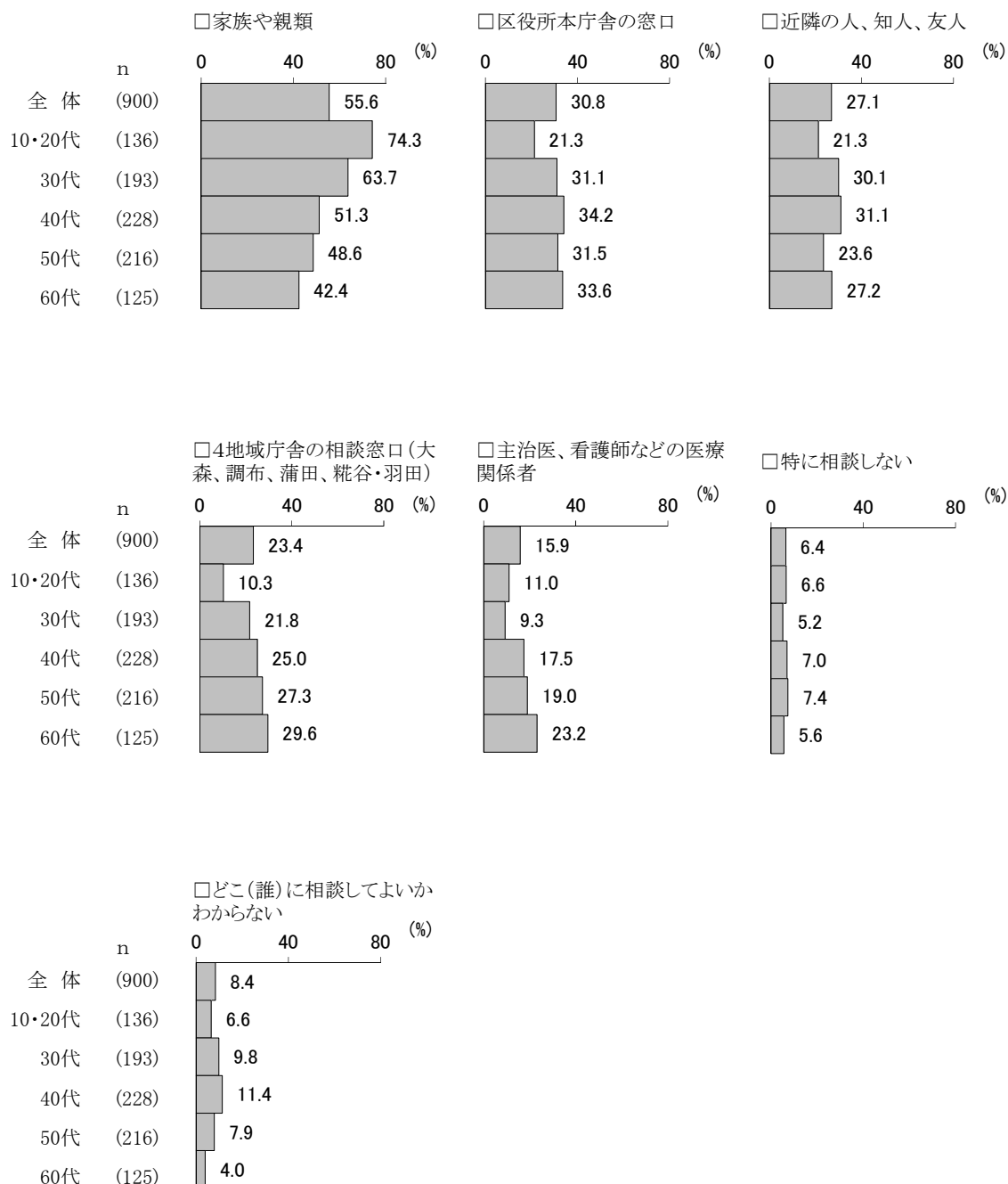
<図表 2-6> 年齢別にみた悩みや困ったことの相談先の有無(65 歳以上)



#### (4) 悩みや困ったことの相談先（続き）

②悩みや困ったことの相談先について、18～64歳全体では「家族や親類」が55.6%と最も高く、次いで「区役所本庁舎の窓口」が30.8%「近所の人、知人、友人」が27.1%の順となっている。年齢別にみると、「家族や親類」は、すべての年齢層で最も高くなっているが、年齢が高くなるにつれて減少する傾向にある。一方、「4地域庁舎の相談窓口(大森、調布、蒲田、糎谷・羽田)」及び「主治医・看護師などの医療関係者」は年齢が高くなるにつれて増加する傾向にある。

＜図表2-7＞ 年齢別にみた悩みや困ったことの相談先(18～64歳)



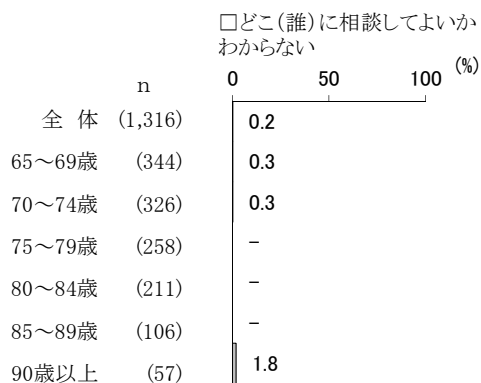
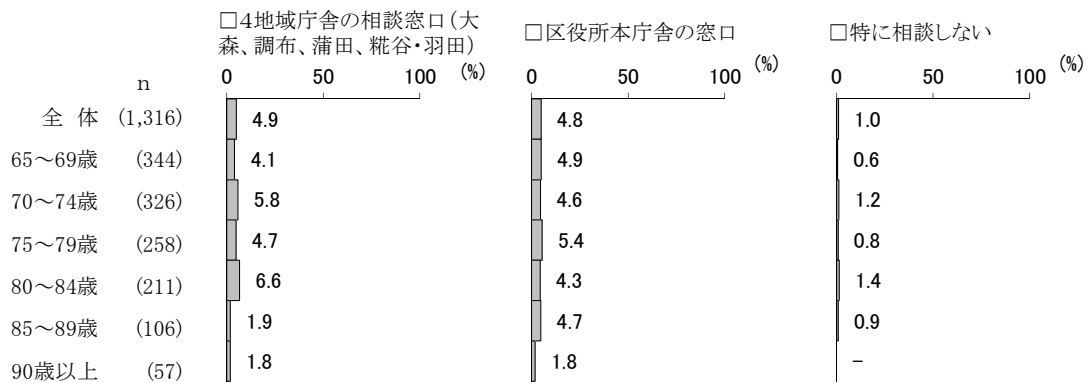
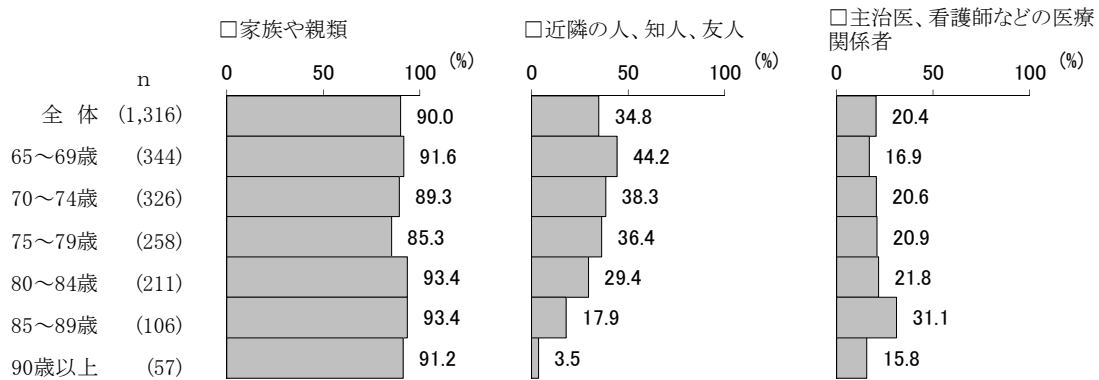
※ 回答数の上位5つのグラフと、「特に相談しない」、「どこ(誰)に相談してよいかわからない」のグラフを抜粋して掲載

#### (4) 悩みや困ったことの相談先 (続き)

③悩みや困ったことの相談先として、65歳以上全体では「家族や親類」が90.0%と最も高く、次いで「近所の人、知人、友人」が34.8%となっている。

年齢別にみると、「家族や親類」は、すべての年齢層で85%を超え、最も高くなっている。「近所の人、知人、友人」は年齢が高くなるにつれて減少する傾向にある。

<図表2-8> 年齢別にみた悩みや困ったことの相談先(65歳以上)

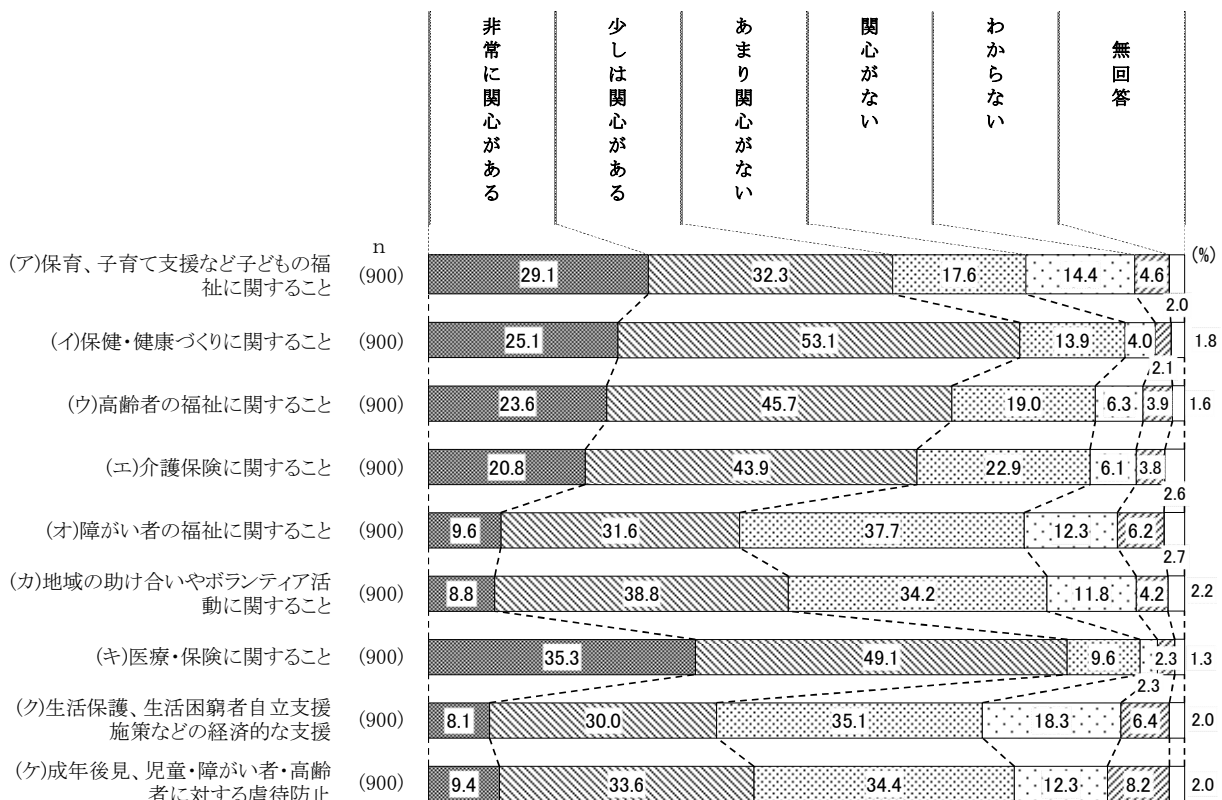


※ 回答数の上位5つのグラフと、「特に相談しない」、「どこ(誰)に相談してよいかわからない」のグラフを抜粋して掲載

## (5) 福祉についての関心度【若問 15】

①18～64歳が関心のある福祉分野については、「非常に関心がある」と「少しは関心がある」を合わせた『関心がある』の高い順にみると、「医療・保険に関すること」が84.4%で最も高く、次いで「保健・健康づくりに関すること」が78.2%、「高齢者の福祉に関すること」が69.3%の順となっている。

<図表2-9> 関心のある福祉分野(18～64歳)

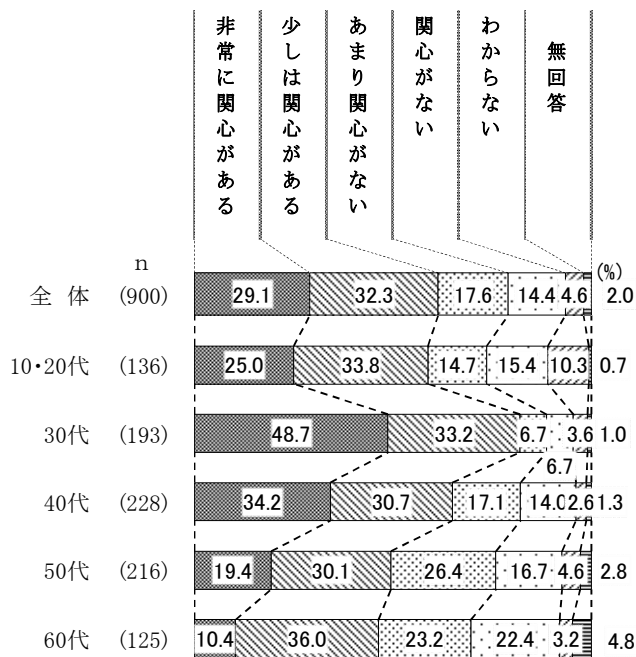


(5) 福祉についての関心度 (続き)

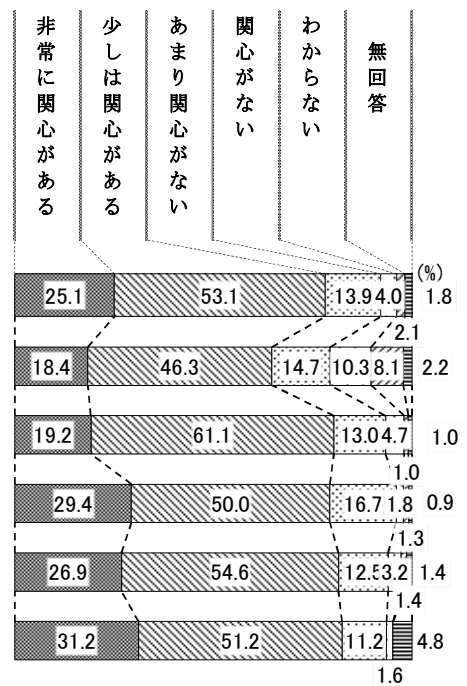
②関心のある福祉分野を年齢別にみると、「高齢者の福祉に関すること」「介護保険に関すること」「障がい者の福祉に関すること」については年齢が高くなるにつれて関心も高くなる傾向にある。一方、「保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること」は30代が81.9%と最も高く、40代以降は減少する傾向にある。

<図表2-10> 年齢別にみた関心のある福祉分野(18~64歳)

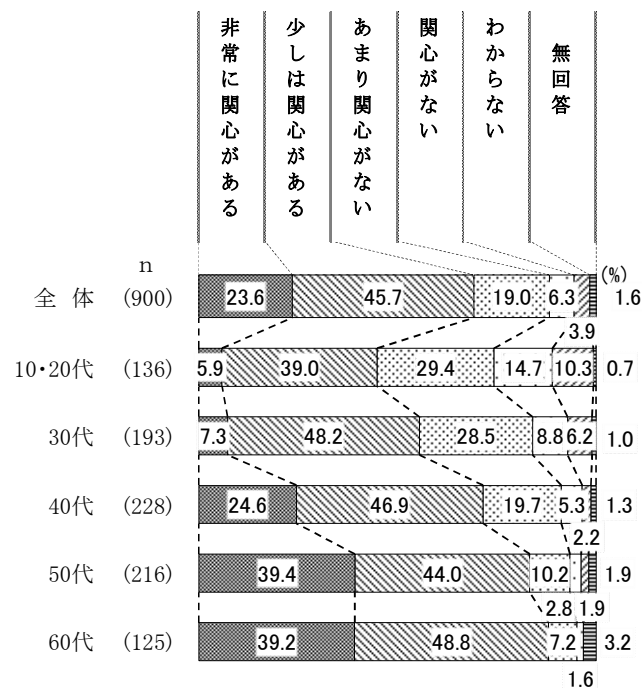
(ア) 保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること



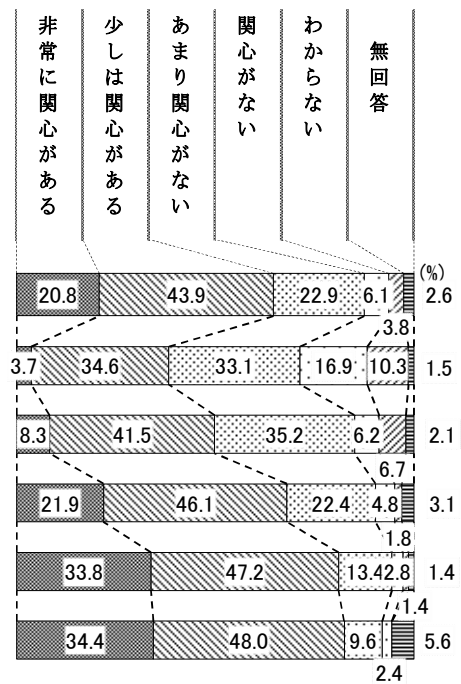
(イ) 保健・健康づくりに関すること



(ウ) 高齢者の福祉に関すること

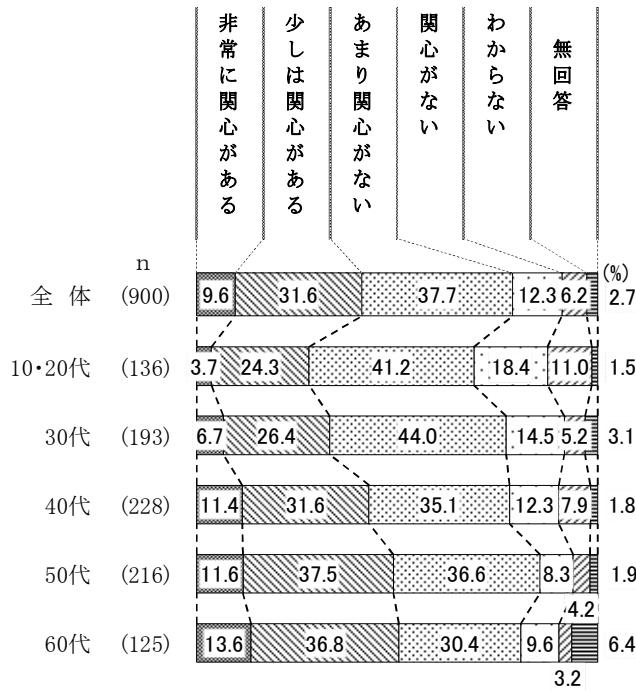


(エ) 介護保険に関すること

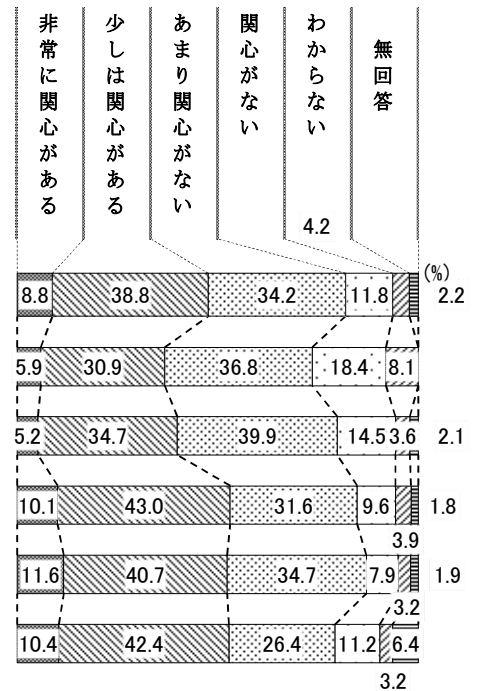


(5) 福祉についての関心度 (続き)

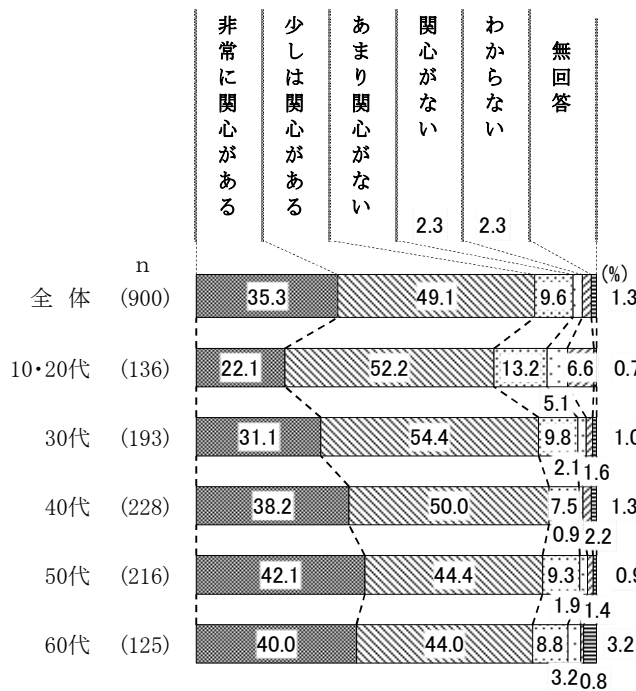
(オ) 障がい者の福祉に関すること



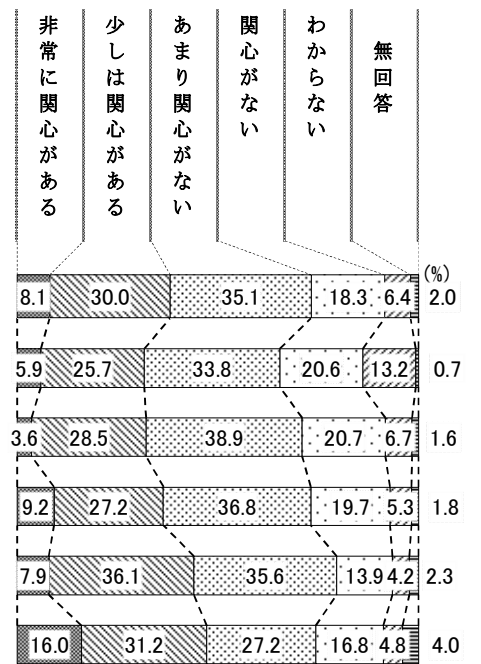
(カ) 地域の助け合いやボランティア活動



(キ) 医療・保険に関すること

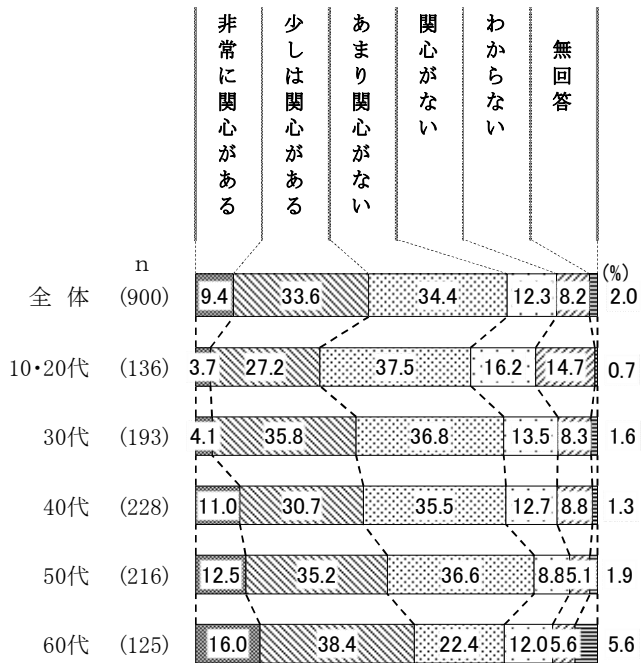


(ク) 生活保護、生活困窮者自立支援施策などの経済的な支援に関すること



(5) 福祉についての関心度 (続き)

(ケ) 成年後見、児童・障がい者・高齢者に対する  
虐待防止などの権利擁護に関すること





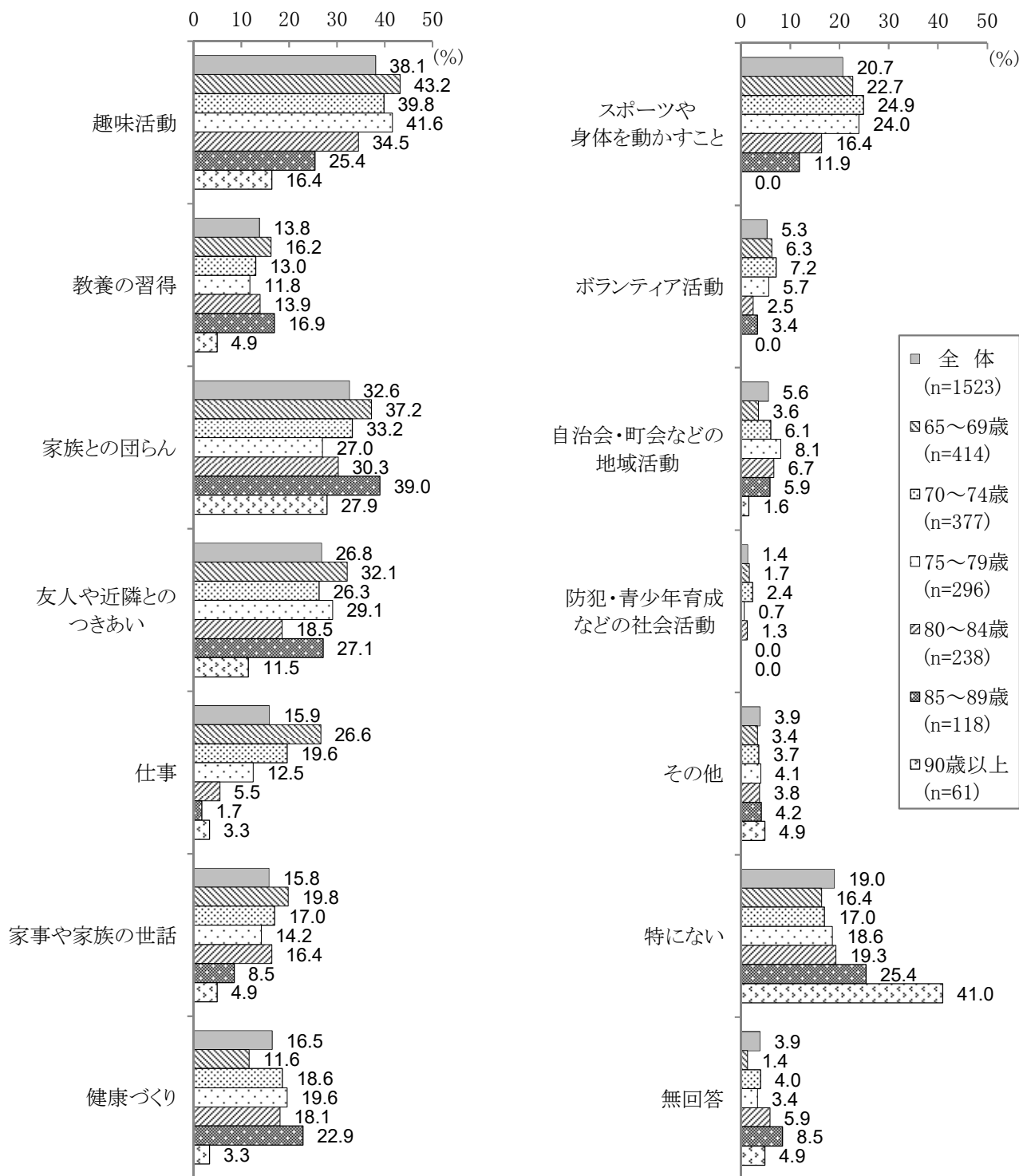
### 3. 社会参加、生きがいについて

#### (1) 高齢期の生きがい【高問 15、問 16】

①65歳以上の生きがいについて、全体では「趣味活動」が38.1%で最も高く、次いで「家族との団らん」が32.6%、「友人や近隣とのつきあい」が26.8%の順となっている。

年齢別で見ると、65～69歳、75～79歳で「趣味活動」、85～89歳で「家族との団らん」が高くなっている。

<図表3-1> 年齢別にみた生きがいを感じていること(65歳以上)

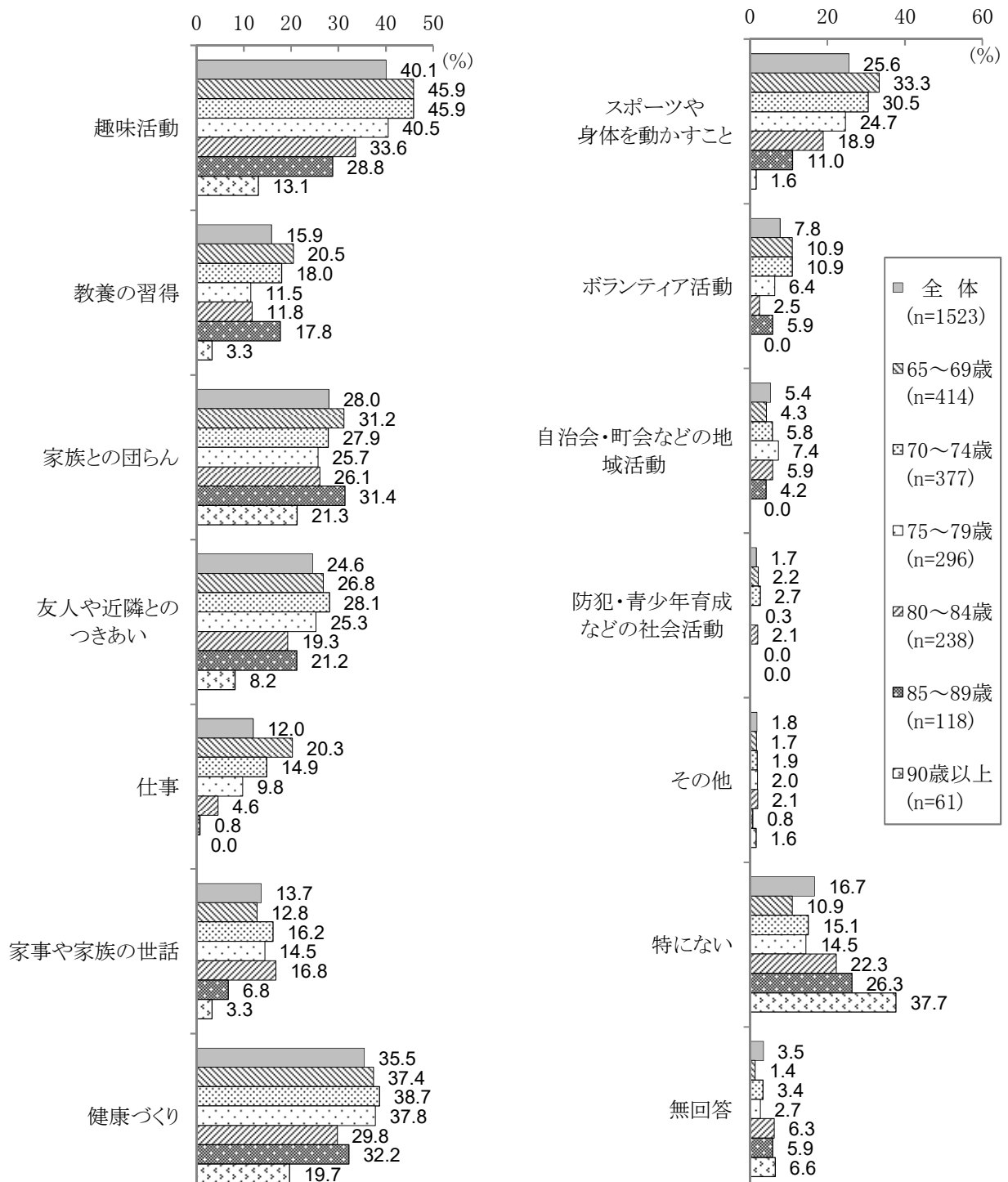


(1) 高齢期の生きがい (続き)

②65歳以上の今後やってみたいことについて、全体では「趣味活動」が40.1%で最も高く、次いで「健康づくり」が35.5%、「家族との団らん」が28.0%の順となっている。

年齢別で見ると、「趣味活動」は65～79歳で40%を超えている。「趣味活動」「健康づくり」「スポーツや身体を動かすこと」は90歳以上を除く年齢層で高くなっている。90歳以上では「特にない」を除き「家族との団らん」が21.3%で最も高くなっている。

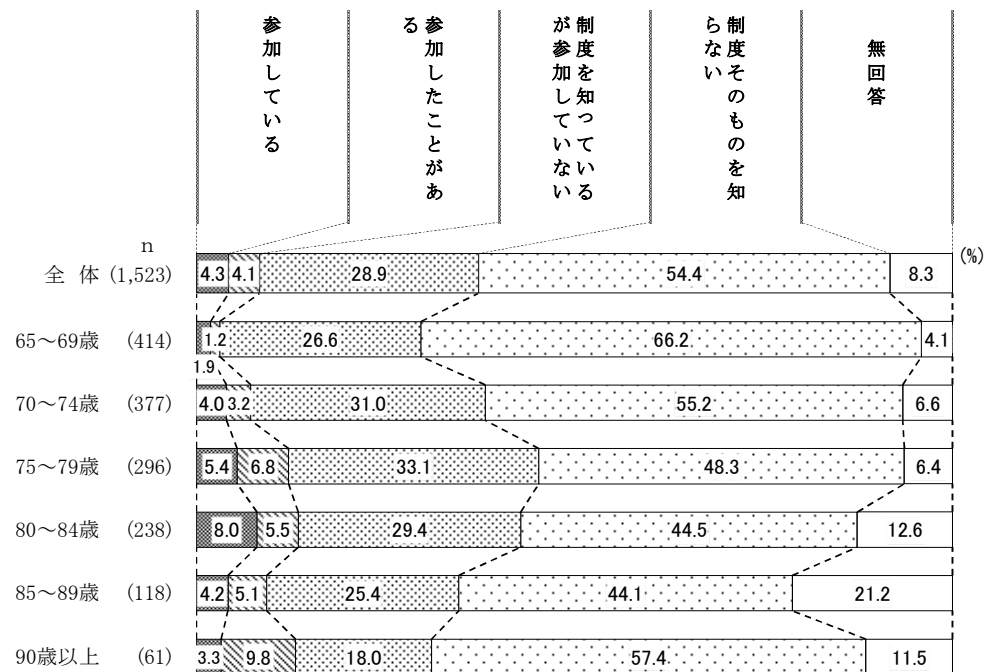
<図表3-2> 年齢別にみた今後やってみたいこと (65歳以上)



## (2) 高齢期の社会参加【高問 17～問 19-1】

①シニアクラブへの参加状況について、「参加している」と「参加したことがある」を合わせると 65 歳以上全体で 8.4%となっている。一方、「制度そのものを知らない」は 54.4%となっている。年齢別にみると、「参加している」は 80～84 歳で 8.0%となっている。「制度そのものを知らない」は 65～69 歳で 66.2%となっている。

＜図表 3-3＞ 年齢別にみたシニアクラブの参加状況 (65 歳以上)

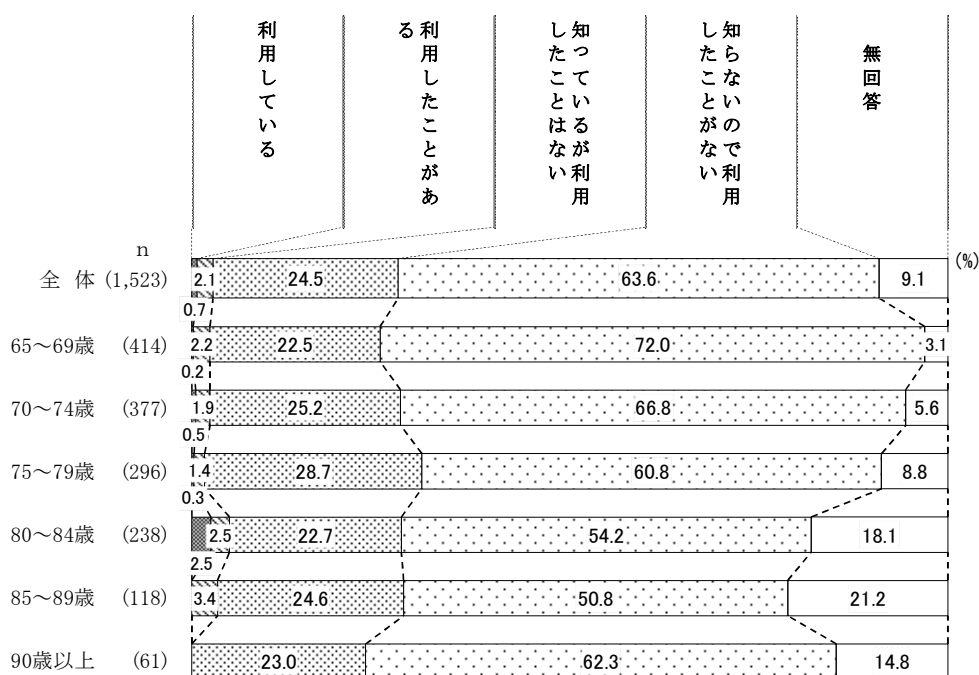


## (2) 高齢期の社会参加（続き）

②大田区いきいきしごとステーションの利用状況について、「利用している」と「利用したことがある」を合わせると65歳以上全体で2.8%となっている。一方、「制度そのものを知らない」は63.6%となっている。

年齢別にみると、「利用している」は80～84歳で2.5%となっている。「制度そのものを知らない」は65～69歳で72.0%となっている。

<図表3-4> 年齢別にみた大田区いきいきしごとステーションの利用状況(65歳以上)

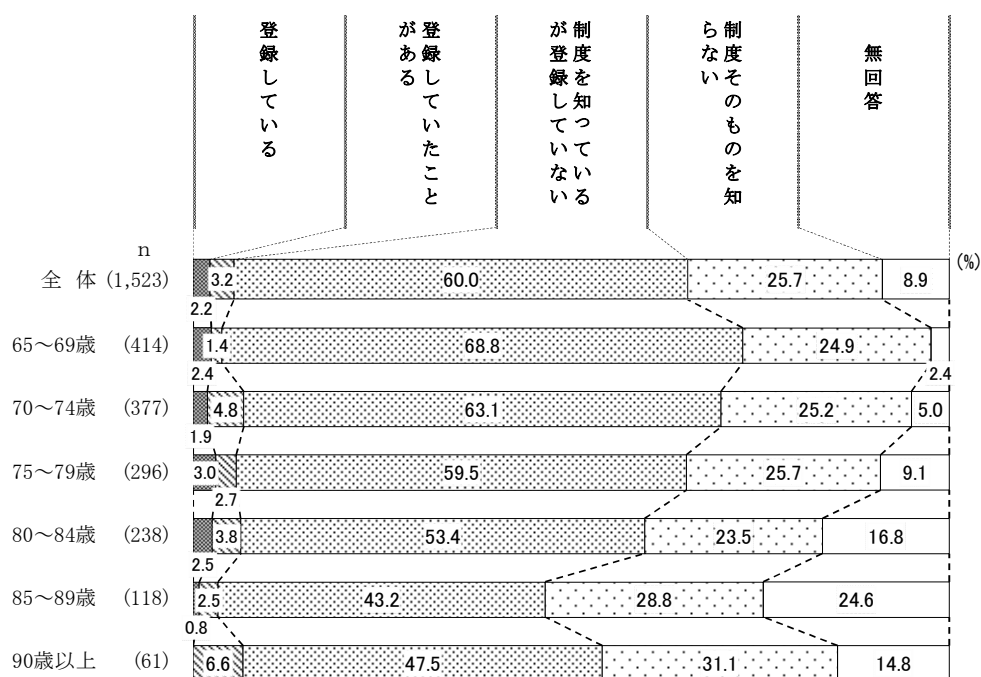


## (2) 高齢期の社会参加 (続き)

③シルバー人材センターの登録状況について、「登録している」と「登録していたことがある」を合わせると65歳以上全体で5.4%となっている。一方、「制度を知っているが登録していない」は60.0%となっている。

年齢別にみると、「登録している」は75～79歳で3.0%となっている。「制度そのものを知らない」は年齢が高くなるにつれて増加する傾向にある。

<図表3-5> 年齢別にみたシルバー人材センターの登録状況(65歳以上)

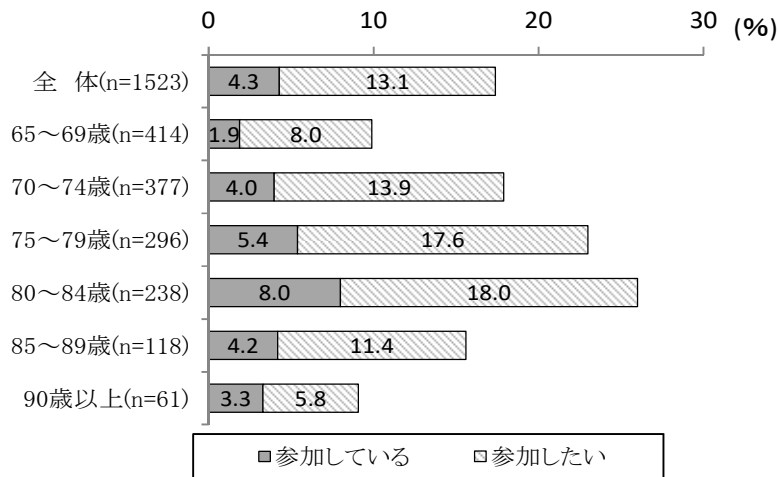


## (2) 高齢期の社会参加（続き）

④シニアクラブへの参加状況は、「参加している」4.3%、「参加したい」13.1%を合わせると65歳以上全体で17.4%となっている。

年齢別にみると、参加意向は84歳までは増加し、85歳以降は減少している。

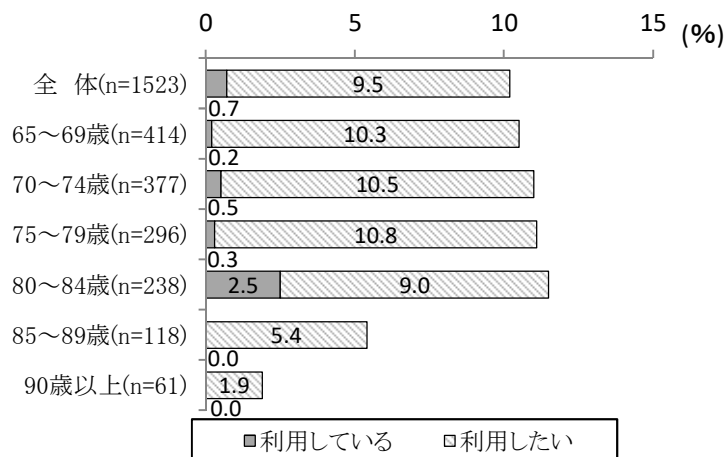
<図表3-6> 年齢別にみたシニアクラブの参加状況(65歳以上)



⑤大田区いきいきしごとステーションの利用状況は、「利用している」0.7%、「利用したい」9.5%を合わせると65歳以上全体で10.2%となっている。

年齢別にみると、利用状況は79歳まで10%台で推移している。

<図表3-7> 年齢別にみた大田区いきいきしごとステーションの利用状況(65歳以上)

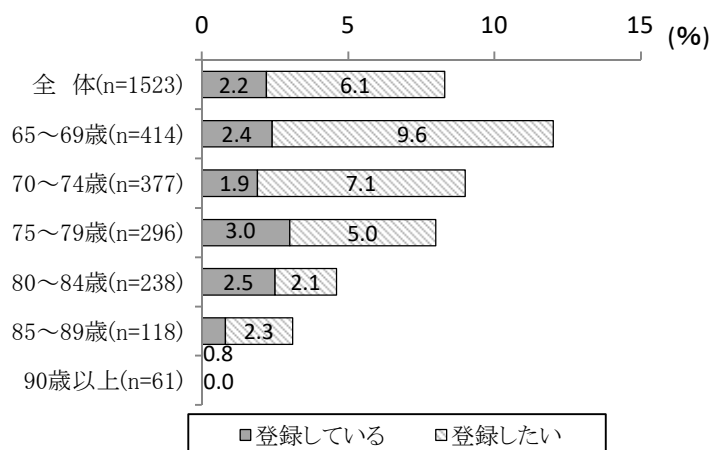


## (2) 高齢期の社会参加 (続き)

⑥シルバー人材センターに「登録している」2.2%、「登録したい」6.1%を合わせると65歳以上全体で8.3%となっている。

年齢別にみると、登録意向は年齢が高くなるにつれて減少する傾向がある。

<図表3-8> 年齢別にみたシルバー人材センターの登録意向(65歳以上)



## 4. ご近所・地域について

### (1) 住んでいる地域への愛着【若問 16、問 16-1】【高問 20、問 20-1】

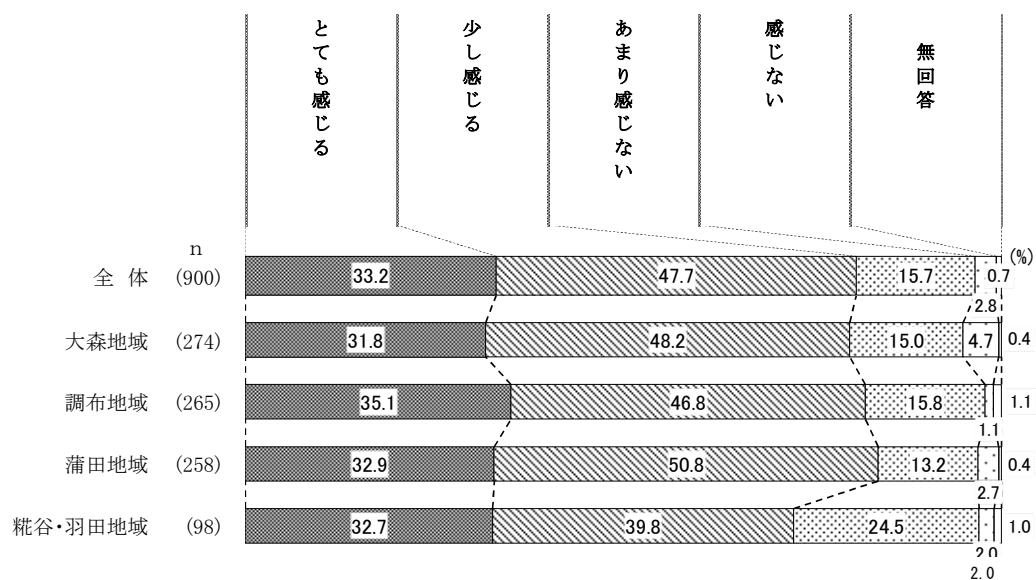
①住んでいる地域への愛着について、18～64歳全体では「少し感じる」が47.7%で最も高くなっている。また、「とても感じる」と「少し感じる」を合わせると80.9%となっている。

65歳以上全体では、「少し感じる」が41.3%で最も高くなっており、「とても感じる」と「少し感じる」を合わせると76.8%となっている。

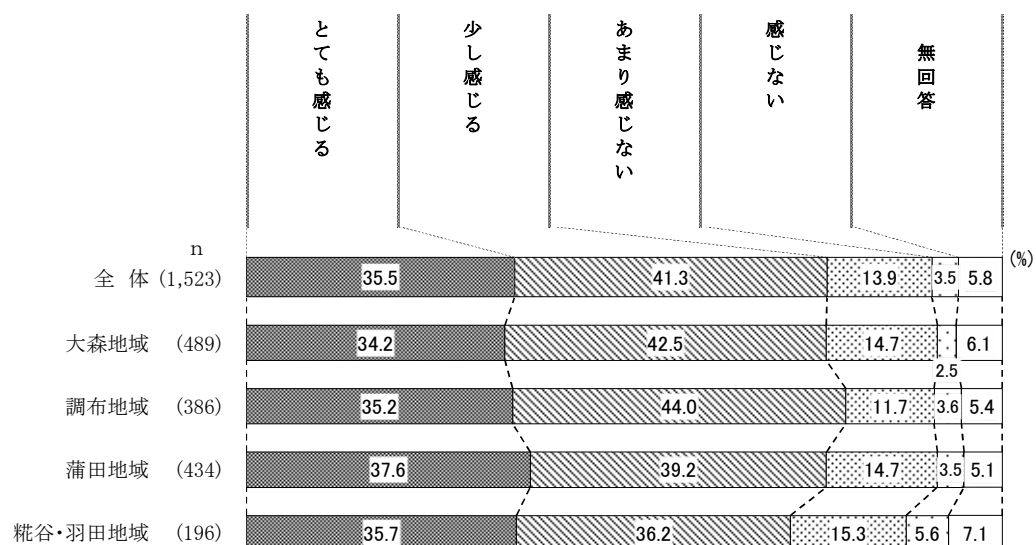
地域別にみると、18～64歳では「とても感じる」は調布地域が最も高く、35.1%となっている。

65歳以上では、「とても感じる」は蒲田地域が最も高く、37.6%となっている。

＜図表 4－1＞ 居住地域別にみた住んでいる地域への愛着(18～64歳)



＜図表 4－2＞ 居住地域別にみた住んでいる地域への愛着(65歳以上)

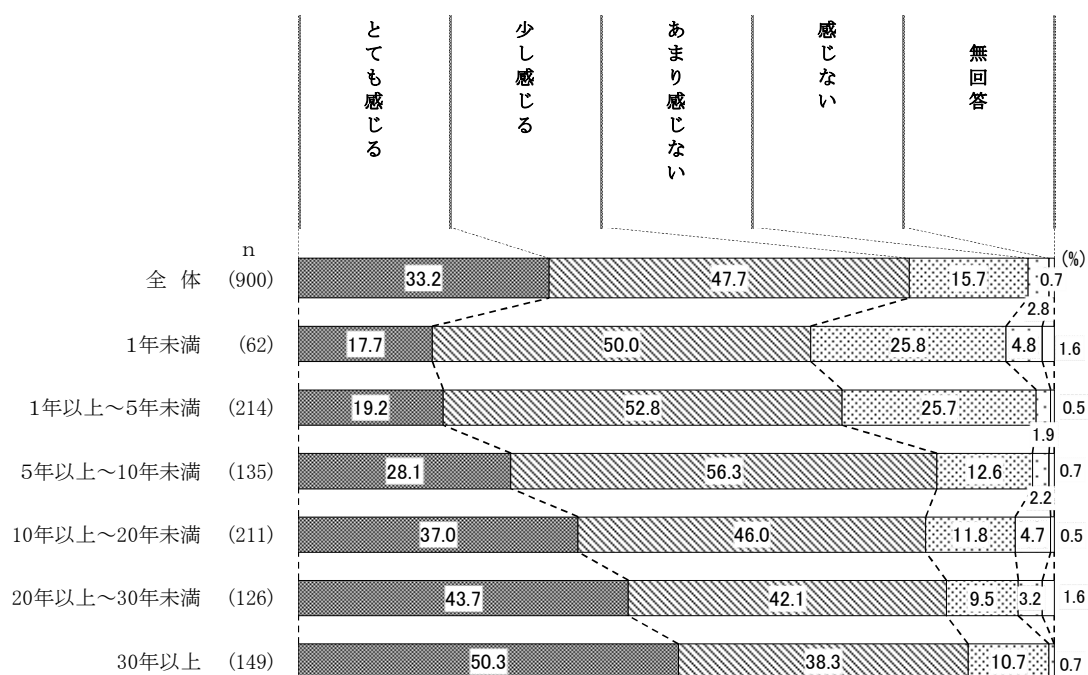




## (1) 住んでいる地域への愛着（続き）

②18～64歳の居住年数別では、「とても感じる」は30年以上で50.3%と最も高く、居住年数が上がるにつれて「とても感じる」は高くなる傾向にある。「とても感じる」と「少し感じる」を合わせると80.9%となっている。

＜図表4-3＞ 居住年数別にみた住んでいる地域への愛着（18～64歳）

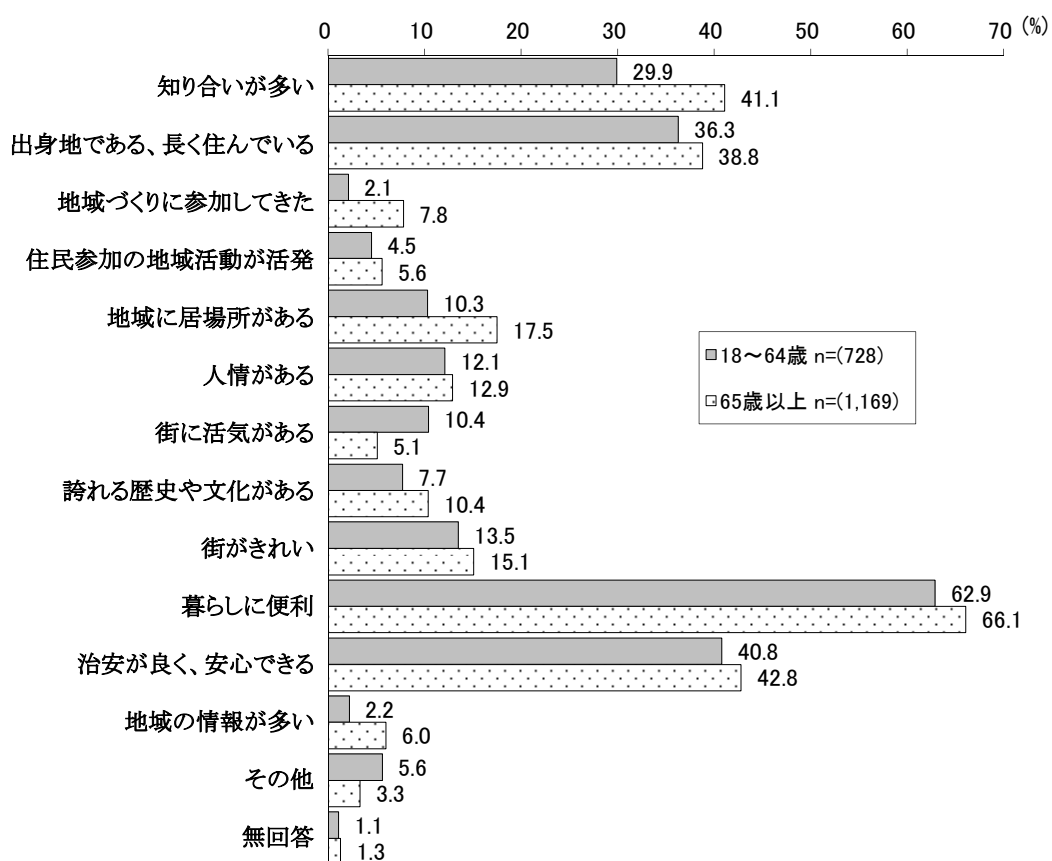


## (1) 住んでいる地域への愛着（続き）

③住んでいる地域への愛着の理由について、18～64歳では「暮らしに便利」が62.9%で最も高く、次いで「治安が良く、安心できる」が40.8%、「出身地である、長く住んでいる」が36.3%の順となっている。

65歳以上では、「暮らしに便利」が66.1%で最も高く、次いで「治安が良く、安心できる」が42.8%、「知り合いが多い」が41.1%の順となっている。

<図表4-4> 住んでいる地域への愛着の理由(18～64歳)(65歳以上)

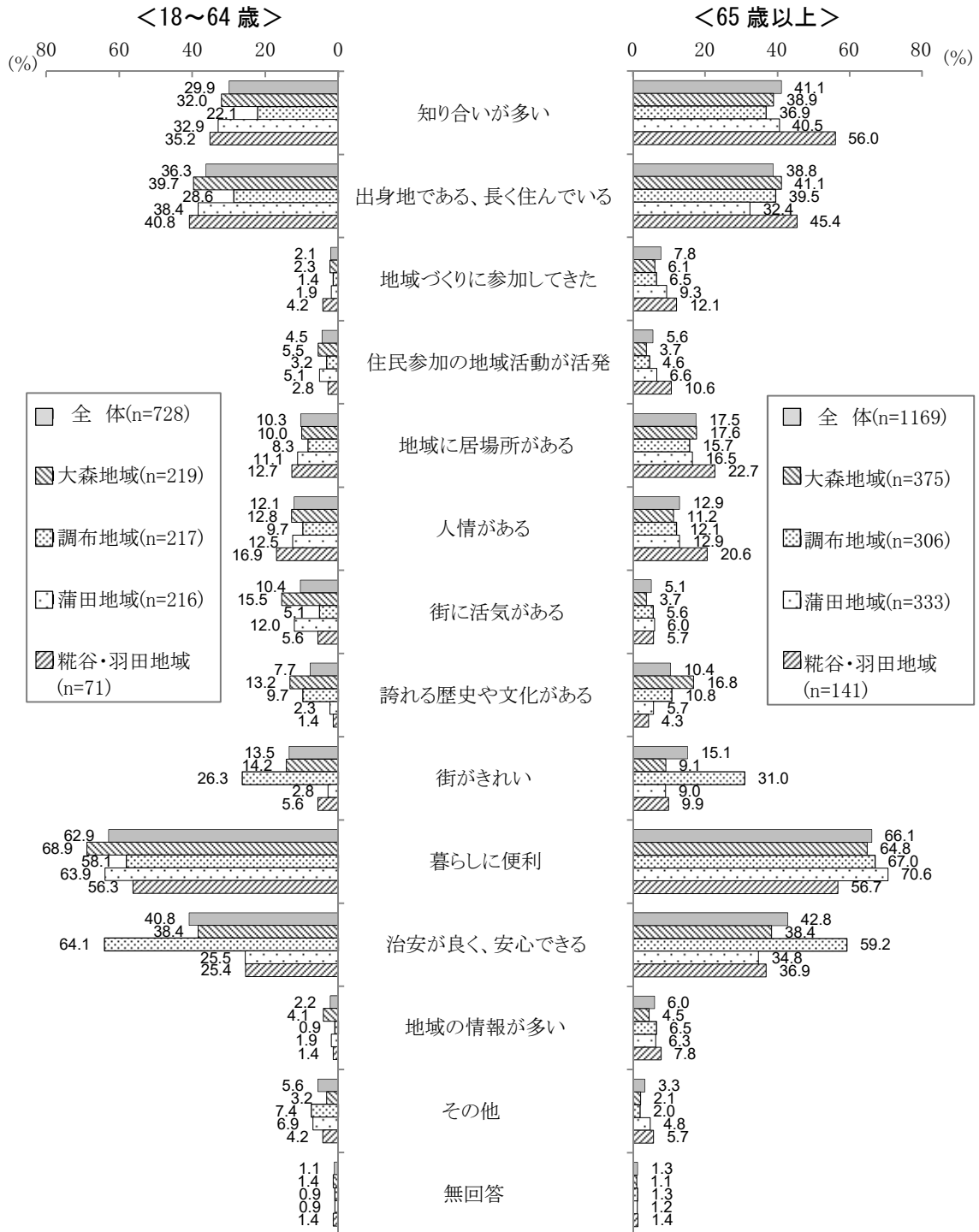


(1) 住んでいる地域への愛着 (続き)

④居住地域別にみると、18～64歳では「暮らしに便利」は大森地域、蒲田地域、糀谷・羽田地域で高く、「治安が良く、安心できる」は調布地域で高くなっている。

65歳以上では、「暮らしに便利」は大森地域、調布地域、蒲田地域で高く、「暮らしに便利」と「知り合いが多い」がほぼ同じ割合となっている。

<図表4-5> 居住地域別にみた住んでいる地域への愛着の理由(18～64歳)(65歳以上)

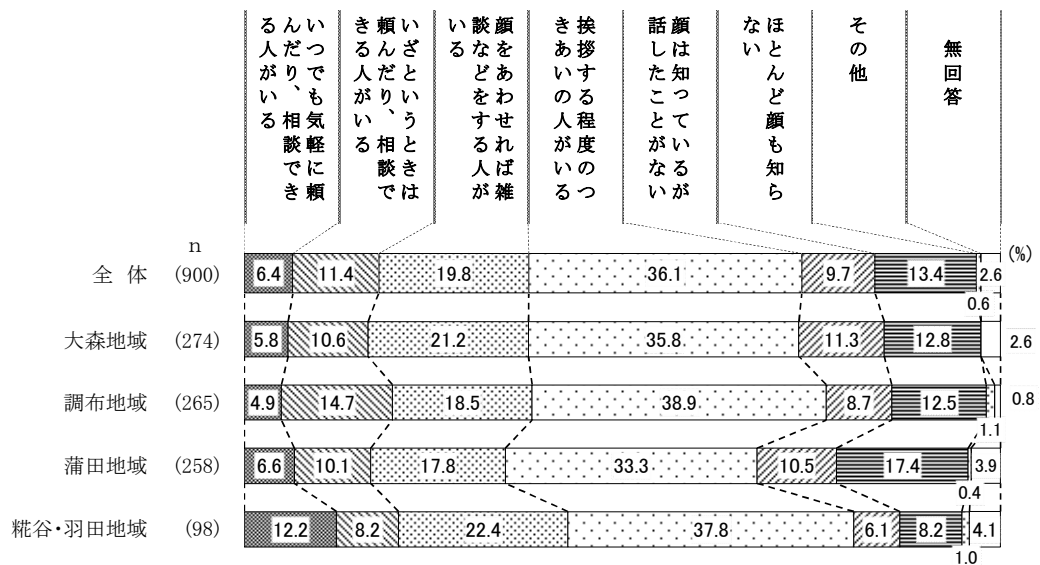


(2) 近所づきあい【若問 17～問 18】【高問 21～問 22】

①近所づきあいの現状について、18～64 歳全体では「挨拶する程度のつきあいの人がいる」が 36.1%で最も高く、次いで「顔をあわせれば雑談などをする人がいる」が 19.8%、「ほとんど顔も知らない」が 13.4%の順となっている。

居住地域別にみると、各地域とも「挨拶する程度のつきあいの人がいる」と回答する割合が高くなっている。

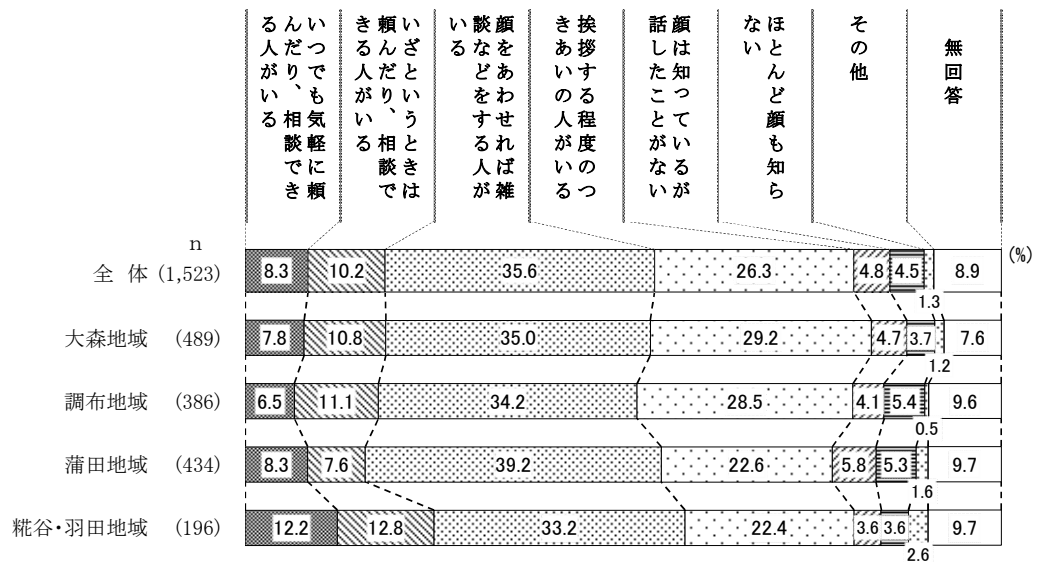
<図表 4-6> 居住地域別にみた近所づきあいの現状(18～64 歳)



②65 歳以上全体では、「顔をあわせれば雑談などをする人がいる」が 35.6%で最も高く、次いで「挨拶する程度のつきあいの人がいる」が 26.3%、「いざというときは頼んだり、相談できる人がいる」が 10.2%の順となっている。

居住地域別にみると、各地域とも「顔をあわせれば雑談などをする人がいる」と回答する割合が高くなっている。

<図表 4-7> 居住地域別にみた近所づきあいの現状(65 歳以上)

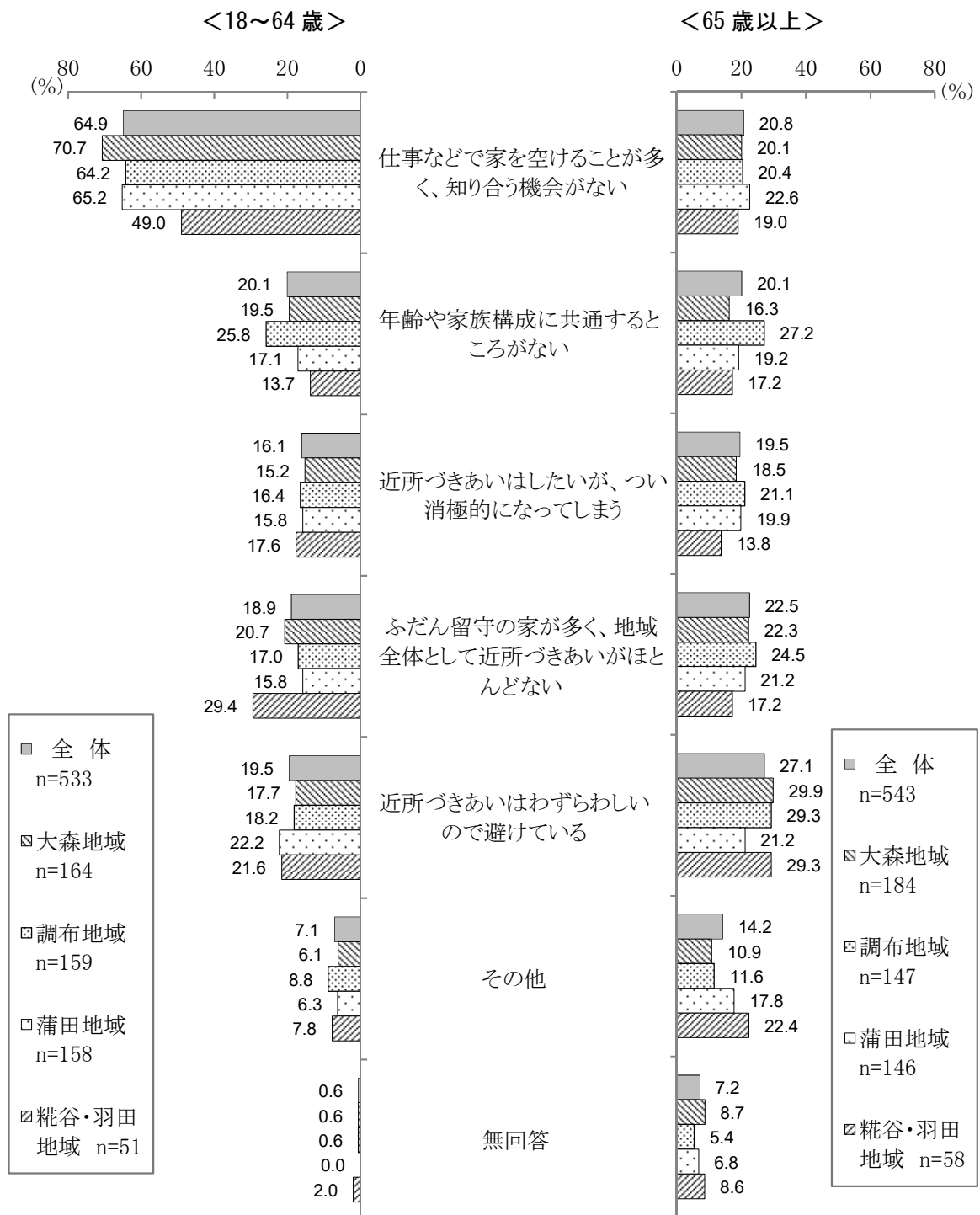


## (2) 近所づきあい (続き)

③近所づきあいをしていない理由について、18～64歳では各地域とも「仕事などで家を空けることが多く、知り合う機会がない」と回答する割合が高くなっている。

65歳以上では蒲田地域を除く各地域で「近所づきあいはわずらわしいので避けている」と回答する割合が高くなっている。

<図表4-8> 居住地域別にみた近所づきあいをしていない理由(18～64歳)(65歳以上)

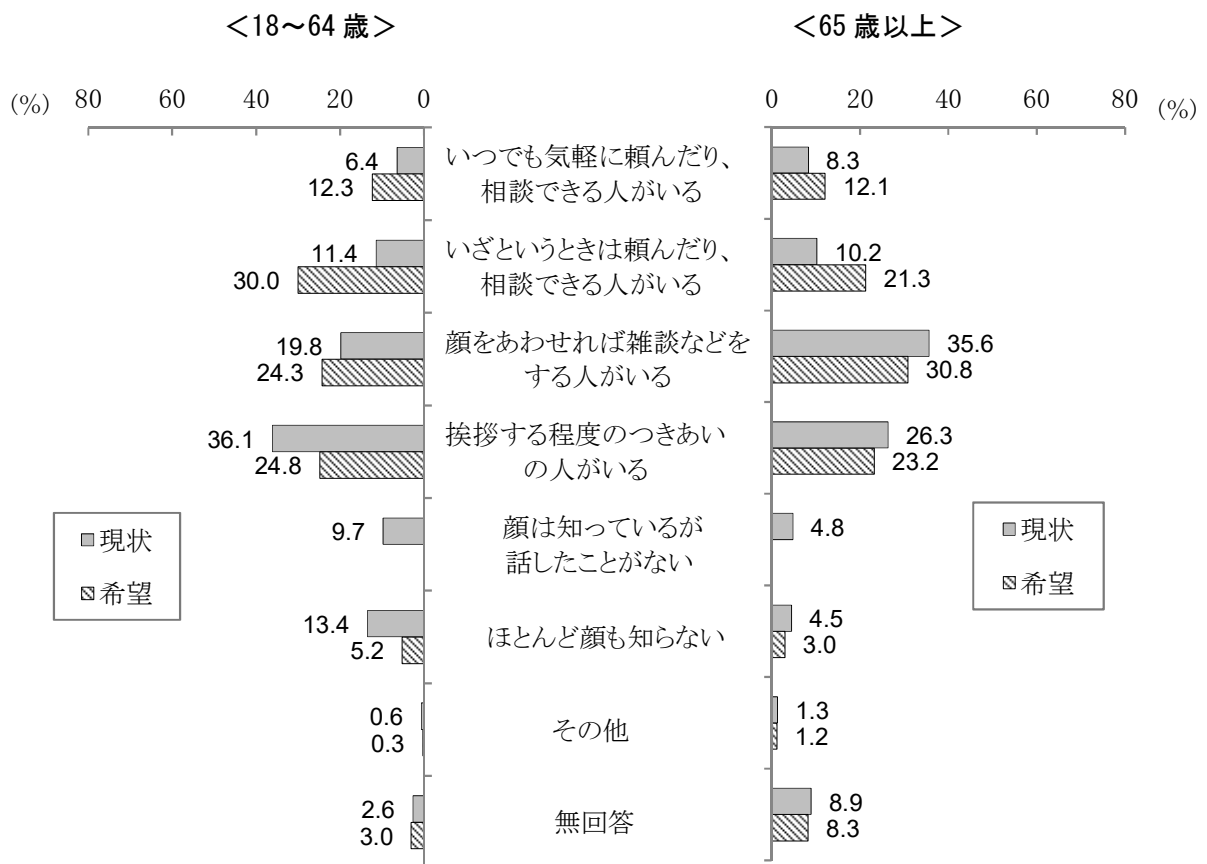


## (2) 近所づきあい (続き)

④近所づきあいの現状について、18～64歳では「挨拶する程度のつきあいの人がいる」が36.1%で最も高く、希望する近所づきあいについては、「いざというときは頼んだり、相談できるつきあい」が30.0%で最も高くなっている。

65歳以上では、現状については「顔をあわせれば雑談などをする人がいる」が35.6%で最も高く、希望する近所づきあいについても「顔をあわせれば雑談などをする人がいる」が30.8%と最も高くなっている。

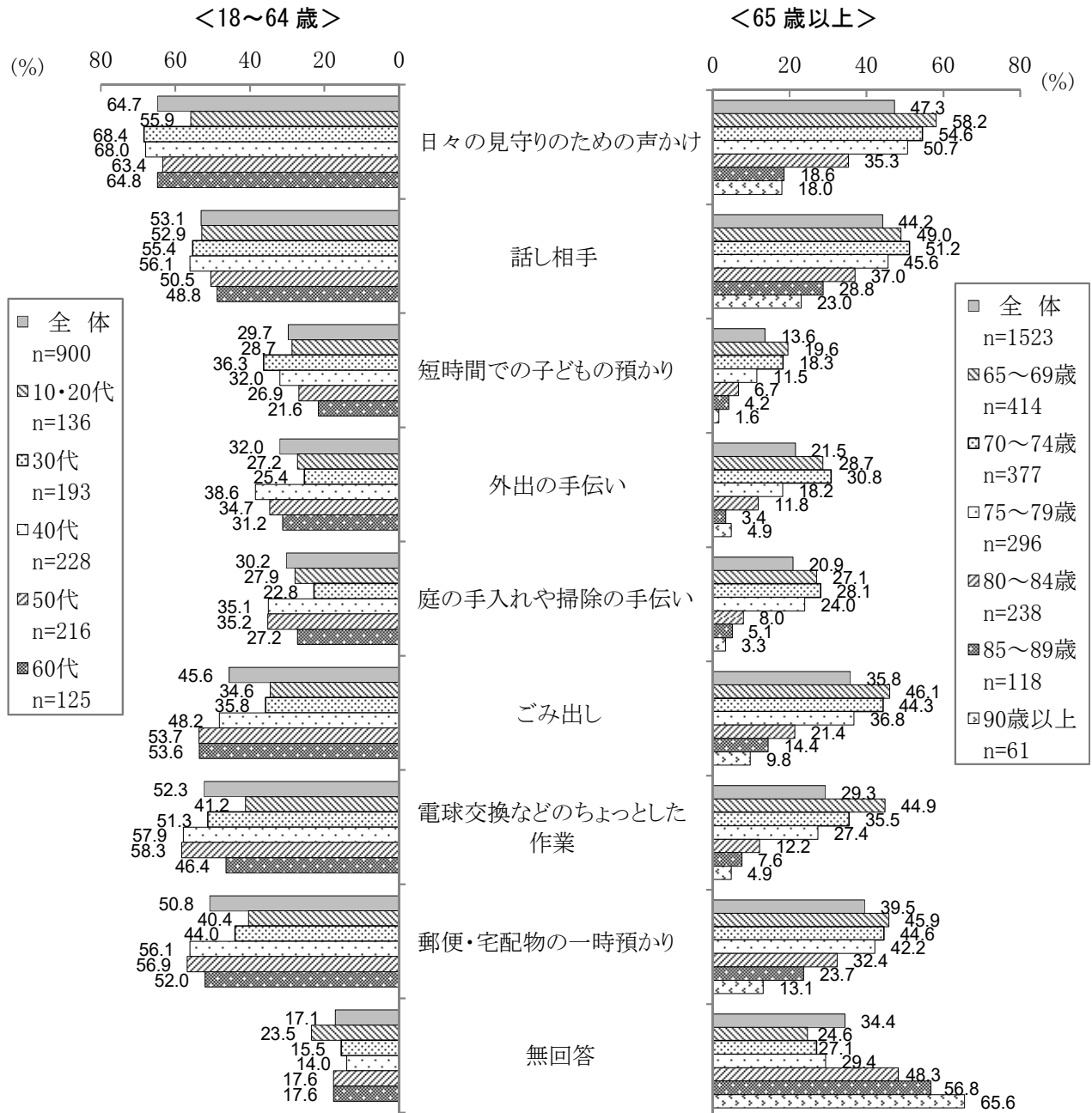
<図表4-9> 近所づきあいの現状と希望(18～64歳)(65歳以上)



(3) 近所の方への手助け【若問 19】【高問 23】

①他人に対して手助けできることについては、「日々の見守りのための声かけ」が18～64歳全体では64.7%、65歳以上全体では47.3%と最も高くなっている。  
年齢別にみた傾向は下表のとおりである。

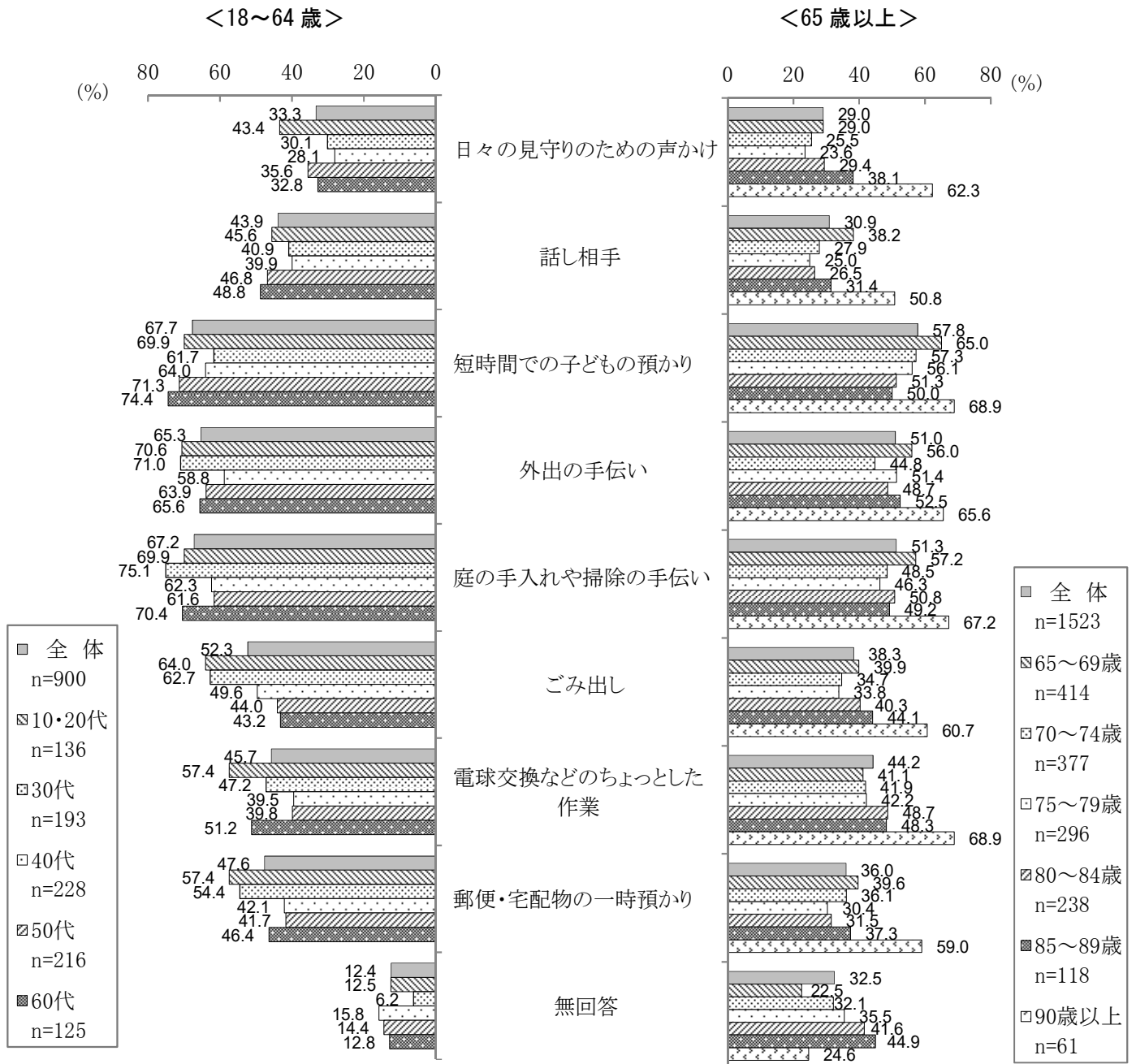
<図表4-10> 年齢別にみた他人に対して手助けできること (18～64歳) (65歳以上)



### (3) 近所の方への手助け (続き)

②他人に対して手助けできないことについては、「短時間での子どもの預かり」が18～64歳全体では67.7%、65歳以上全体では57.8%と最も高くなっている。  
年齢別にみた傾向は下表のとおりである。

<図表4-11> 年齢別にみた他人に対して手助けできないこと (18～64歳) (65歳以上)

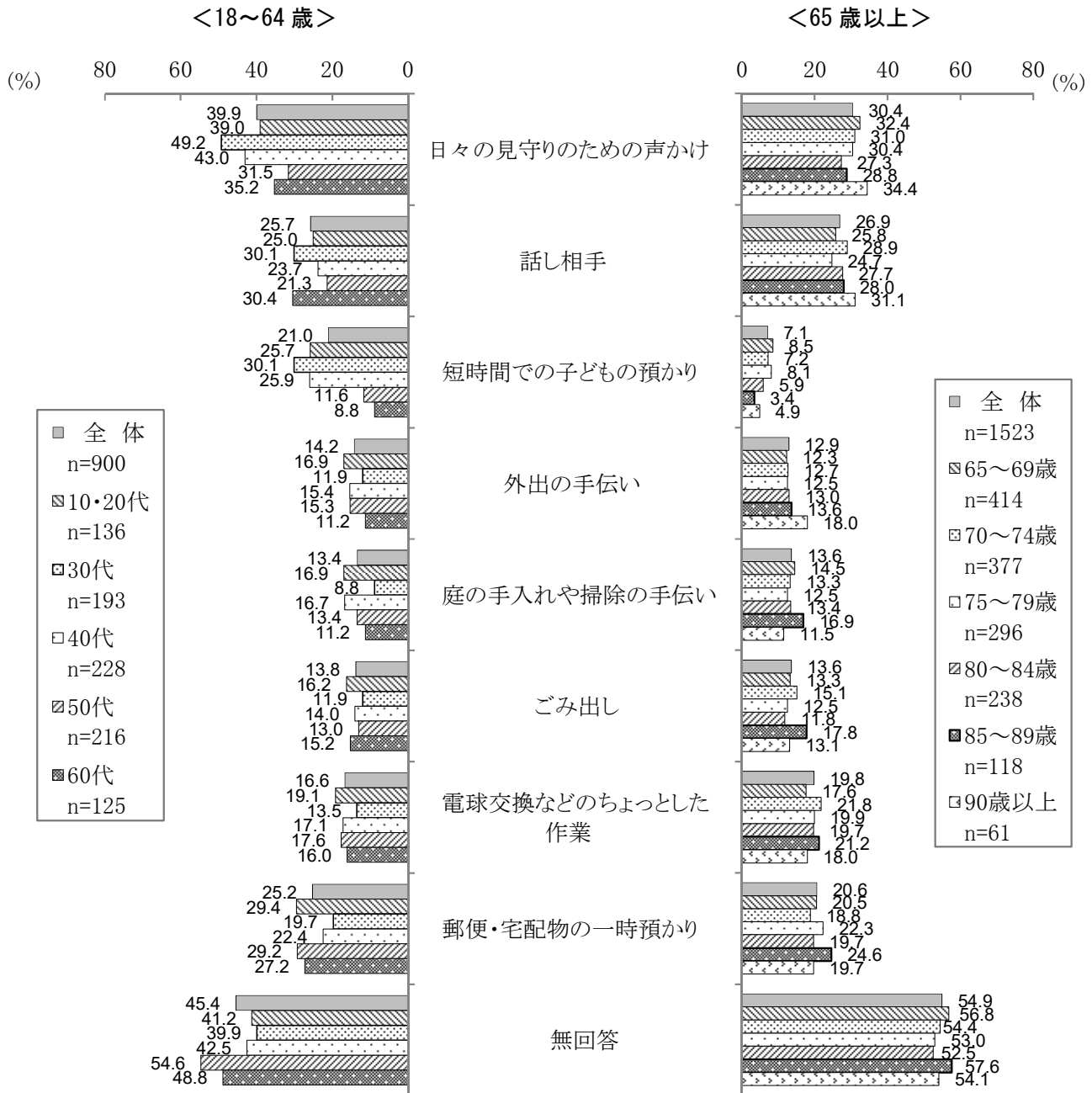




(3) 近所の方への手助け (続き)

③自分に対して手助けしてほしいことについては、「日々の見守りのための声かけ」が18～64歳全体では39.9%、65歳以上全体では30.4%と最も高くなっている。  
年齢別にみた傾向は下表のとおりである。

<図表4-12> 年齢別にみた自分に対して手助けしてほしいこと (18～64歳) (65歳以上)

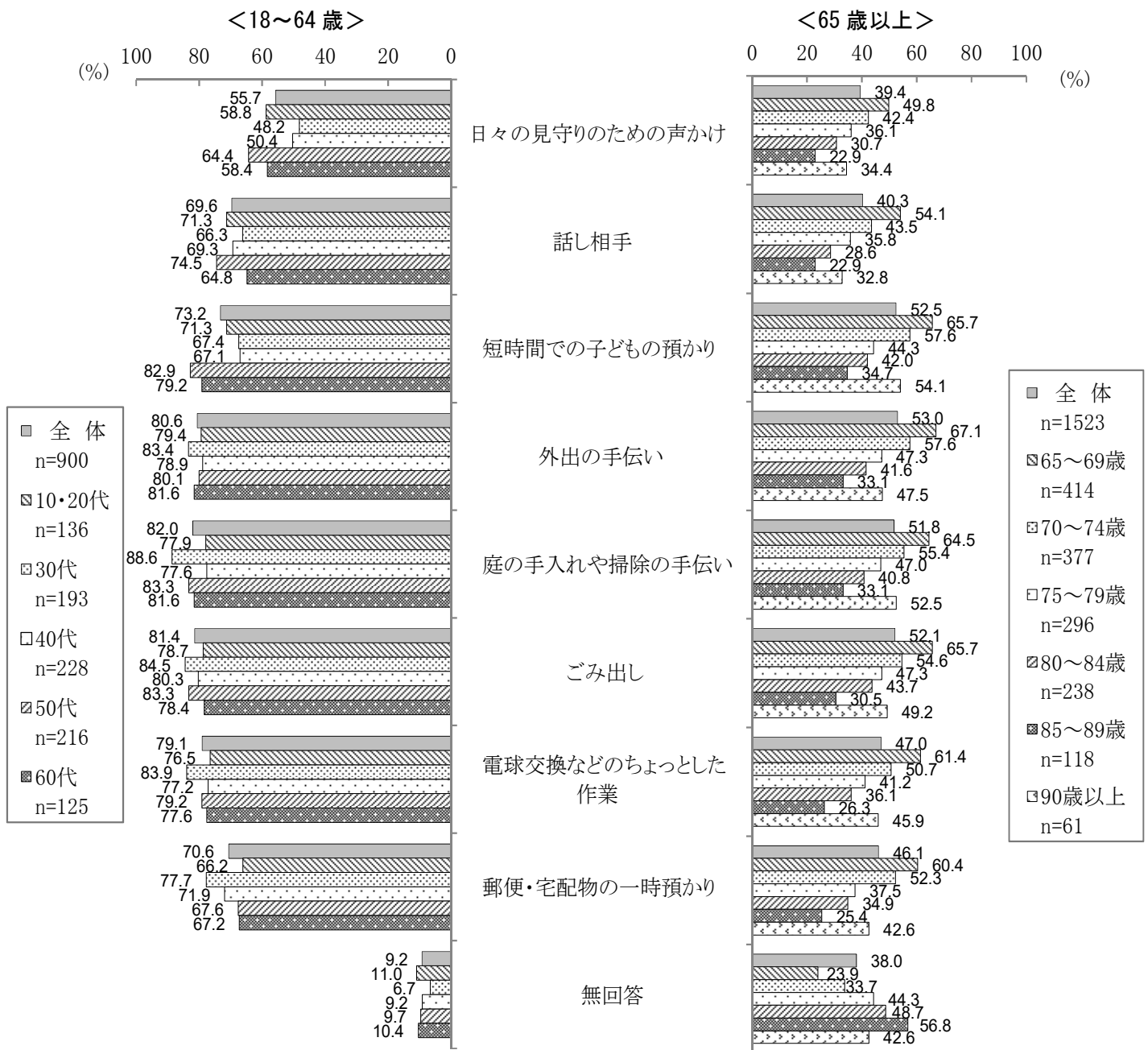


### (3) 近所の方への手助け (続き)

④自分に手助けしてほしくないことについては、「庭の手入れや掃除の手伝い」が18～64歳全体では82.0%と最も高くなっている。65歳以上全体では、「外出の手伝い」が53.0%と最も高くなっている。

年齢別にみた傾向は下表のとおりである。

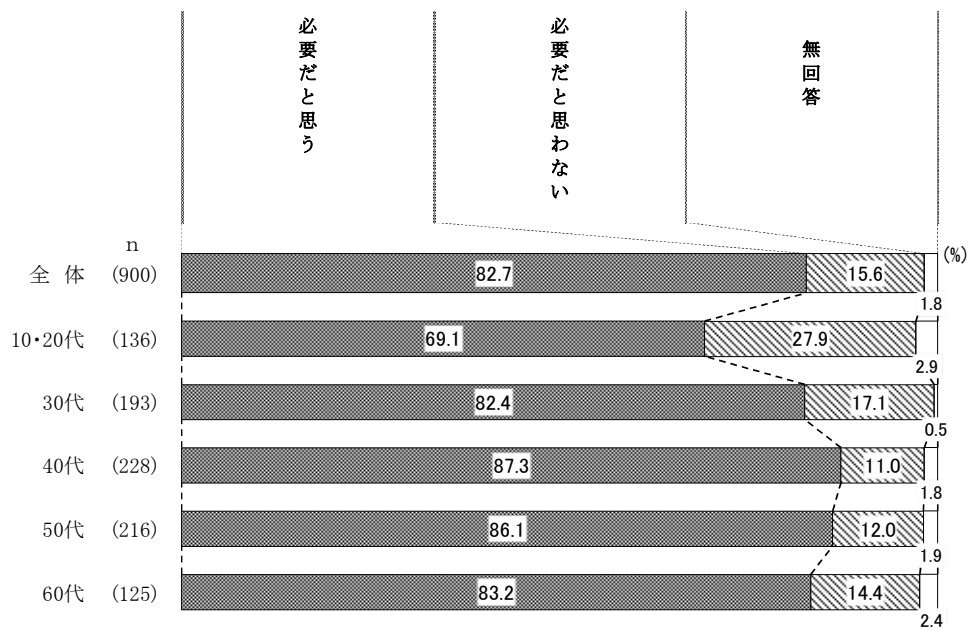
<図表4-13> 年齢別にみた自分に対して手助けしてほしくないこと (18～64歳) (65歳以上)



(4) 地域の助け合い【若問 20～問 20-3】

①地域の助け合いについては、「必要だと思う」が18～64歳全体で82.7%となっている。  
 年齢別にみると、10・20代を除く各年代で「必要だと思う」は80%を超えている。

<図表4-14> 年齢別にみた地域の助け合い(18～64歳)

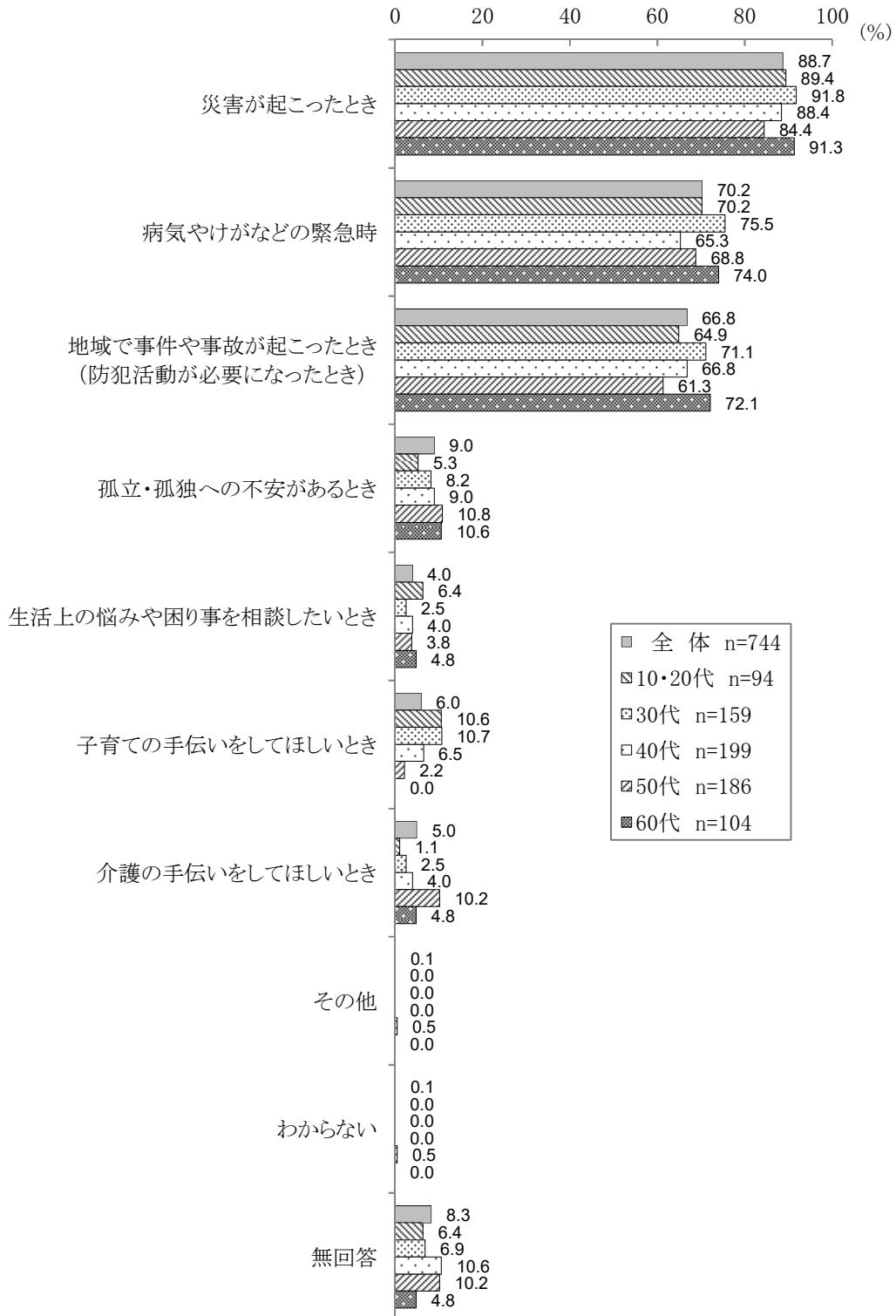


#### (4) 地域の助け合い（続き）

②地域の助け合いが必要だと思うときについては、「災害が起こったとき」が18～64歳全体で88.7%と最も高く、次いで「病気やけがなどの緊急時」が70.2%、「地域で事件や事故が起こったとき」が66.8%の順となっている。

年齢別にみると、「災害が起こったとき」がすべての年齢層で最も高くなっている。

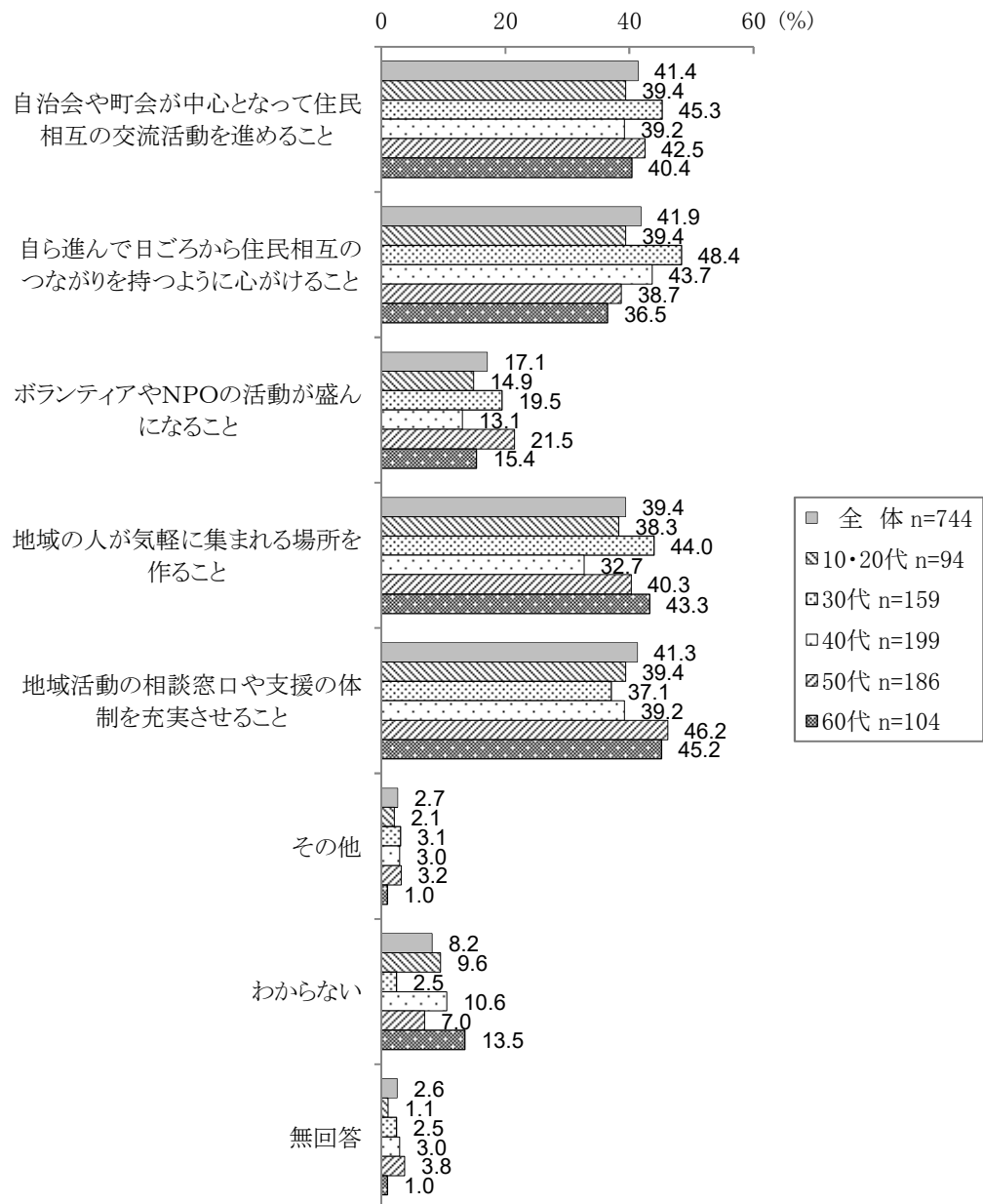
<図表4-15> 年齢別にみた地域の助け合いが必要だと思うとき(18～64歳)



#### (4) 地域の助け合い (続き)

③住民同士の支えあい、助け合いに必要なことについては、「自治会や町会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」は30代、50代、60代で39%を超えて高くなっている。また、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりを持つように心がけること」は30代、40代で40%を超えている。

<図表4-16> 年齢別にみた住民同士の支え合い、助け合いに必要なこと(18~64歳)

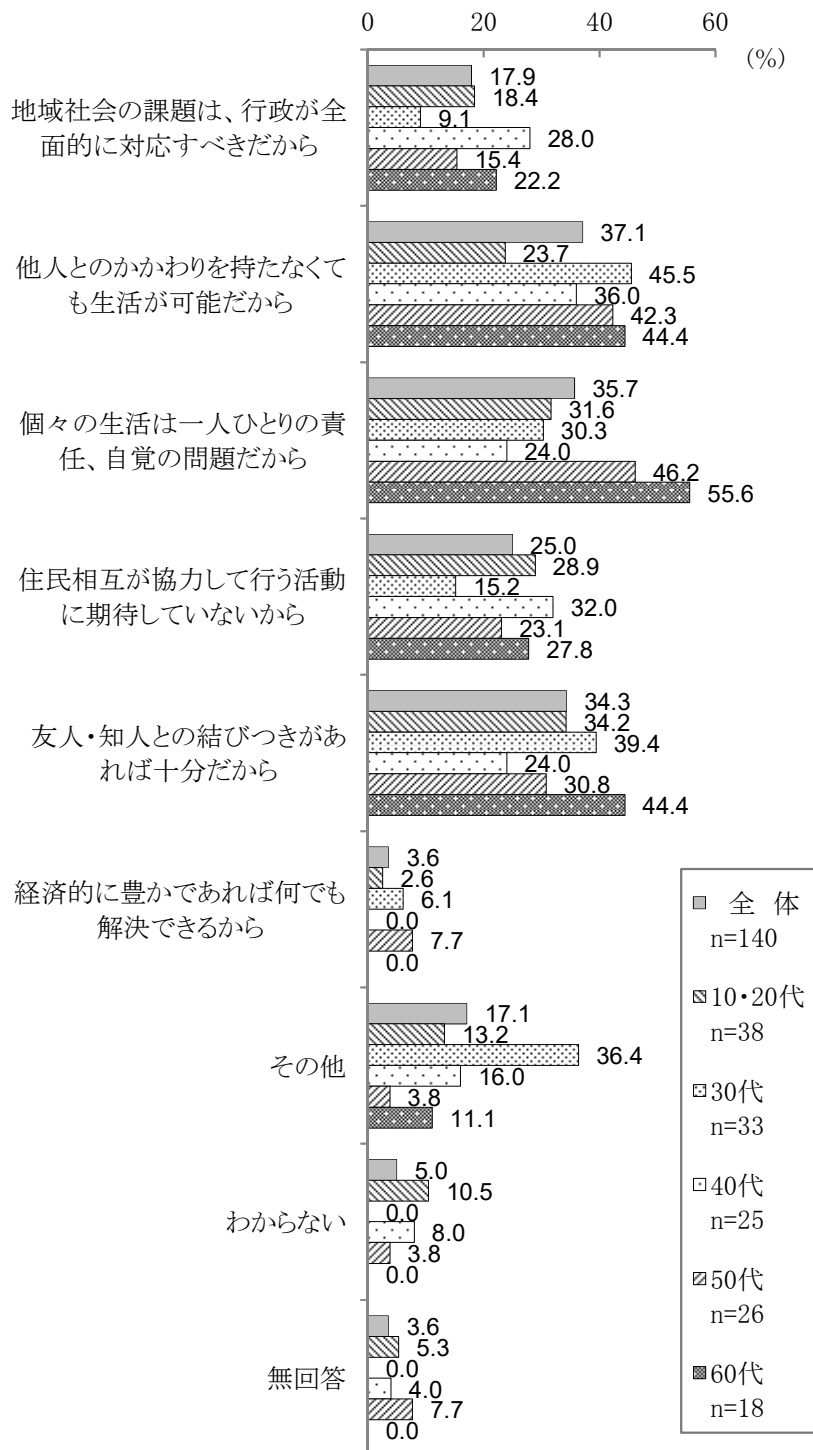


#### (4) 地域の助け合い（続き）

④住民同士の支えあい、助け合いが必要ない理由については、「他人とのかかわりを持たなくても生活が可能だから」が18～64歳全体で37.1%と最も高く、次いで「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」が35.7%、「友人・知人との結びつきがあれば十分だから」が34.3%の順となっている。

年齢別にみると、「他人とのかかわりを持たなくても生活が可能だから」は30代、40代で最も高く、「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」は50代、60代で高くなっている。

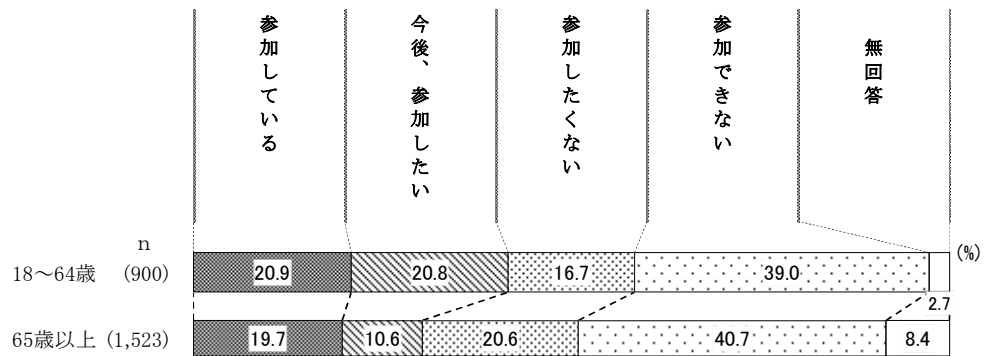
<図表4-17> 年齢別にみた住民同士の支え合い、助け合いが必要ない理由(18～64歳)



(5) 地域活動への参加【若問 21～問 21-3】【高問 26～問 26-3】

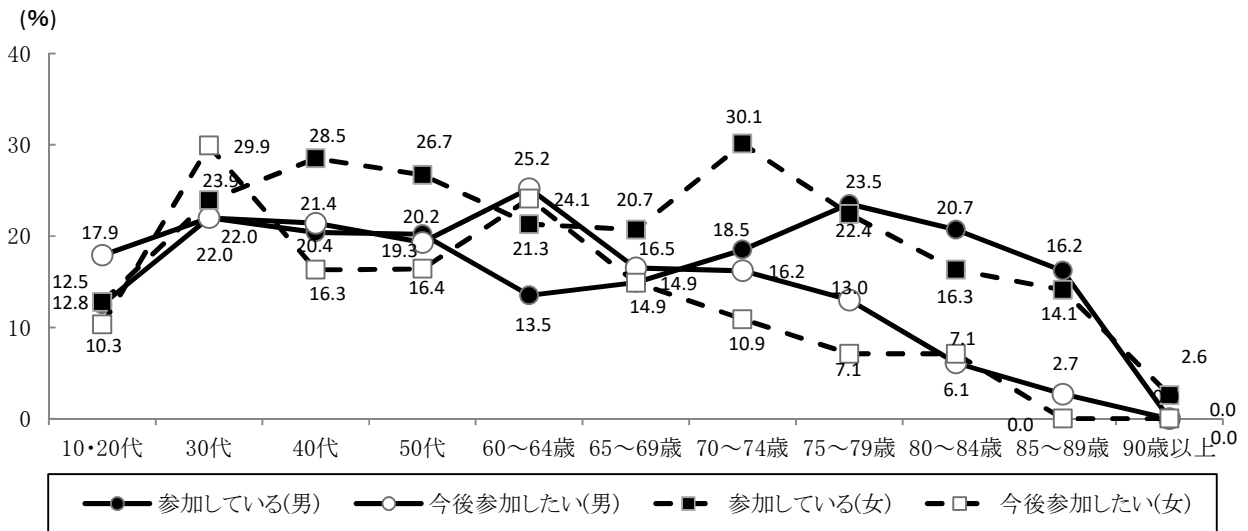
①地域活動に「参加している」は18～64歳で20.9%、65歳以上で19.7%となっている。地域活動に「今後、参加したい」は18～64歳で20.8%、65歳以上で10.6%となっている。これに「参加している」を合わせると、18～64歳では41.7%、65歳以上では30.3%となる。

<図表4-18> 地域活動への参加状況(18～64歳)(65歳以上)



②性別・年齢別でみると、「参加している」は女性の70～74歳で30.1%と最も高くなっている。一方、「今後、参加したい」は女性の30代で29.9%と最も高くなっている。

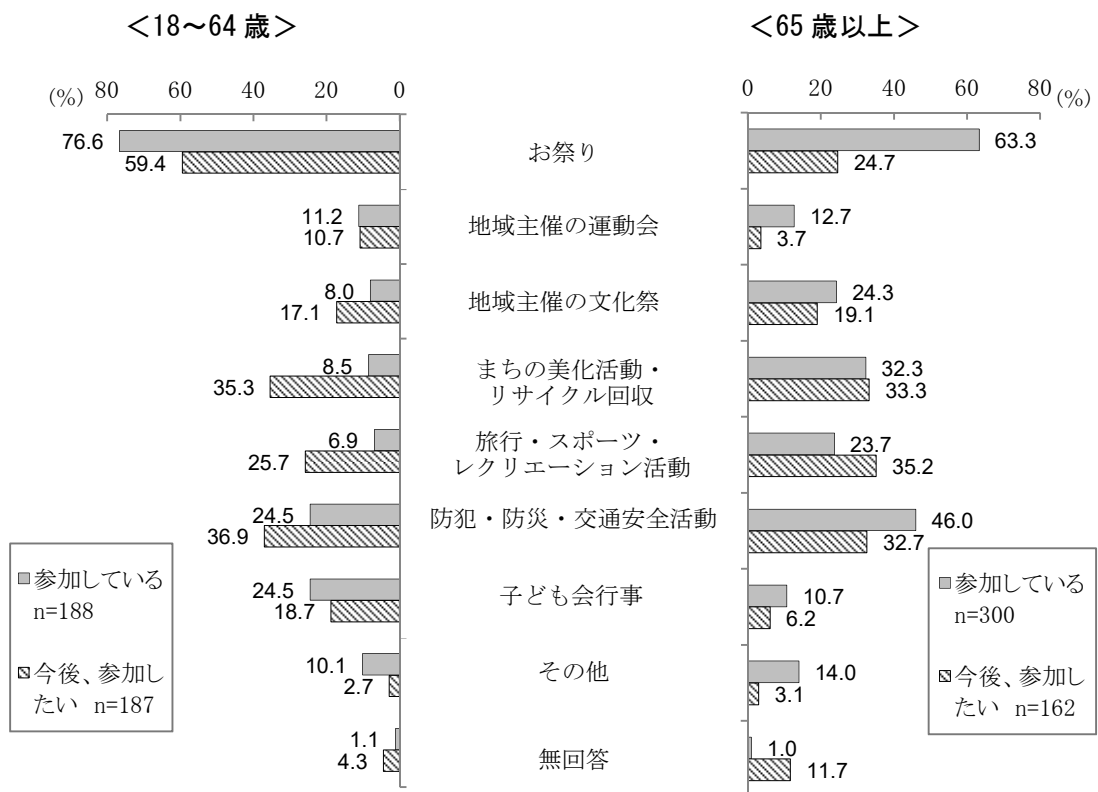
<図表4-19> 性別・年齢別にみた地域活動への参加状況(18～64歳)(65歳以上)



(5) 地域活動への参加（続き）

③地域活動内容への参加状況について、18～64歳では「お祭り」が76.6%で最も高く、次いで「防犯・防災・交通安全活動」が24.5%、「子ども会行事」が24.5%の順となっている。65歳以上では「お祭り」が63.3%で最も高く、次いで「防犯・防災・交通安全活動」が46.0%、「まちの美化活動・リサイクル回収」が32.3%の順となっている。地域活動への参加意向について、18～64歳では「お祭り」が59.4%で最も高く、次いで「防犯・防災・交通安全活動」が36.9%、「まちの美化活動・リサイクル回収」が35.3%の順となっている。65歳以上では「旅行・スポーツ・レクリエーション活動」が35.2%で最も高く、次いで「まちの美化活動・リサイクル回収」が33.3%、「防犯・防災・交通安全活動」が32.7%の順となっている。

<図表4-20> 地域活動内容ごとの参加状況・参加意向(18～64歳)(65歳以上)



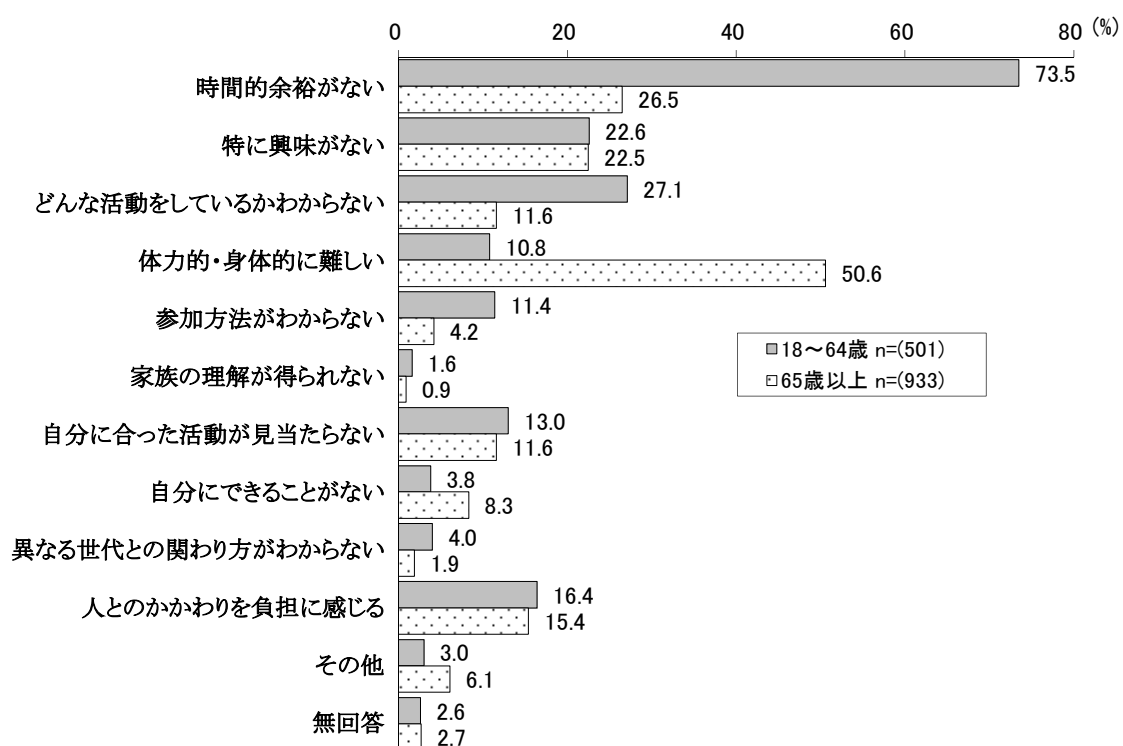


## (5) 地域活動への参加（続き）

④地域活動に参加できない理由について、18～64歳では「時間的余裕がない」が73.5%で最も高く、次いで「どんな活動をしているかわからない」が27.1%、「特に興味がない」が22.6%の順となっている。

65歳以上では「体力的・身体的に難しい」が50.6%で最も高く、次いで「時間的余裕がない」が26.5%、「特に興味がない」が22.5%の順となっている。

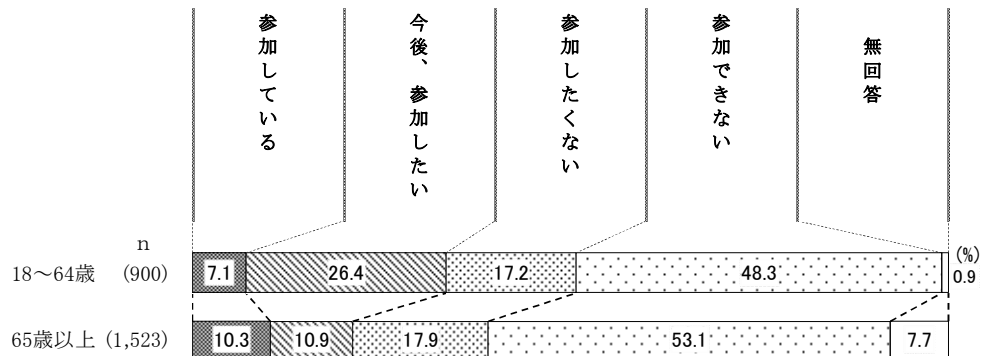
＜図表4-21＞ 地域活動に参加できない理由(18～64歳)(65歳以上)



(6) ボランティア活動への参加【若問 22～問 23】【高問 27～問 28】

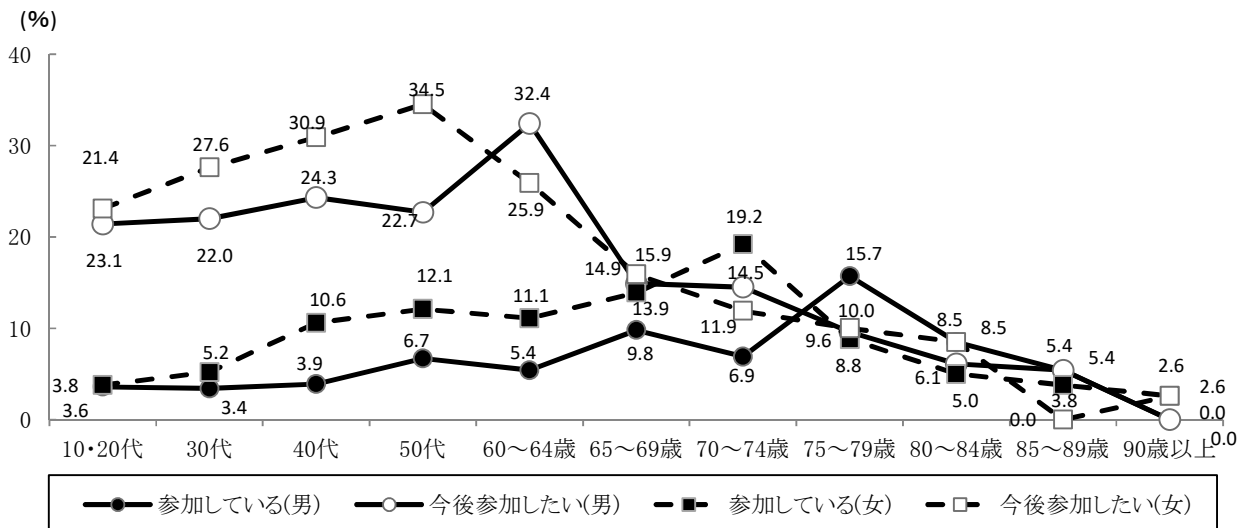
①ボランティア活動への参加状況について、18～64歳では「参加できない」が48.3%で最も高くなっている。一方、「参加している」と「今後、参加したい」を合わせると33.5%となっている。65歳以上についても「参加できない」が53.1%と最も高くなっている。一方、「参加している」と「今後、参加したい」を合わせると21.2%となっている。

<図表4-22> ボランティア活動への参加状況(18～64歳)(65歳以上)



②性別・年齢別でみると、「参加している」は男性の75～79歳で15.7%、女性の70～74歳で19.2%と最も高くなっている。一方、「今後、参加したい」は男性の60～64歳で32.4%、女性の50代で34.5%と高くなっている。

<図表4-23> 性別・年齢別にみたボランティア活動への参加状況(18～64歳)(65歳以上)

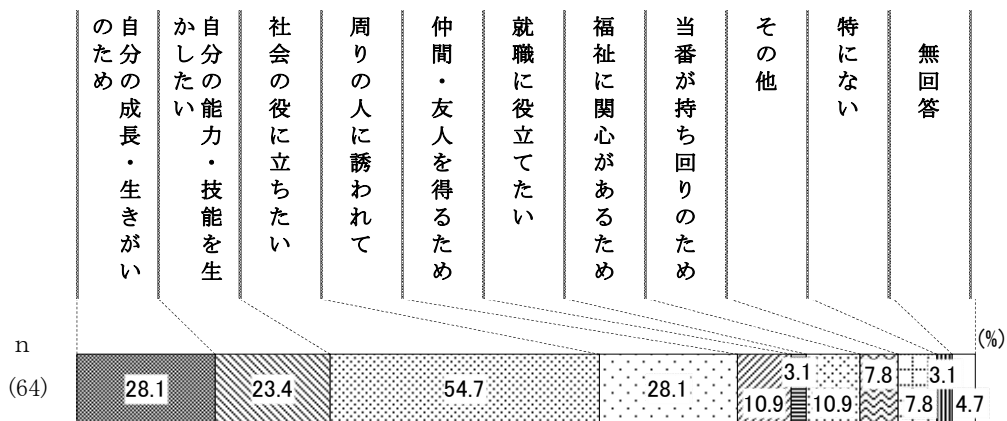


(6) ボランティア活動への参加 (続き)

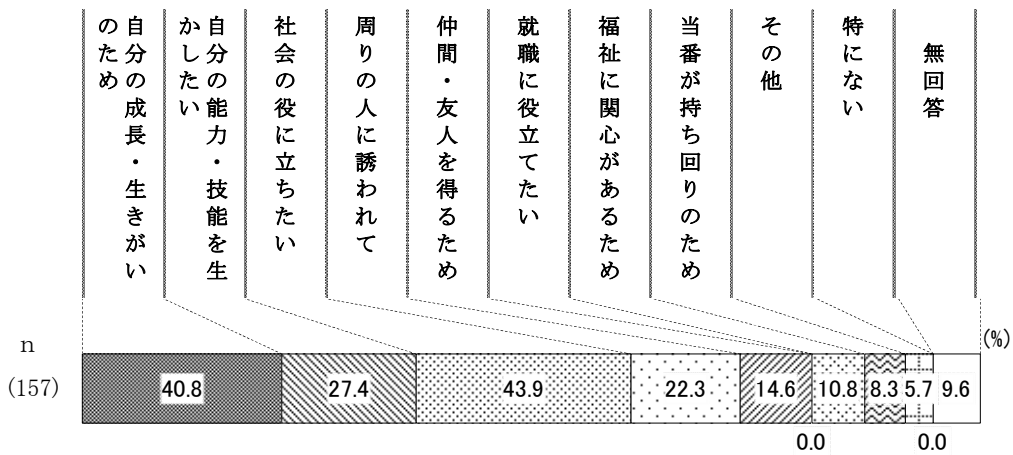
③ ボランティア活動を始めたきっかけについて、18～64歳では「社会の役に立ちたい」が54.7%で最も高く、次いで、「自分の成長・生きがいのため」「周りの人に誘われて」がともに28.1%の順となっている。

65歳以上では、「社会の役に立ちたい」が43.9%で最も高く、次いで、「自分の成長・生きがいのため」が40.8%、「自分の能力・技能を生かしたい」が27.4%の順となっている。

<図表4-24> ボランティア活動を始めたきっかけ (18～64歳)



<図表4-25> ボランティア活動を始めたきっかけ (65歳以上)



## (6) ボランティア活動への参加（続き）

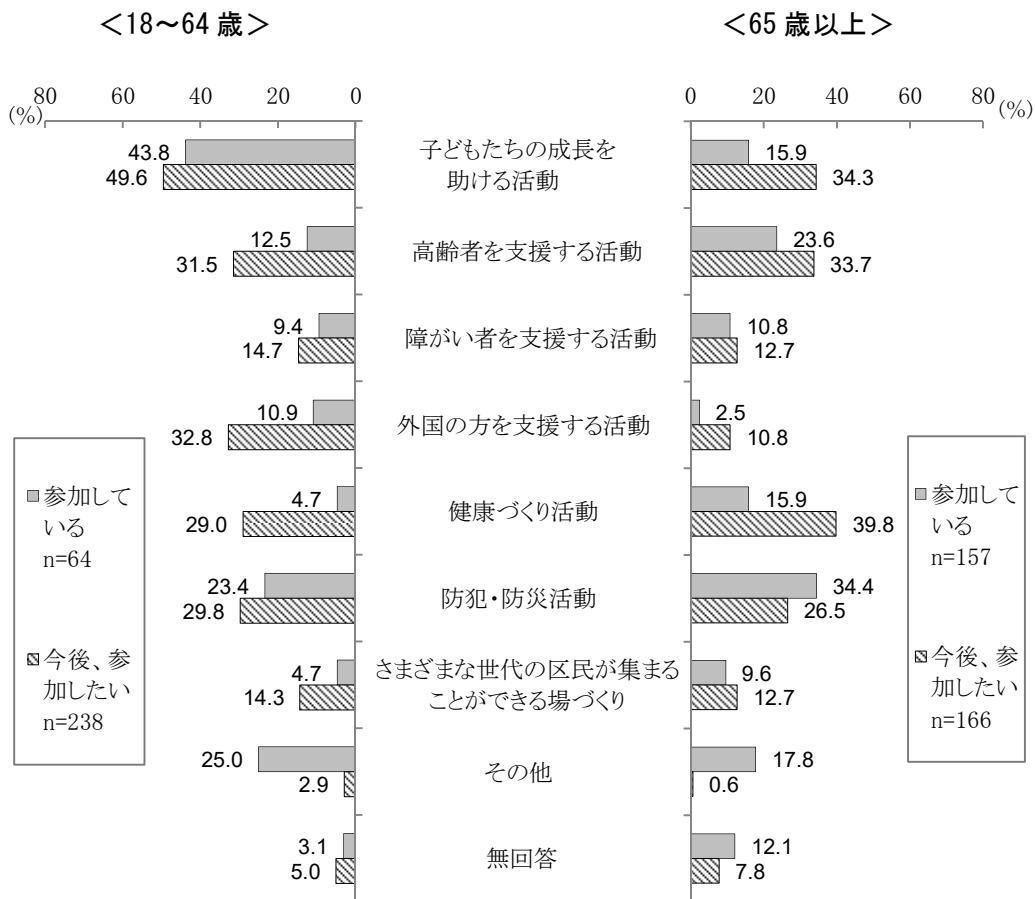
④ ボランティア活動への参加状況について、18～64歳では「子どもたちの成長を助ける活動」が43.8%で最も高く、次いで「防犯・防災活動」が23.4%となっている。

65歳以上では、「防犯・防災活動」が34.4%で最も高く、次いで「高齢者を支援する活動」が23.6%となっている。

ボランティア活動への参加意向について、18～64歳では「子どもたちの成長を助ける活動」が49.6%で最も高く、次いで「外国の方を支援する活動」が32.8%の順となっている。

65歳以上では、「健康づくり活動」が39.8%で最も高く、次いで「子どもたちの成長を助ける活動」が34.3%となっている。

<図表4-26> ボランティア活動内容ごとの参加状況・参加意向(18～64歳)(65歳以上)

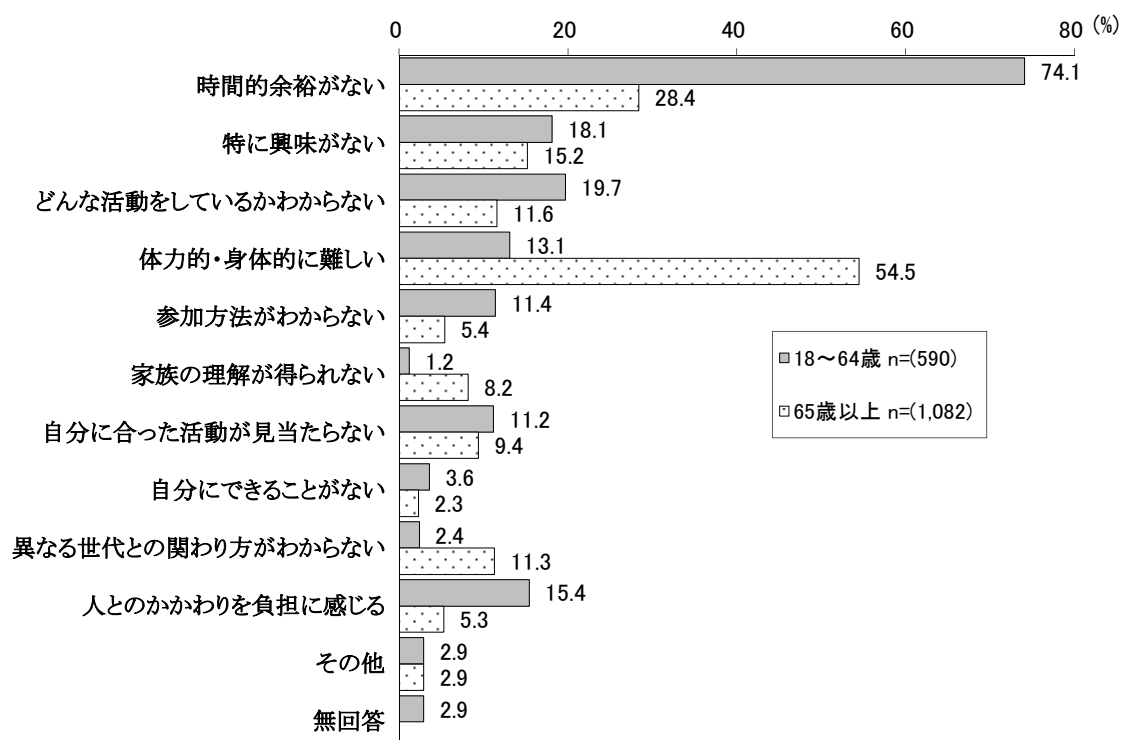


## (6) ボランティア活動への参加（続き）

⑤ ボランティア活動に参加できない理由について、18～64歳では「時間的余裕がない」が74.1%で最も高く、次いで「どんな活動をしているかわからない」が19.7%、「特に興味がない」が18.1%の順となっている。

65歳以上では、「体力的・身体的に難しい」が54.5%で最も高く、次いで「時間的余裕がない」が28.4%、「特に興味がない」が15.2%の順となっている。

<図表4-27> ボランティア活動に参加できない理由(18～64歳)(65歳以上)

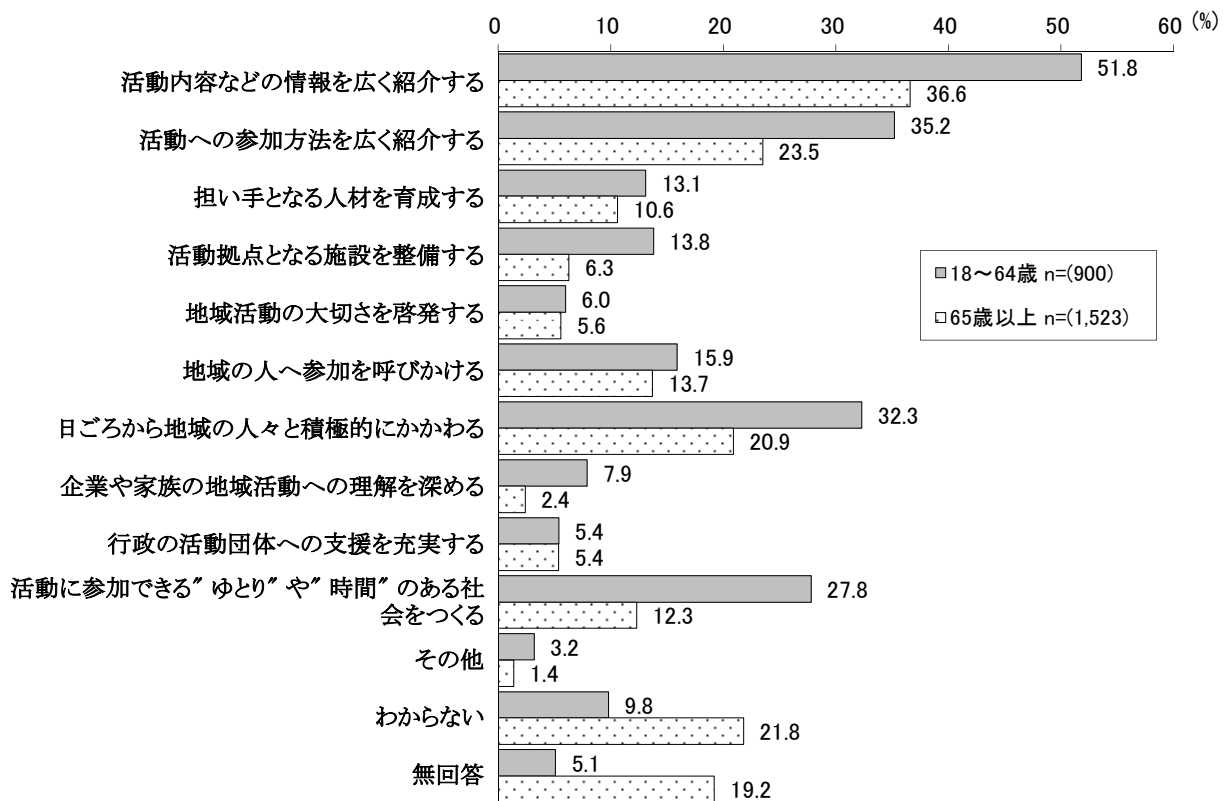


## (6) ボランティア活動への参加（続き）

⑥地域活動への参加を促進するのに必要な条件について、18～64歳では「活動内容などの情報を広く紹介する」が51.8%で最も高く、次いで「活動への参加方法を広く紹介する」が35.2%、「日ごろから地域の人々と積極的にかかわる」が32.3%の順となっている。

65歳以上では、「活動内容などの情報を広く紹介する」が36.6%で最も高く、次いで「活動への参加方法を広く紹介する」が23.5%、「日ごろから地域の人々と積極的にかかわる」が20.9%の順となっている。

<図表4-28> 地域活動への参加を促進するのに必要な条件(18～64歳)(65歳以上)

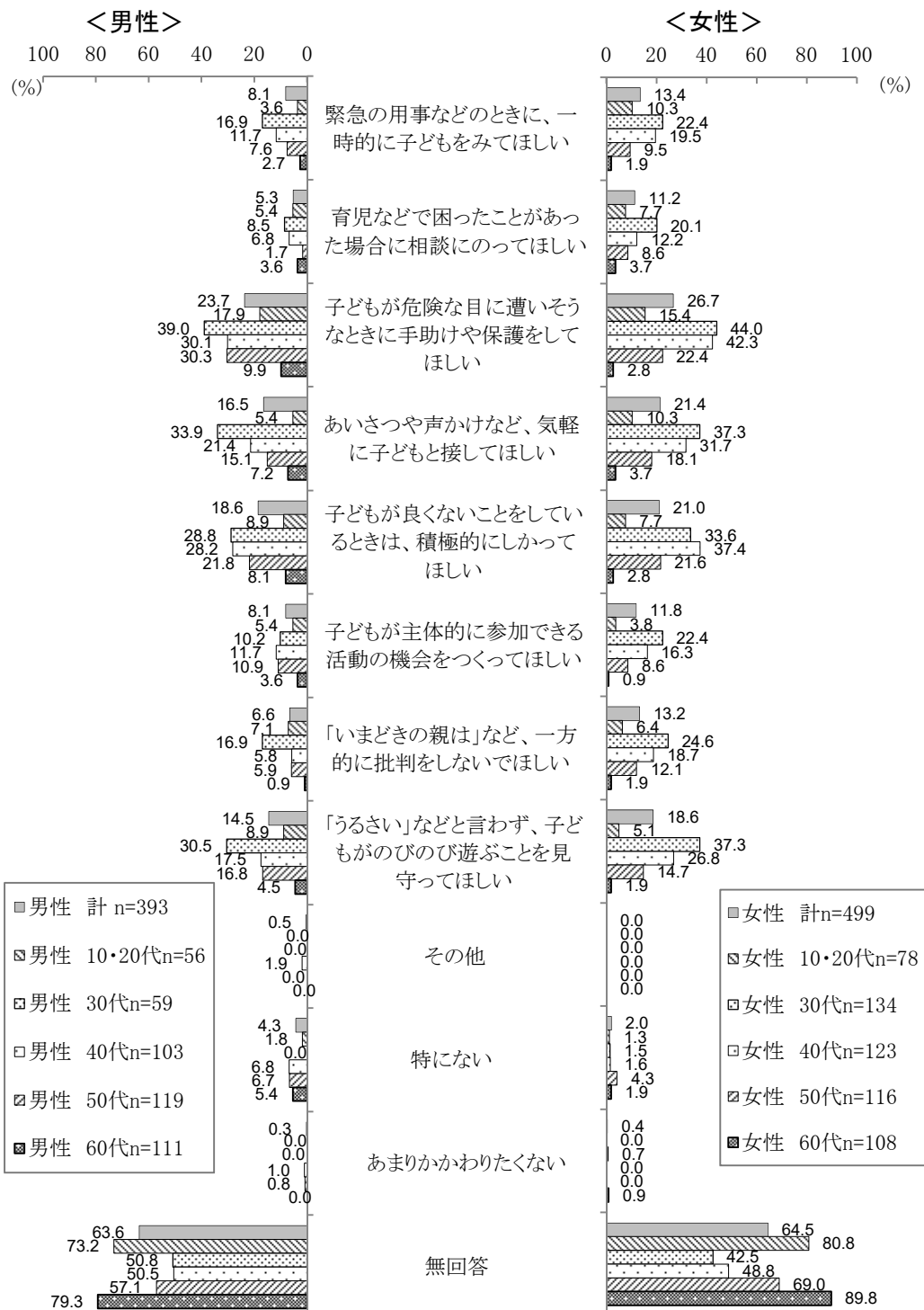


## 5. 子育て支援について

### (1) 子育てで地域の方をお願いしたいこと【若問 24-1】

①子育てをする中で地域の方をお願いしたいことについては、「子どもが危険な目に遭いそうなときに手助けや保護をしてほしい」が女性の30代と40代で40%を超えている。また、男性の30代では39.0%と最も高くなっている。「子どもが良くないことをしているときは、積極的にしかってほしい」は、女性の30代と40代で30%を超え、男性の30代と40代で28%を超えている。次いで、「あいさつや声かけなど、気軽に子どもと接してほしい」「『うるさい』などと言わず、子どもがのびのび遊ぶことを見守ってほしい」の回答割合が高くなっている。

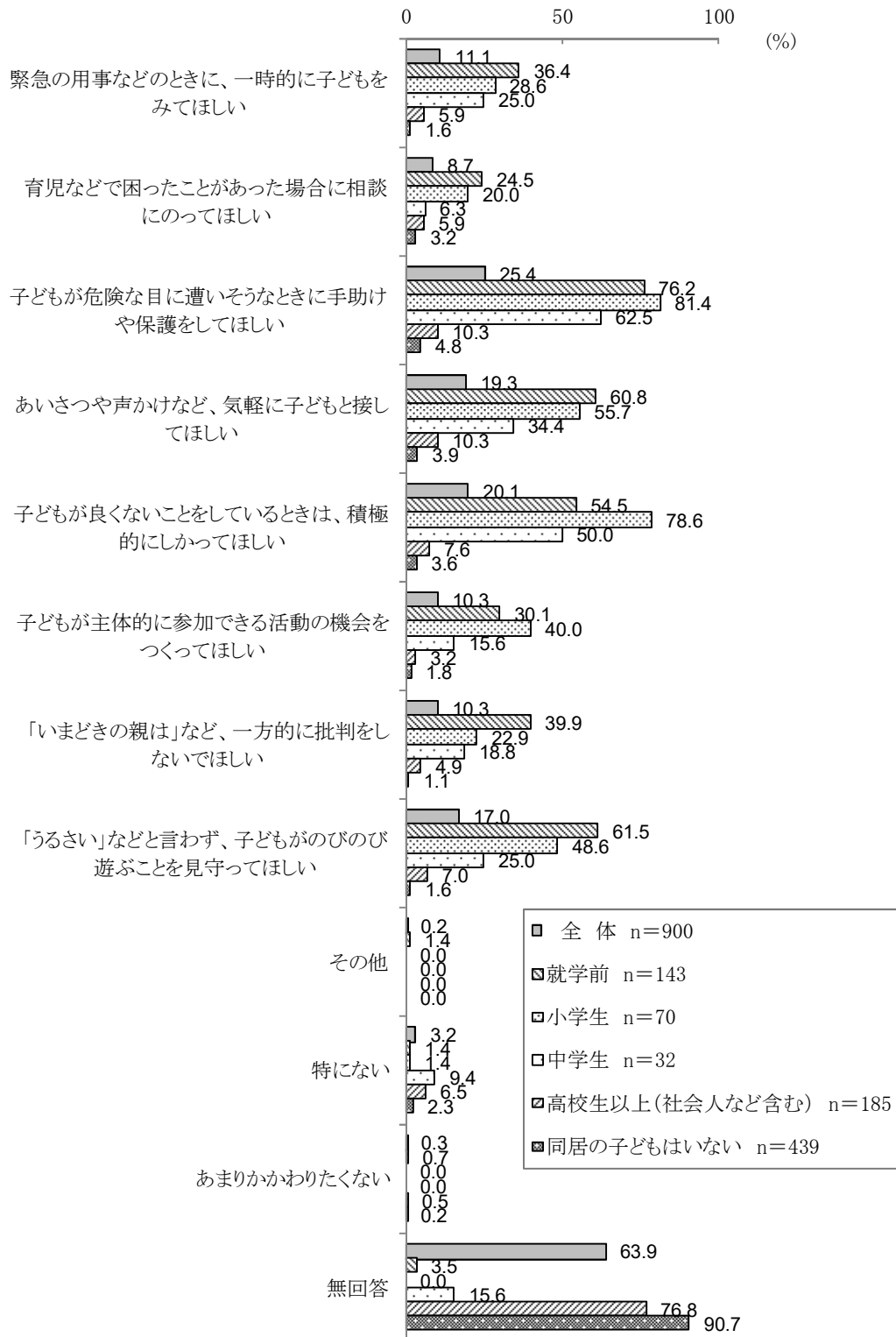
<図表5-1> 性・年齢別にみた子育てをする中で地域の方をお願いしたいこと(18~64歳)



(1) 子育てで地域の方をお願いしたいこと (続き)

②末子の世代別にみると、「子どもが危険な目に遭いそうなとき手助けや保護をしてほしい」が就学前で76.2%、小学生で81.4%となっている。また、「子どもが良くないことをしているときは、積極的にしかってほしい」は小学生で78.6%と最も高くなっている。

<図表5-2> 末子の世代別にみた子育てをする中で地域の方をお願いしたいこと(18~64歳)

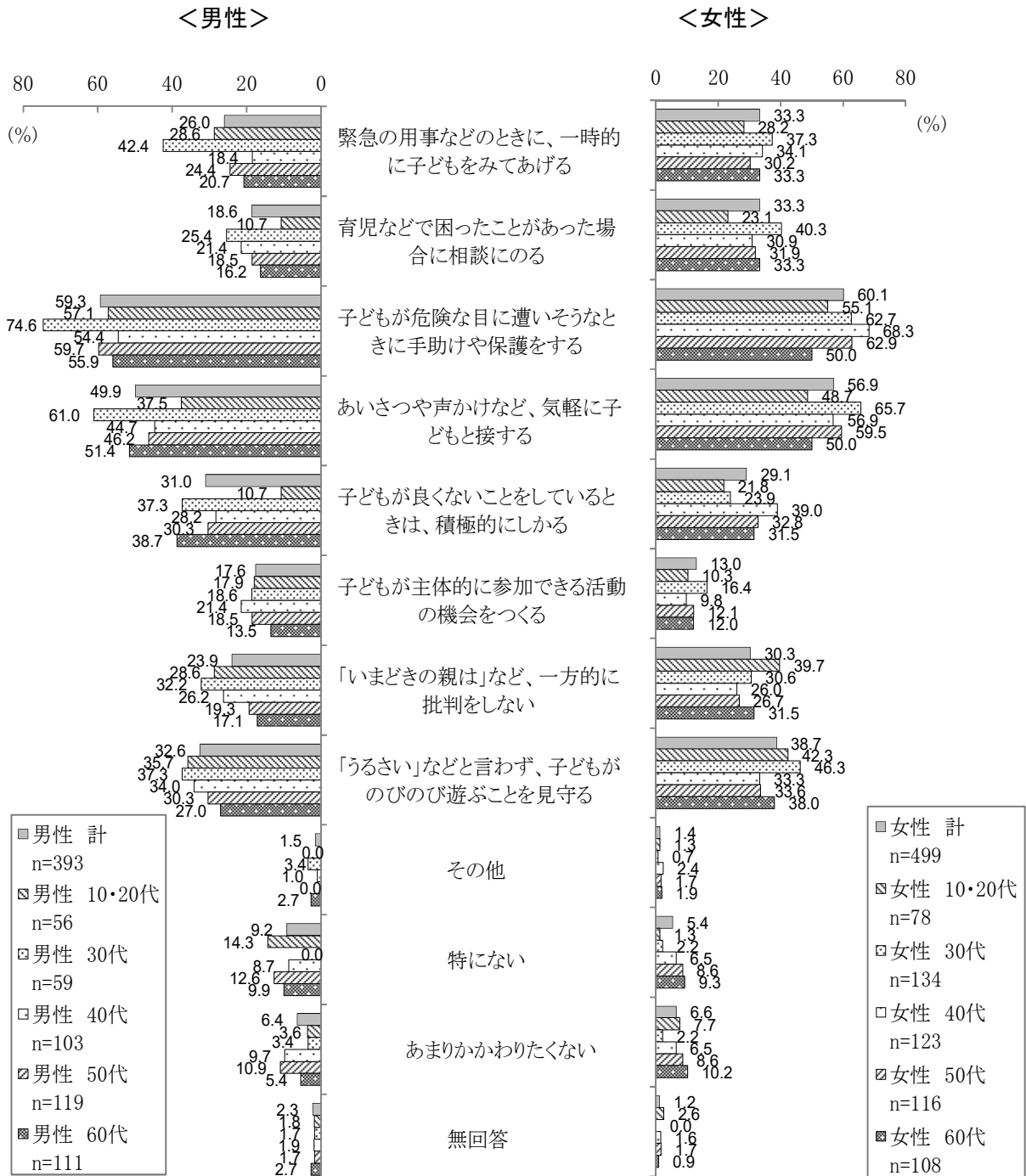




(2) 子育てで支援できること【若問 24】【高問 24】

①子育てで支援できることについて、18～64歳全体では「子どもが危険な目に遭いそうなときに手助けや保護をする」が男性で59.3%、女性で60.1%と最も高くなっている。年齢別にみると、「子どもが危険な目に遭いそうなときに手助けや保護をする」は女性の40代で68.3%、男性の30代で74.6%となっている。

<図表5-3> 性・年齢別にみた子育てで支援できること(18～64歳)

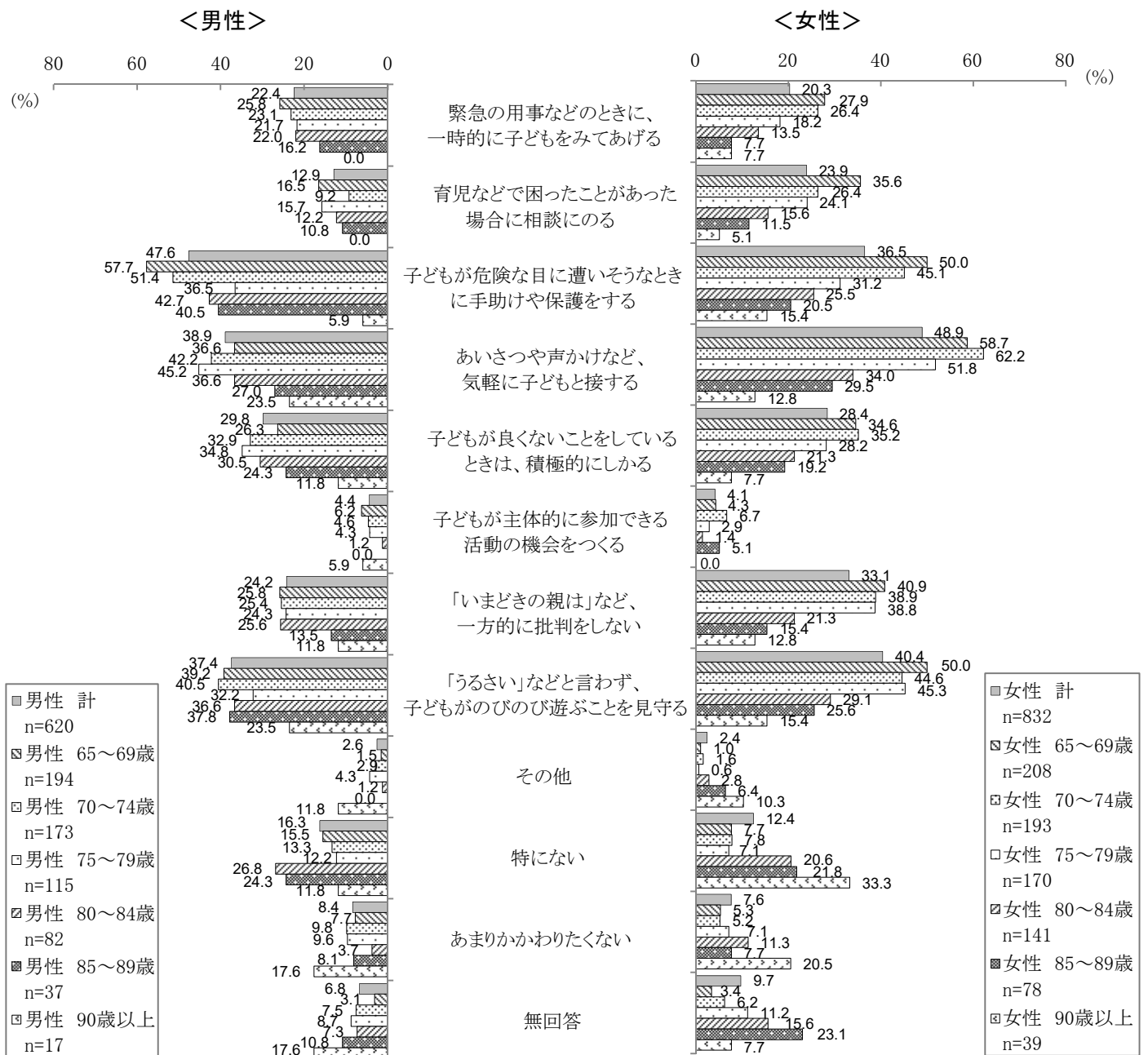


## (2) 子育てで支援できること (続き)

②子育てで支援できることについて、65歳以上の男性全体では「子どもが危険な目に遭いそうなときに手助けや保護をする」が47.6%、女性全体では、「あいさつや声かけなど、気軽に子どもと接する」が48.9%と最も高くなっている。

年齢別にみると、「子どもが危険な目に遭いそうなときに手助けや保護をする」が男性の65～69歳で57.7%、「あいさつや声かけなど、気軽に子どもと接する」が女性の70～74歳で62.2%と最も高くなっている。

<図表5-4> 性・年齢別にみた子育てで支援できること(65歳以上)



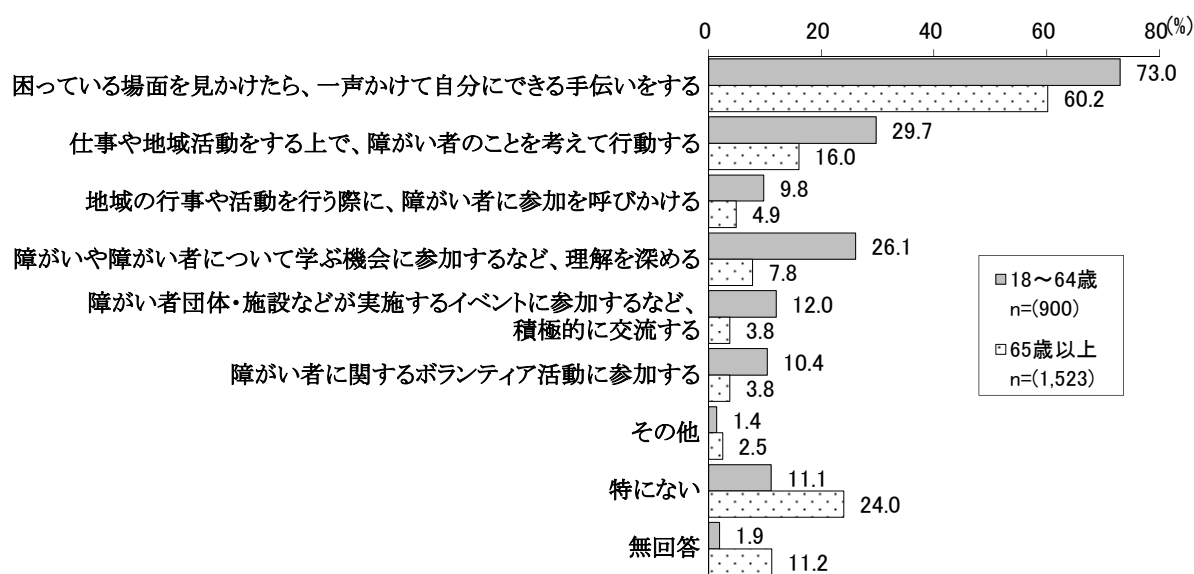
## 6. 障がい者の自立支援について

### (1) 障がい者の社会参加のためにできること【若問 25】【高問 25】

①障がい者の社会参加のためにできることについて、18～64歳では「困っている場面を見かけたら、一声かけて自分にできる手伝いをする」が73.0%と最も高く、次いで「仕事や地域活動をする上で、障がい者のことを考えて行動する」が29.7%、「障がいや障がい者について学ぶ機会に参加するなど、理解を深める」が26.1%の順となっている。

65歳以上では、「困っている場面を見かけたら、一声かけて自分にできる手伝いをする」が60.2%と高い一方で、「特にない」の回答も24.0%となった。

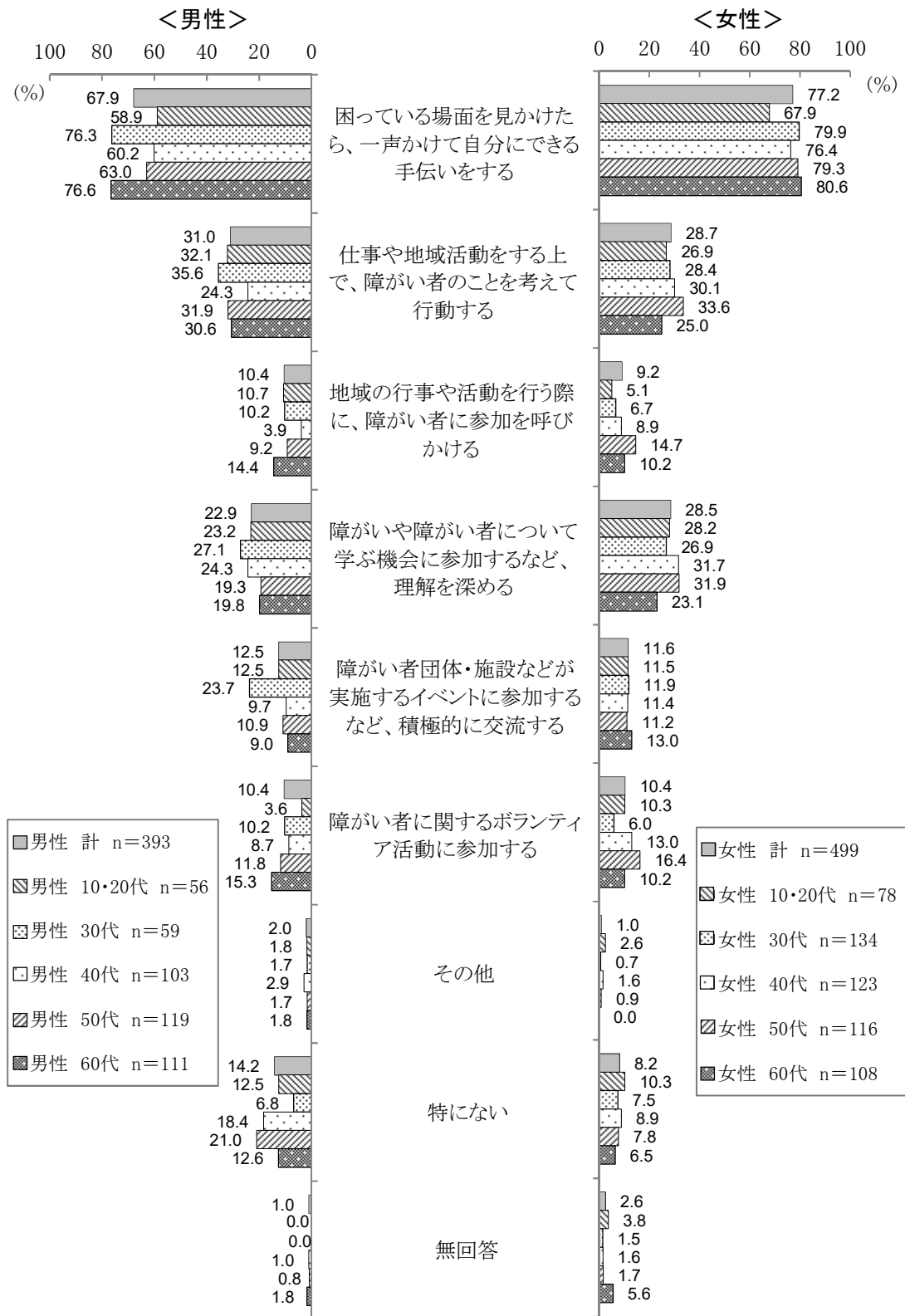
<図表6-1> 障がい者の社会参加のためにできること (18～64歳) (65歳以上)



(1) 障がい者の社会参加のためにできること (続き)

②性・年齢別にみると、18～64歳では「困っている場面を見かけたら、一声かけて自分にできる手伝いをする」の回答割合が最も高く、男性の30代と60代で76%を超えている。女性においても同様に、60代で80.6%となっている。

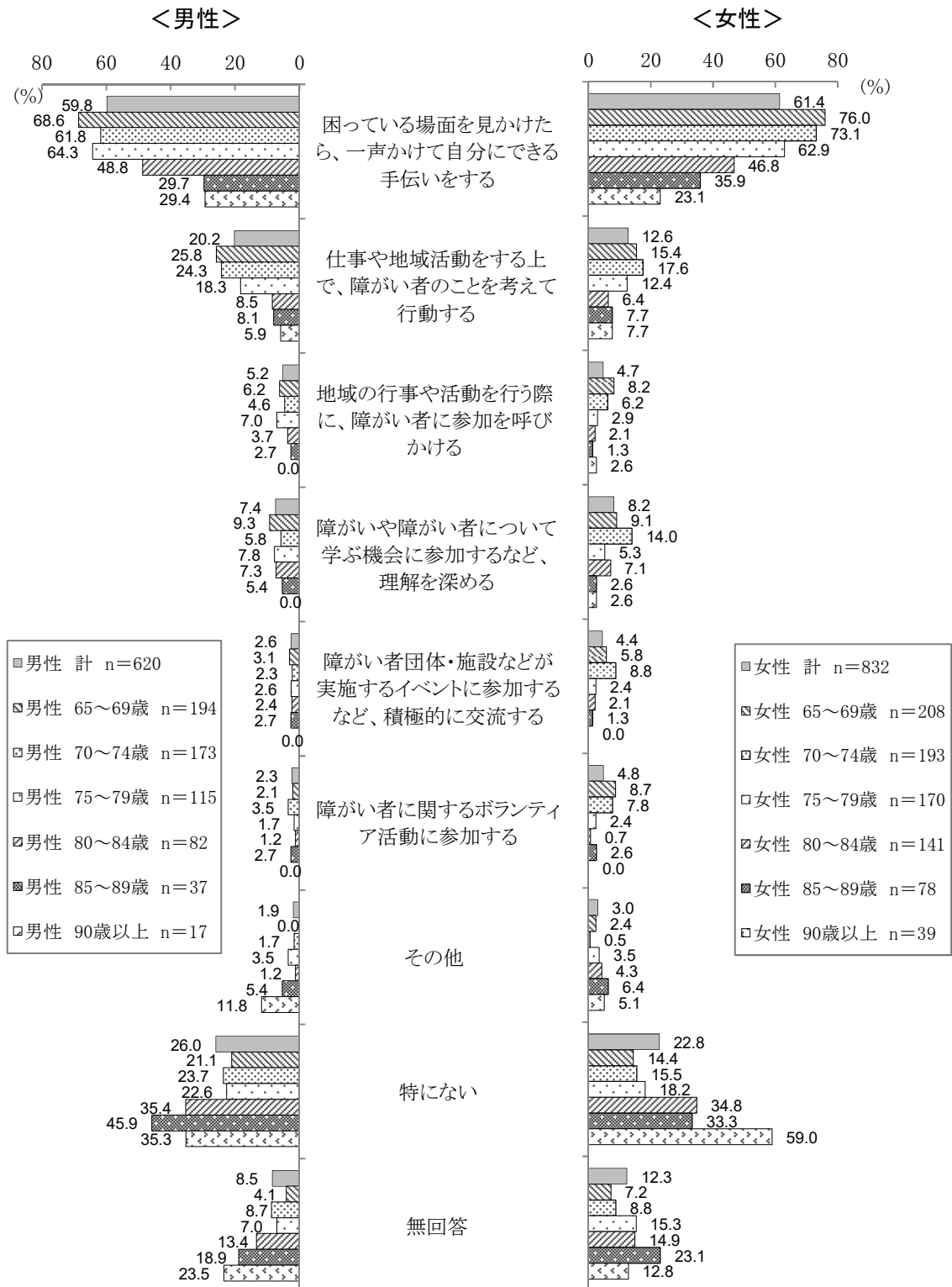
<図表6-2> 性・年齢別にみた障がい者の社会参加のためにできること (18～64歳)



(1) 障がい者の社会参加のためにできること (続き)

③性・年齢別にみると、65歳以上では「困っている場面を見かけたら、一声かけて自分にできる手伝いをする」が男性の65～79歳の各年齢層で60%を超えている。女性では「困っている場面を見かけたら、一声かけて自分にできる手伝いをする」は65～69歳で76.0%と最も高く、年齢が高くなるにつれて減少する傾向にある。

<図表6-3> 性・年齢別にみた障がい者の社会参加のためにできること (65歳以上)

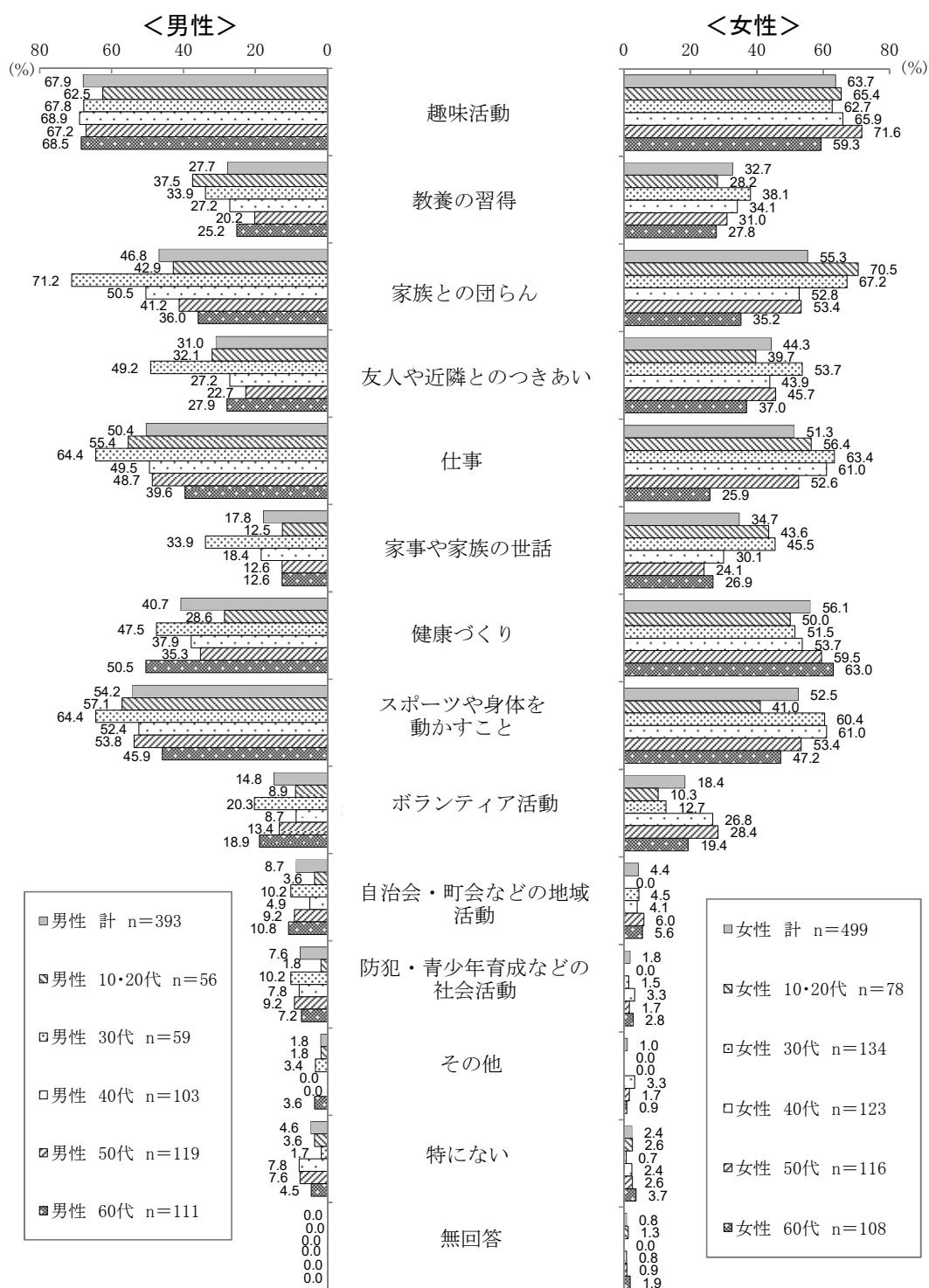


## 7. 将来について

### (1) 10年後にやりたいこと【若問26】

①10年後にやりたいことについて、性・年齢別にみると、男性では「趣味活動」はすべての年齢で60%を超えている。30代では「家族との団らん」が30代で71.2%となっている。一方、女性では「趣味活動」「健康づくり」は年齢が高くなるにつれて増加する傾向にあり、「健康づくり」は60代で63.0%となっている。

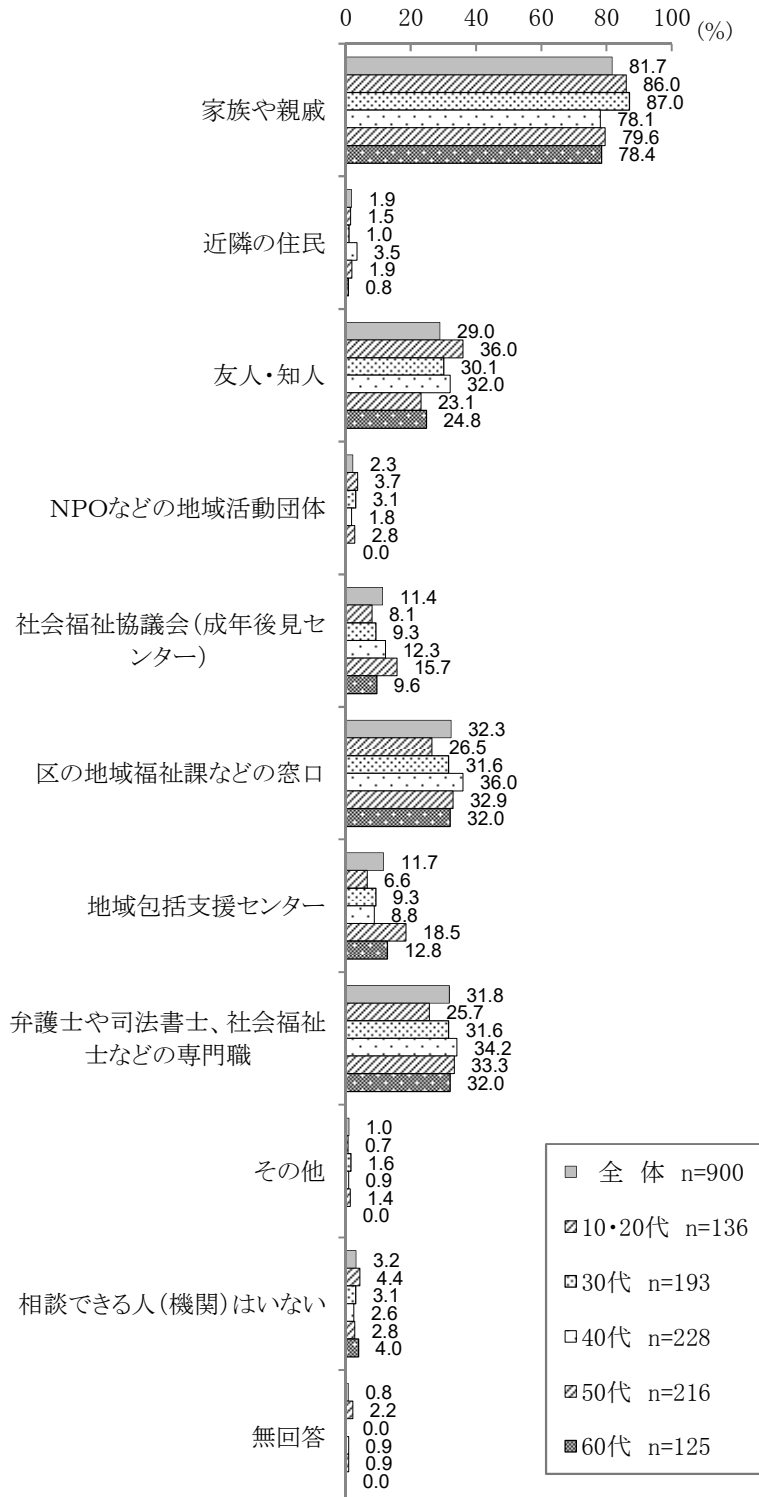
<図表7-1> 性・年齢別にみた10年後やりたいこと(18~64歳)



(2) 成年後見制度について【若問 27～問 29】【高問 29～問 31】

①判断能力が低下し、契約行為などに不安を感じたときの相談先について、18～64 歳全体では「家族や親戚」が 81.7%と最も高く、次いで「区の地域福祉課などの窓口」32.3%、「弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職」が 31.8%の順となっている。  
年齢別にみると、各年代ともに「家族や親戚」が 78%を超えている。

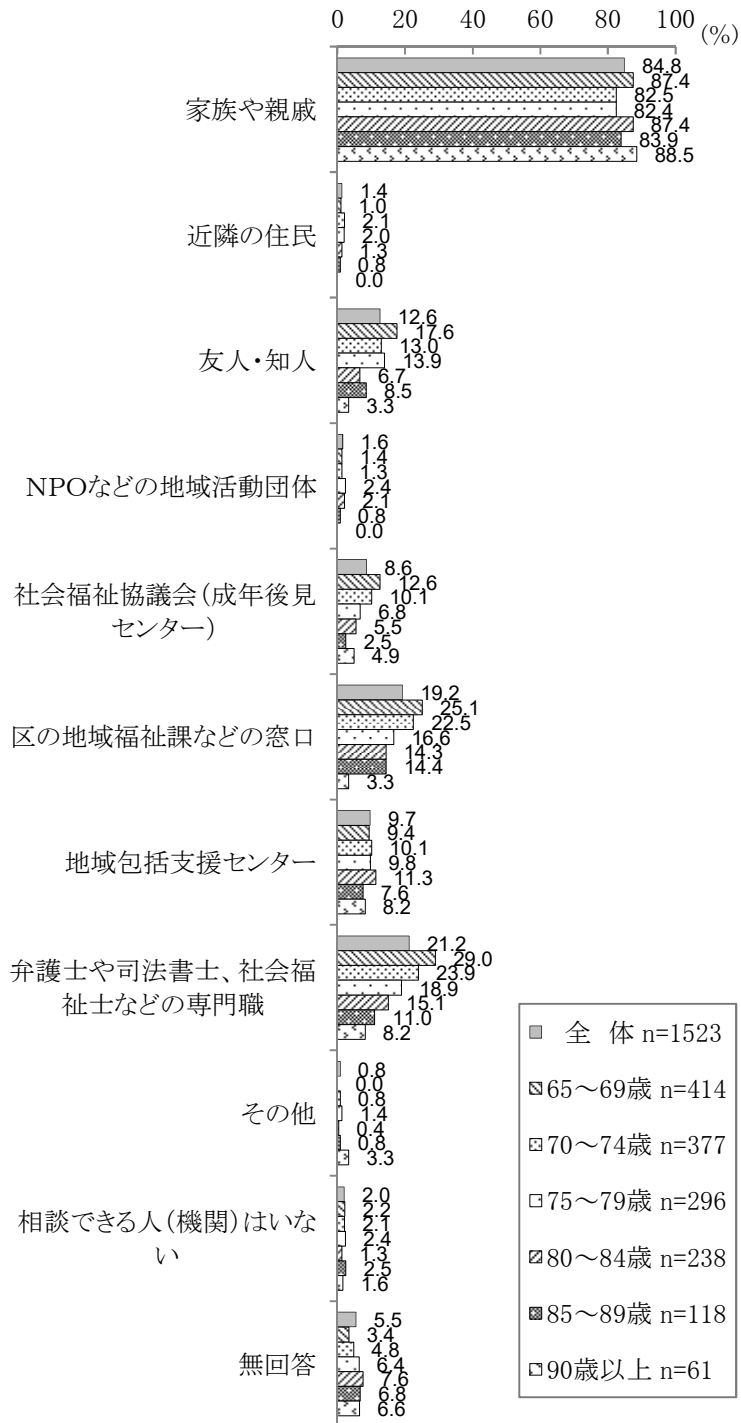
<図表 7-2> 年齢別にみた判断能力が低下し、不安を感じたときの相談先(18～64 歳)



## (2) 成年後見制度について (続き)

②判断能力が低下し、契約行為などに不安を感じたときの相談先について、65歳以上全体では「家族や親戚」が84.8%と最も高く、次いで「弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職」が21.2%、「区の地域福祉課などの窓口」が19.2%の順となっている。  
年齢別にみると、各層ともに「家族や親戚」が80%を超えている。

<図表7-3> 年齢別にみた判断能力が低下し、不安を感じたときの相談先 (65歳以上)



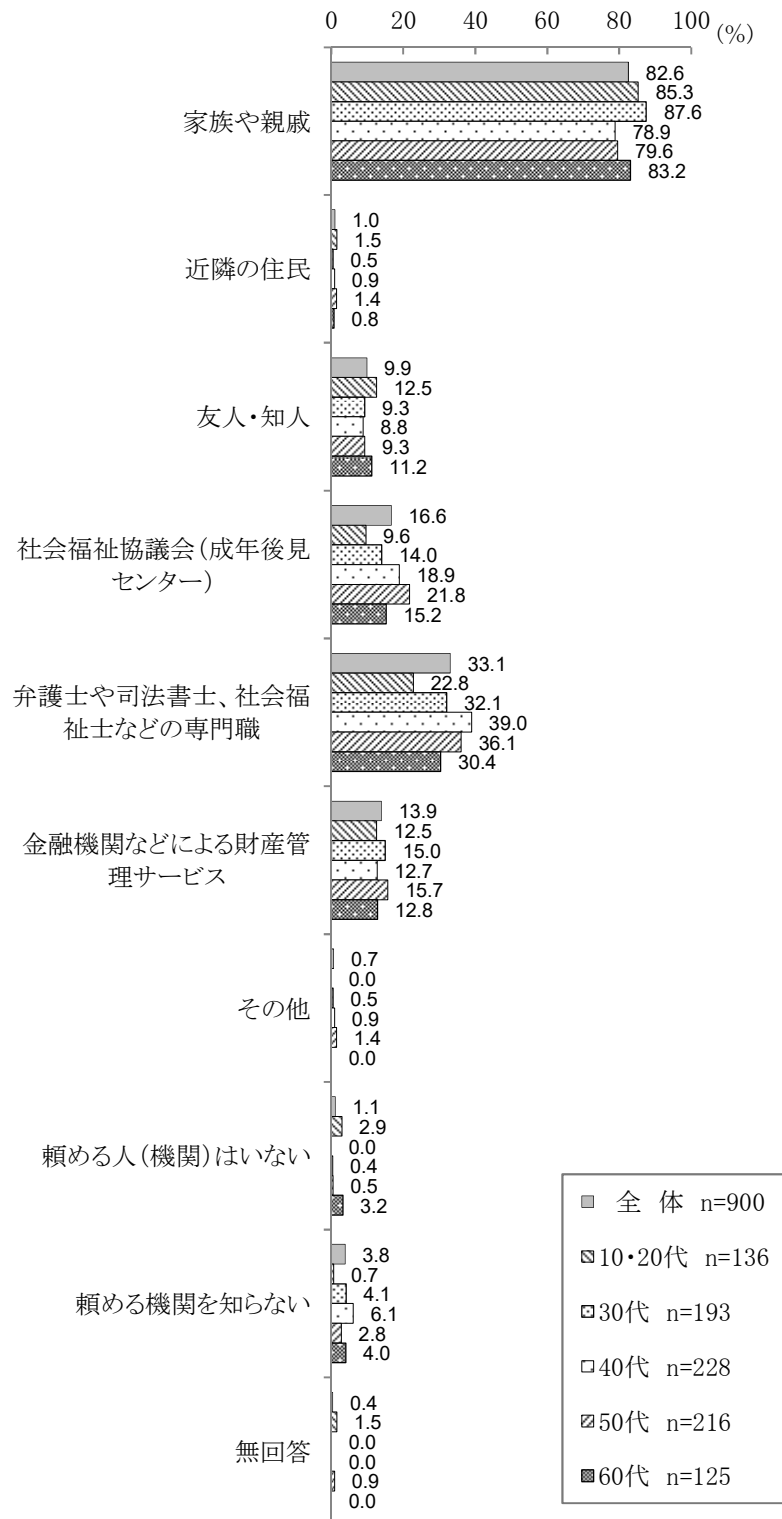


## (2) 成年後見制度について (続き)

③後見を頼みたい人について、18～64歳全体では「家族や親戚」が82.6%と最も高く、次いで「弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職」が33.1%、「社会福祉協議会(成年後見センター)」が16.6%の順となっている。

年齢別にみると、各年代ともに「家族や親戚」が78%を超えている。

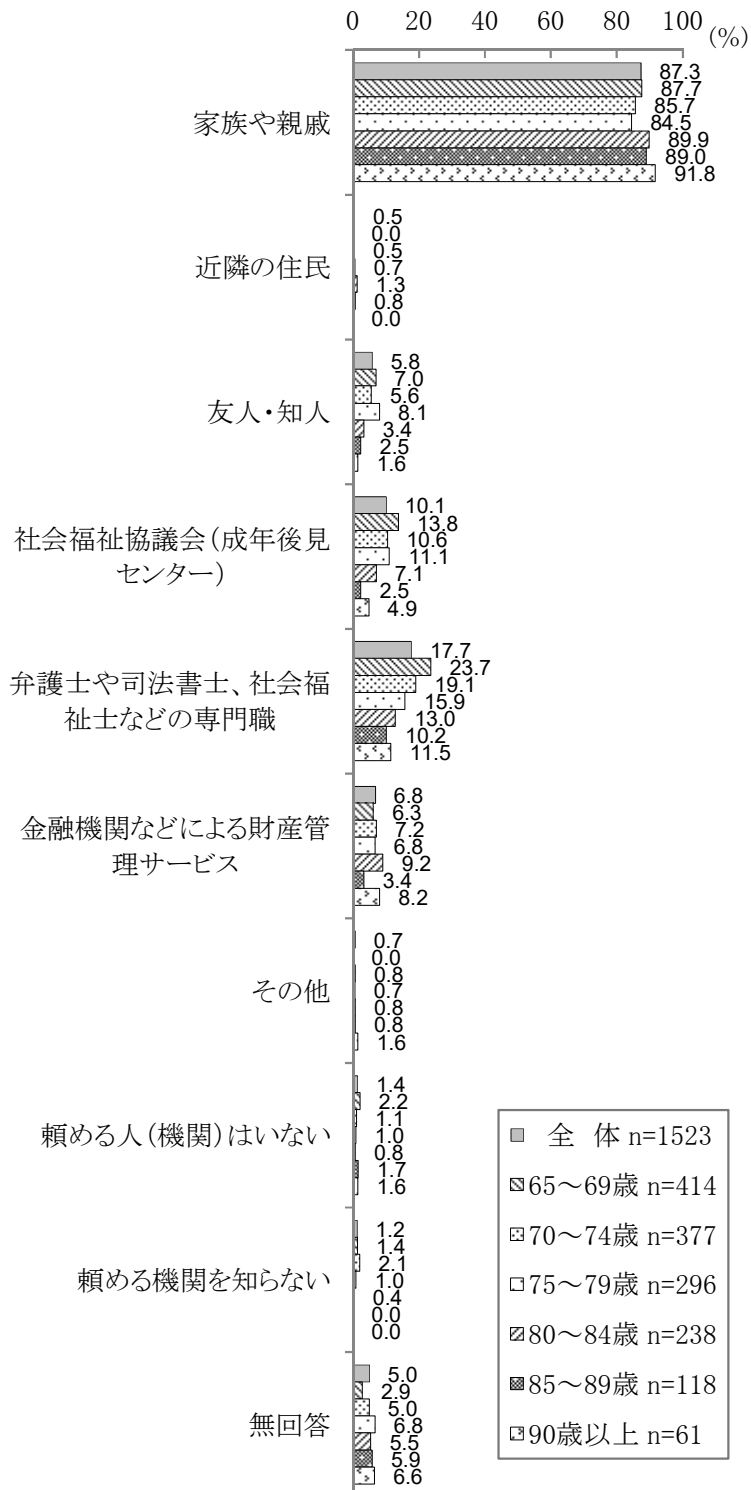
<図表7-4> 年齢別にみた後見を頼みたい人(18～64歳)



(2) 成年後見制度について (続き)

④後見を頼みたい人について、65歳以上では「家族や親戚」が87.3%と最も高く、次いで「弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職」が17.7%、「社会福祉協議会(成年後見センター)」が10.1%の順となっている。

<図表7-5> 年齢別にみた成年後見制度の利用を頼みたい人(65歳以上)



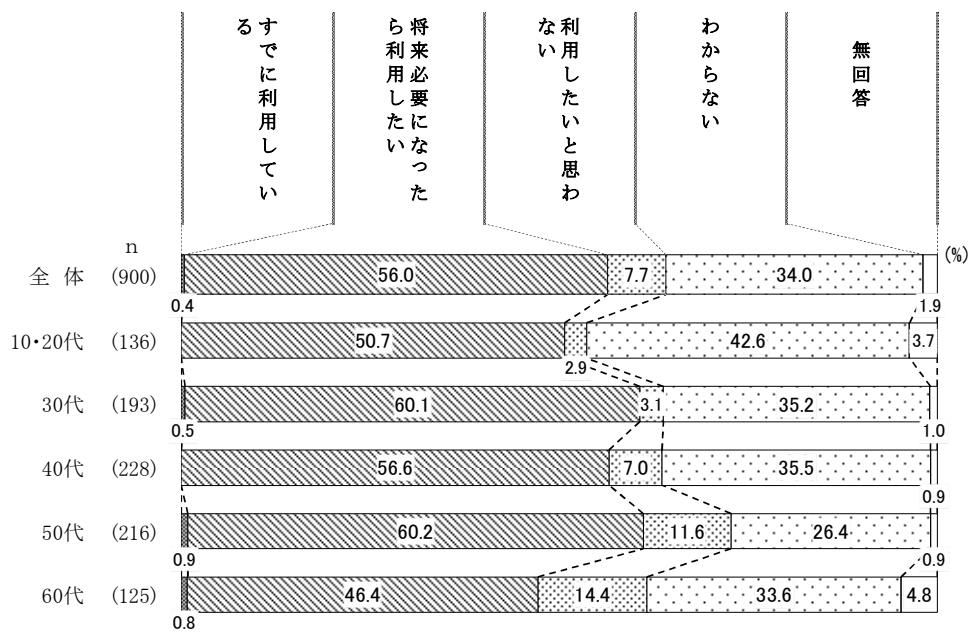
## (2) 成年後見制度について (続き)

⑤任意後見の利用意向について、18～64歳全体では「将来必要になったら利用したい」が56.0%で最も高くなっている。

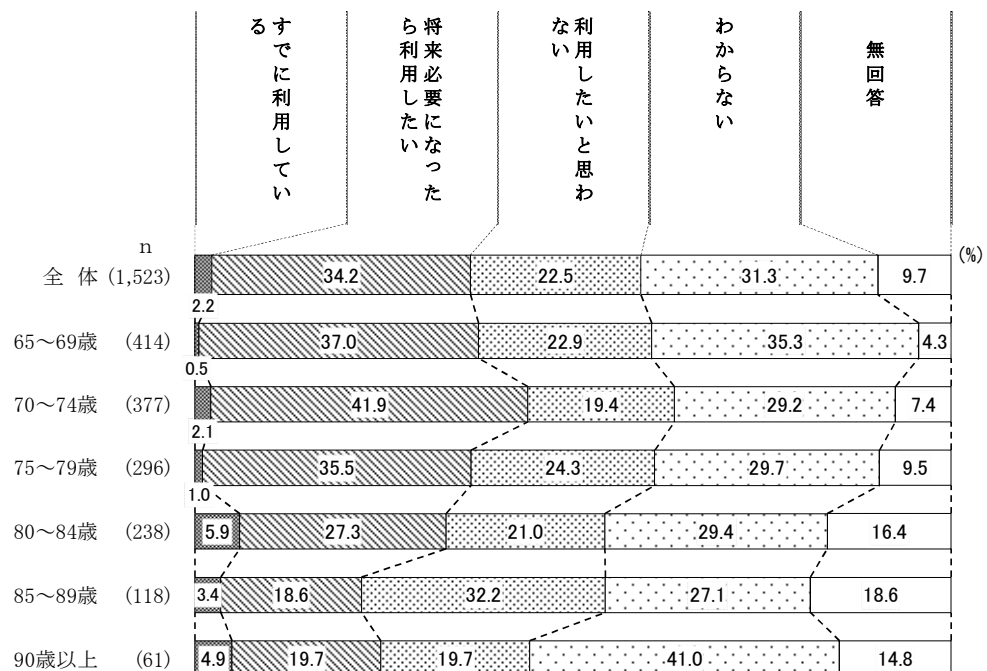
65歳以上全体では、「将来必要になったら利用したい」が34.2%で最も高くなっている。「すでに利用している」と「将来必要になったら利用したい」を合わせた利用意向では36.4%となっている。

年齢別にみると、18～64歳では利用意向のある人は、30代と50代で60%以上となっている。65歳以上では、利用意向のある人は70～74歳が44.0%で最も高くなっている。

＜図表7-6＞ 年齢別にみた任意後見制度の利用意向(18～64歳)



＜図表7-7＞ 年齢別にみた任意後見制度の利用意向(65歳以上)



## 8. 防災について

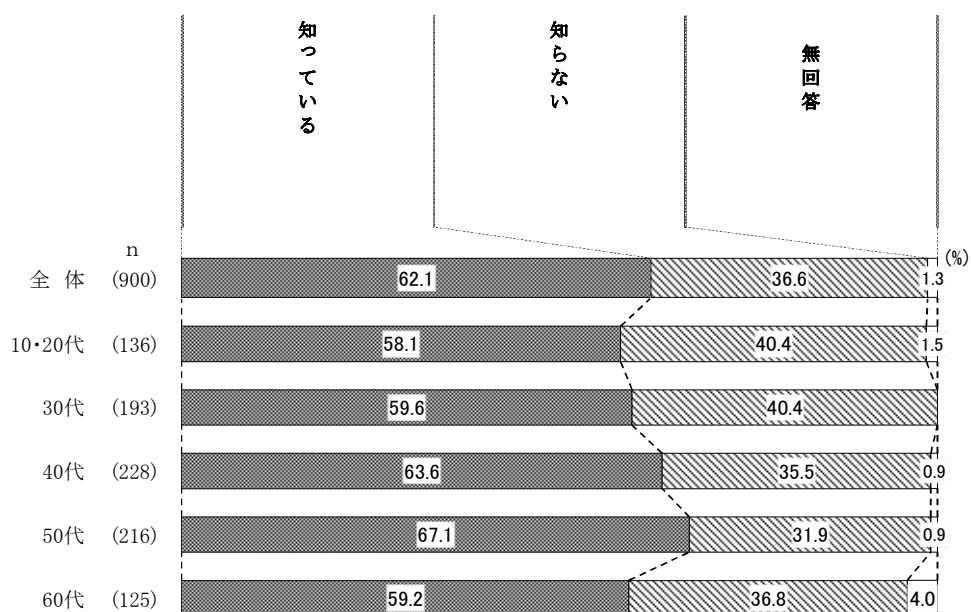
### (1) 避難場所の認知度【若問 30】【高問 32】

①避難場所の認知度について、「知っている」は18～64歳全体では62.1%、65歳以上全体では60.5%となっている。

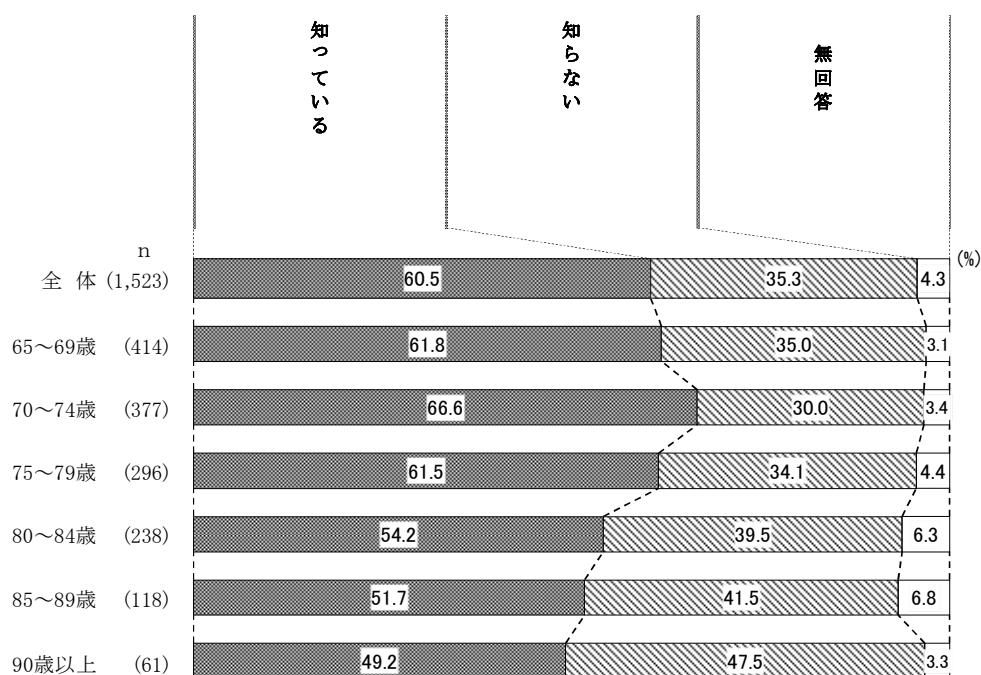
年齢別にみると、18～64歳では「知っている」は50代で67.1%と最も高くなっている。

65歳以上では「知っている」は70～74歳で66.6%となっており、以降、年齢が高くなるにつれて減少する傾向にある。

<図表 8-1> 年齢別にみた避難場所の認知度(18～64歳)



<図表 8-2> 年齢別にみた避難場所の認知度(65歳以上)

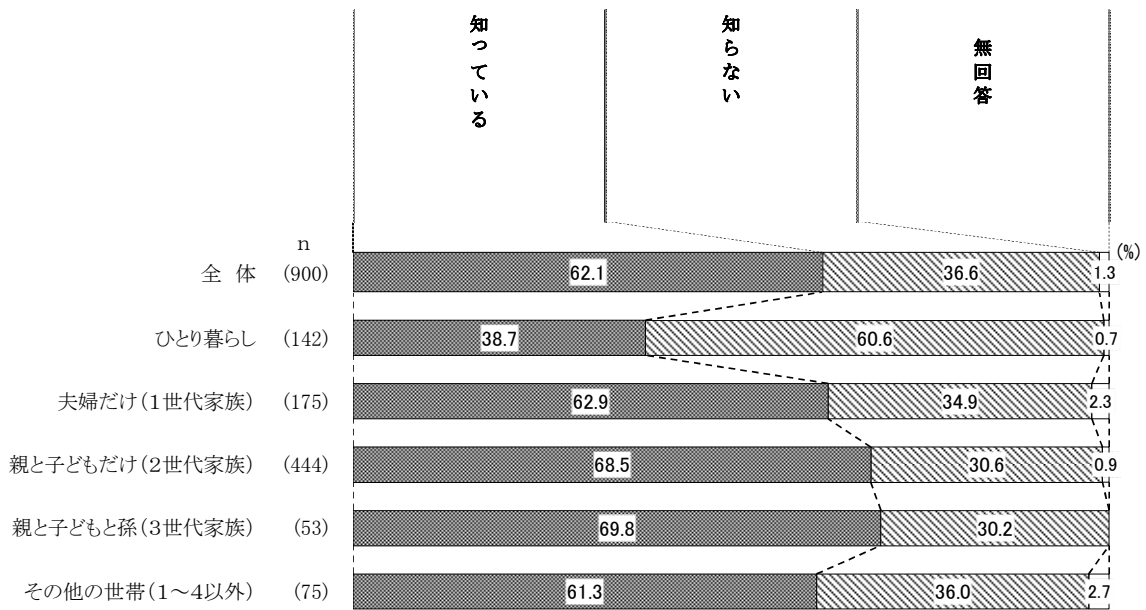


(1) 避難場所の認知度 (続き)

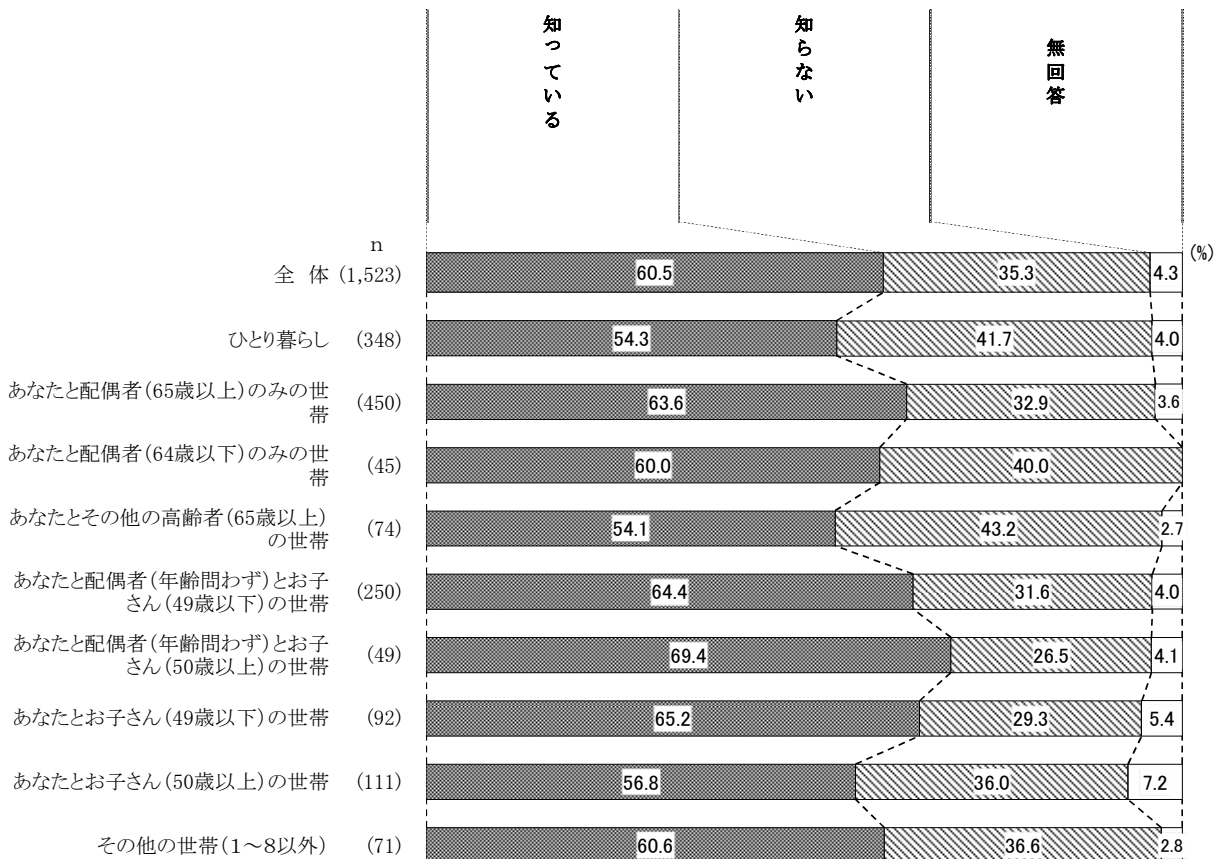
②家族構成別にみると、18～64歳では「ひとり暮らし」を除く各世帯で「知っている」は60%を超えている。

65歳以上では、「知っている」は「あなたと配偶者(年齢問わず)とお子さん(50歳以上)の世帯」で69.4%となっている。

<図表8-3> 家族構成別にみた避難場所の認知度 (18～64歳)



<図表8-4> 家族構成別にみた避難場所の認知度 (65歳以上)



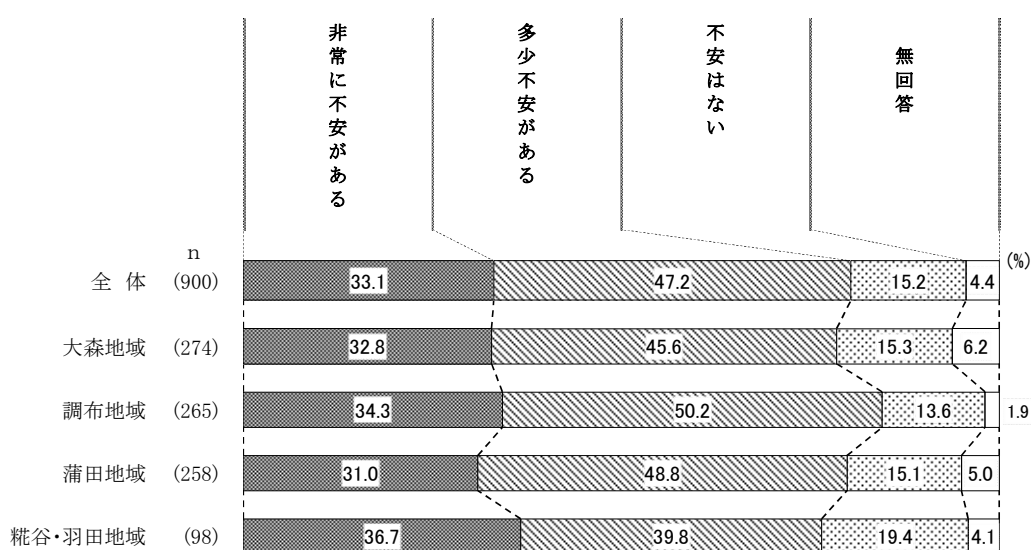
(2) 避難時に不安に思うこと【若問 31、問 31-1】【高問 33、問 33-1】

①地震や災害への不安について、18～64 歳では「多少不安がある」が 47.2%で最も高くなっている。「非常に不安がある」と「多少不安がある」を合わせると 80.3%となっている（以降、『不安がある人』とする）。

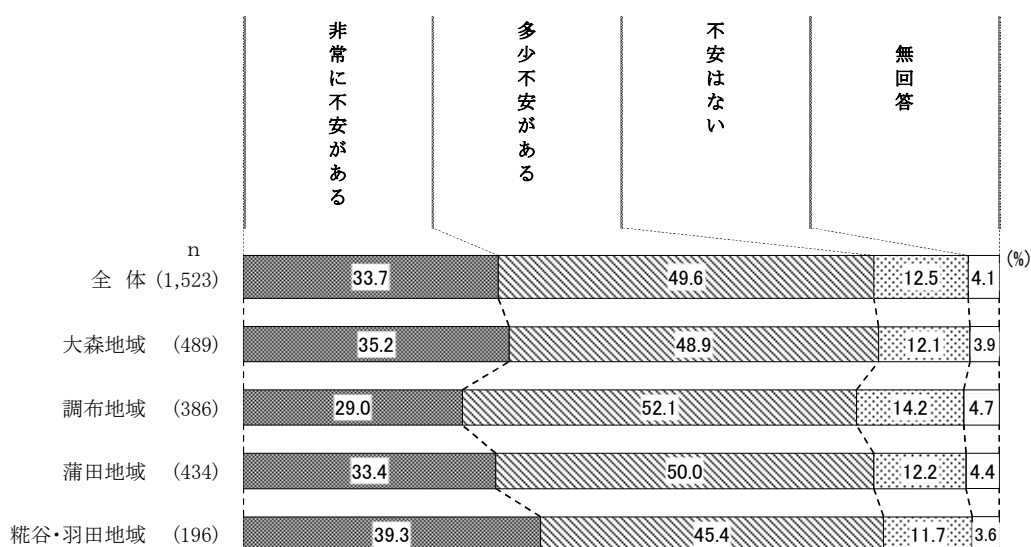
65 歳以上では、「多少不安がある」が 49.6%で最も高くなっている。『不安がある人』は 83.3%となっている。

居住地域別にみると、18～64 歳では『不安がある』人は調布地域で 84.5%となっている。65 歳以上では、『不安がある人』が各地域とも 80%を超えている。

<図表 8-5> 居住地域別にみた地震や災害への不安(18～64 歳)



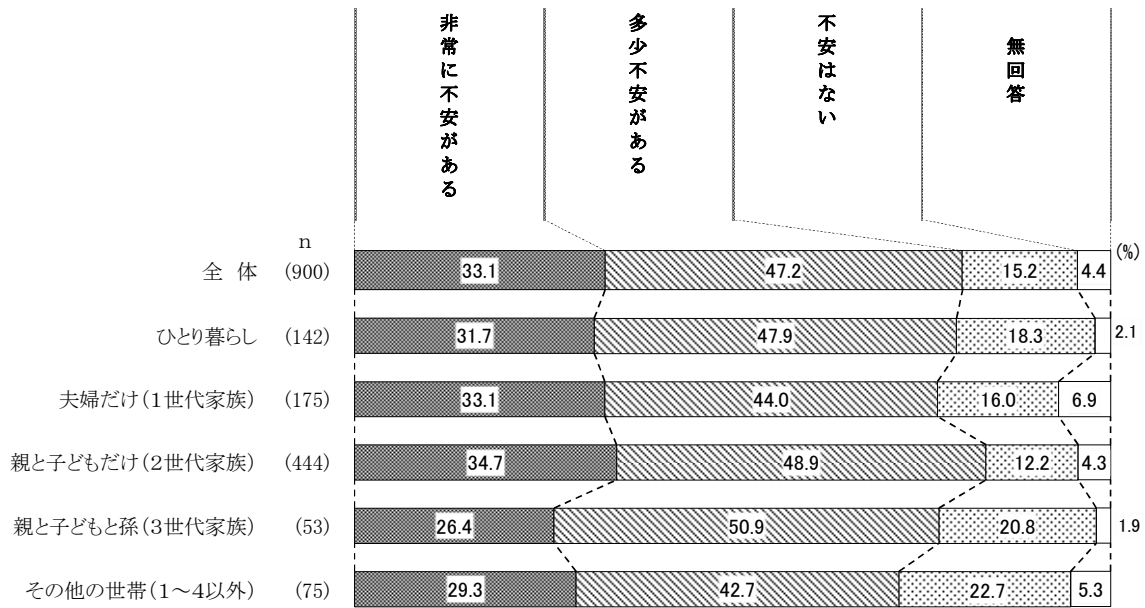
<図表 8-6> 居住地域別にみた地震や災害への不安(65 歳以上)



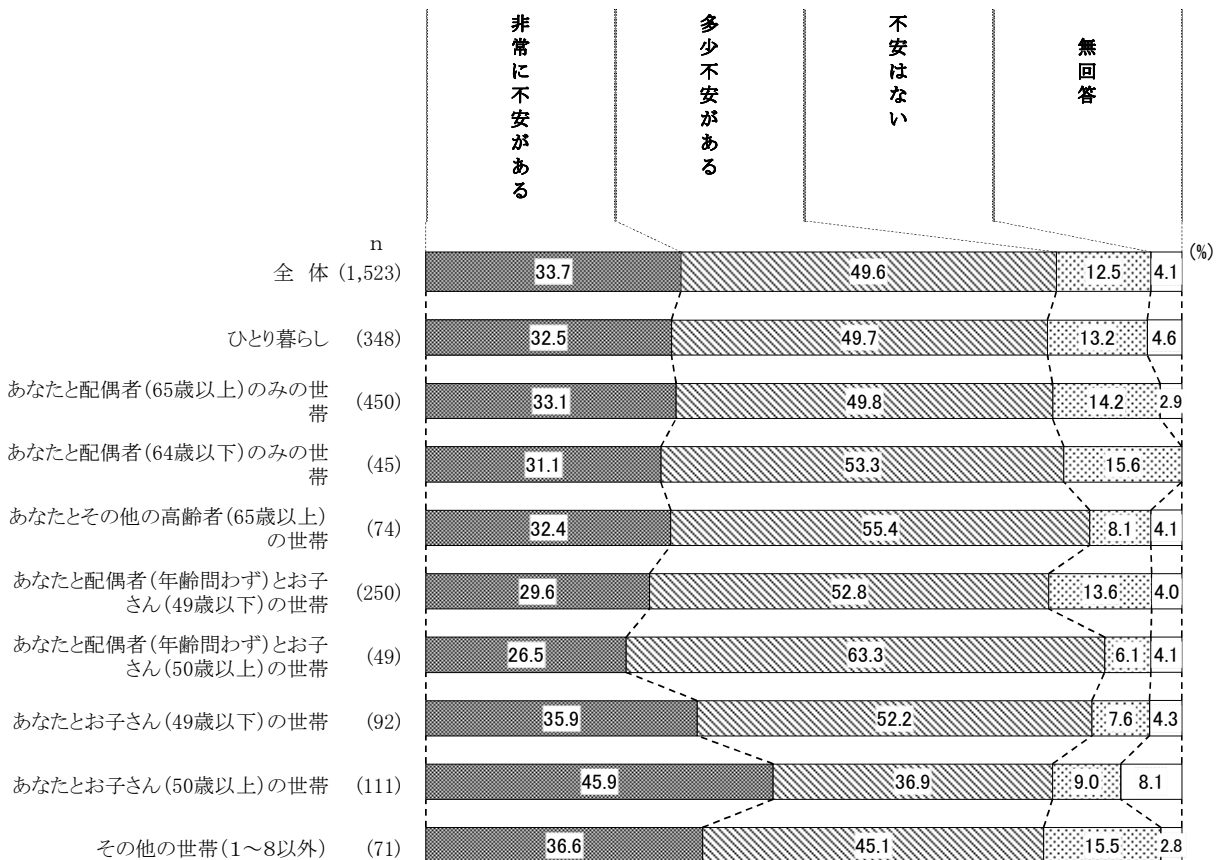
(2) 避難時に不安に思うこと (続き)

②家族構成別にみると、18～64歳全体では「親と子どもだけ(2世代家族)世帯」で『不安がある人』は83.6%となっている。65歳以上全体では、「あなたと配偶者(年齢問わず)とお子さん(50歳以上)の世帯」で『不安がある人』は89.8%となっている。

<図表8-7> 家族構成別にみた地震や災害への不安(18～64歳)



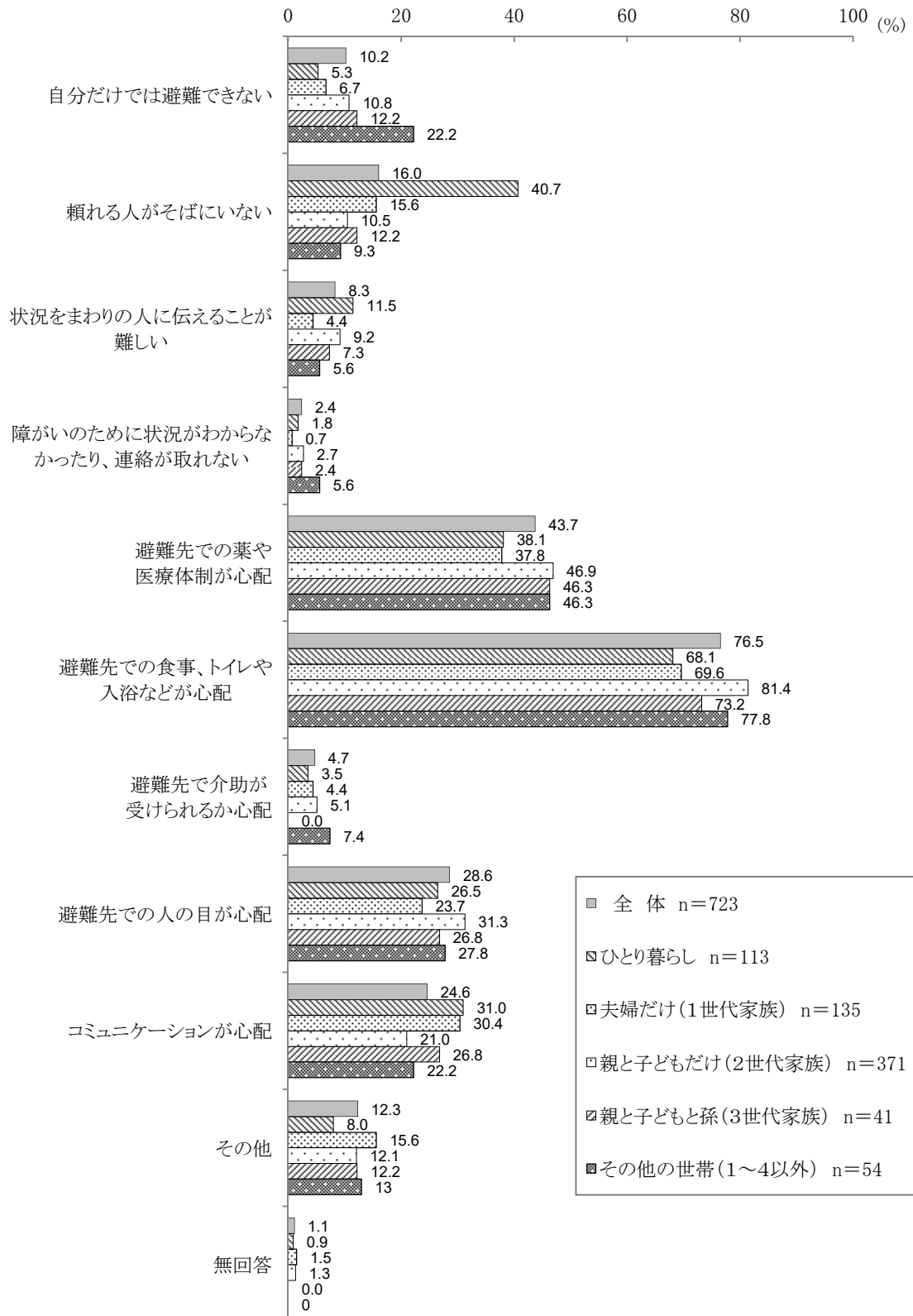
<図表8-8> 家族構成別にみた地震や災害への不安(65歳以上)



(2) 避難時に不安に思うこと (続き)

③不安に思うことについて、18～64歳では各世帯で「避難先での食事、トイレや入浴などが心配」が最も高く、「親と子どもだけ(2世代家族)」では81.4%となっている。また、「ひとり暮らし」では、「頼れる人がそばにいない」が他の世帯と比較して高く、40.7%となっている。

<図表8-9> 家族構成別にみた不安の内容(18～64歳)

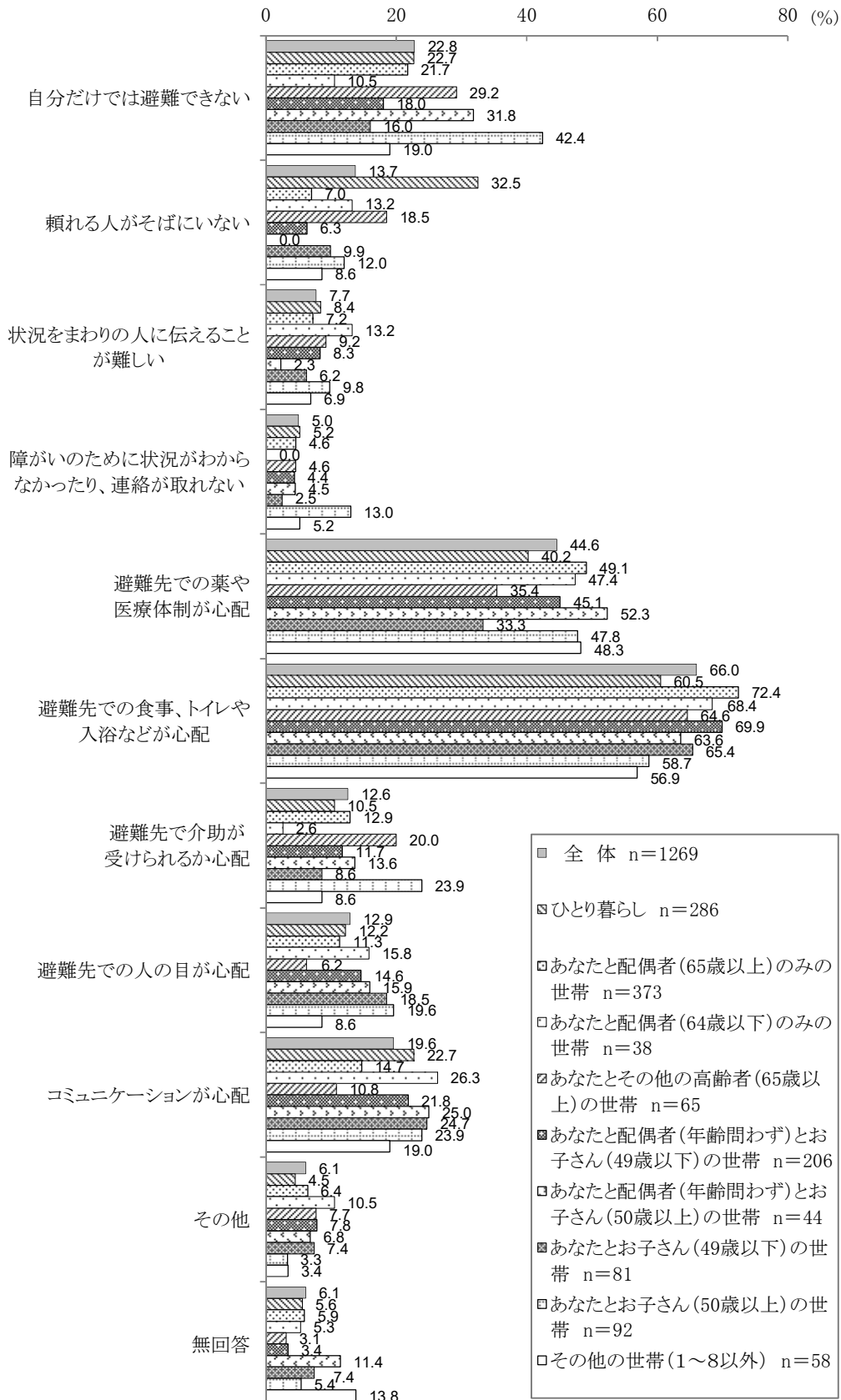




(2) 避難時に不安に思うこと (続き)

④不安に思うことについて、65歳以上では各世帯で「避難先での食事、トイレや入浴などが心配」が最も高く、「あなたと配偶者(65歳以上)のみの世帯」では72.4%となっている。

<図表8-10> 家族構成別にみた不安の内容(65歳以上)

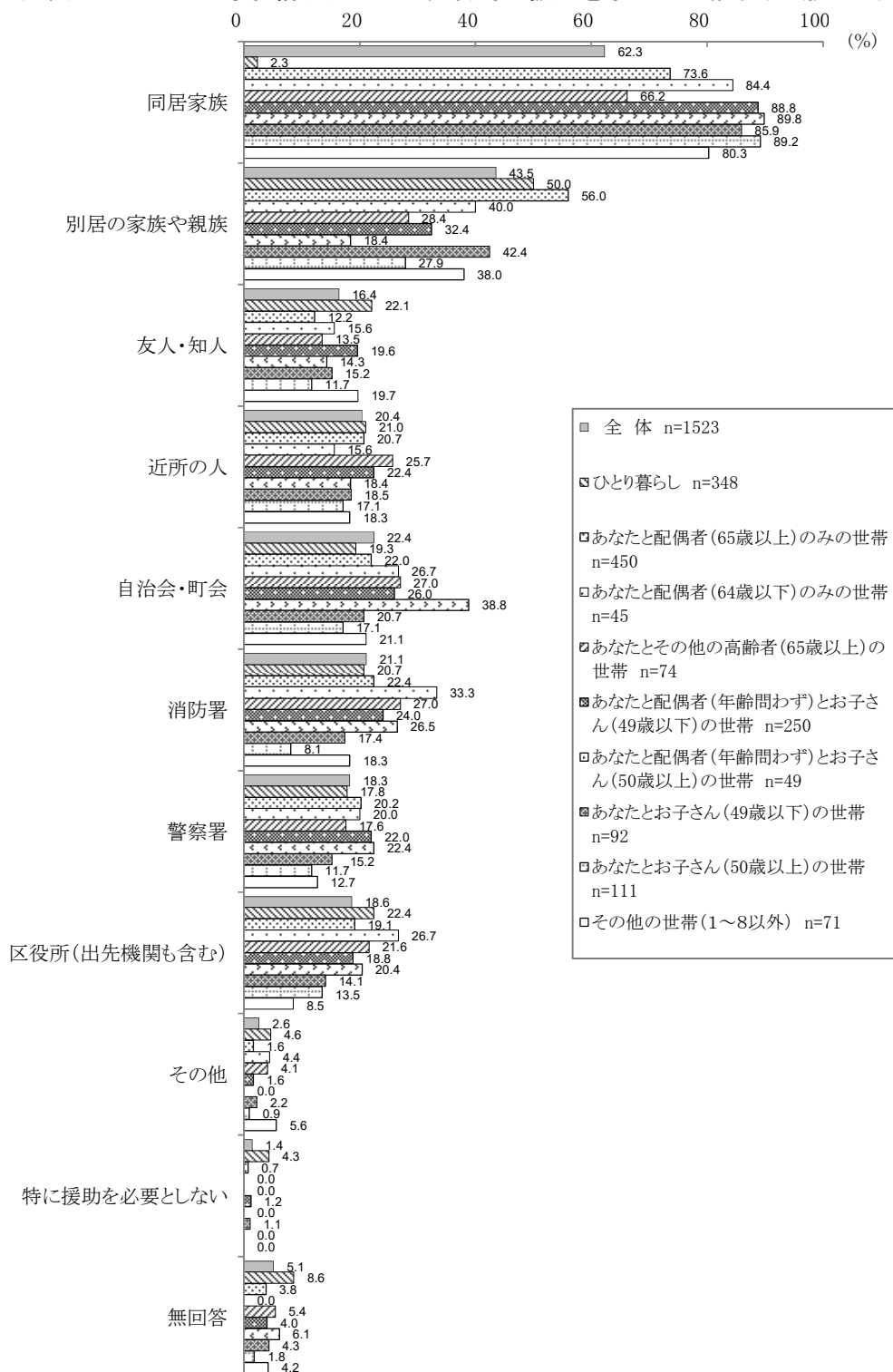


### (3) 緊急時に頼る相手【高問 34】

①65歳以上が災害などの緊急時に援助を求めたい相手は、「同居家族」が62.3%で最も高く、次いで「別居の家族や親族」が43.5%、「自治会・町会」が22.4%、「消防署」が21.1%の順となっている。

家族構成別にみると、「ひとり暮らし」では、「別居の家族や親族」が50.0%で最も高く、次いで、「区役所（出先機関も含む）」「友人・知人」の順となっている。「本人と配偶者（65歳以上）のみの世帯」では、「同居家族」が73.6%と高くなっている。

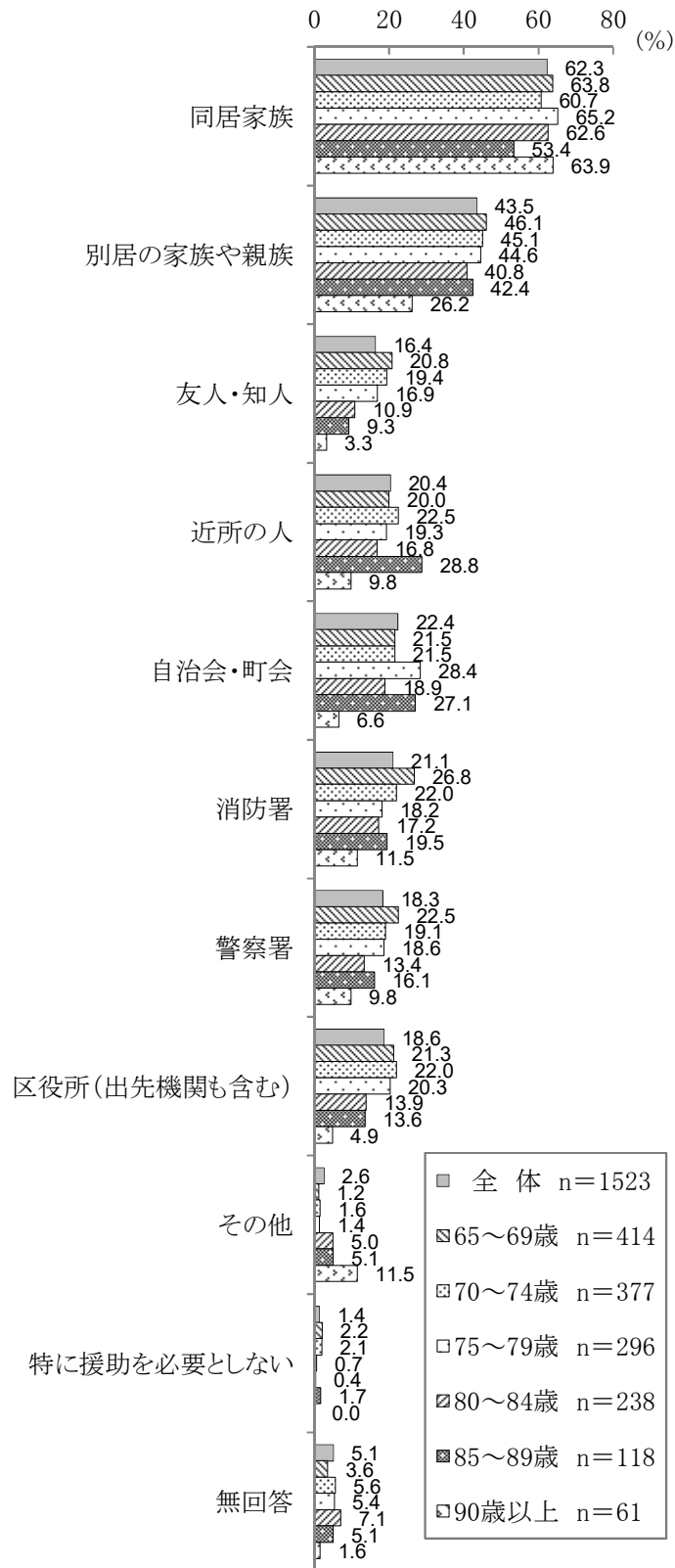
<図表 8-11> 家族構成別にみた災害時に援助を求めたい相手(65歳以上)



(3) 緊急時に頼る相手 (続き)

②災害などの緊急時に援助を求めたい相手を年齢別にみると、すべての年齢で「同居家族」が最も高く、50%を超えている。

<図表8-12> 年齢別にみた災害時に援助を求めたい相手(65歳以上)



### (3) 緊急時に頼る相手 (続き)

③災害などの緊急時に援助を求めたい相手を平成 24 年度と比べると、「近所の人」「自治会・町会」「警察署」「消防署」「区役所 (出先機関も含む)」など、家族以外を頼る割合が減少傾向にある。

<図表 8-13> 災害時に援助を求めたい相手(平成 24 年度、平成 20 年度との比較) (65 歳以上)  
(単位: %)

	平成 29 年度 n=1, 523	平成 24 年度 n=1, 707	平成 20 年度 n=1, 283
同居家族	62.3	62.5	54.9
別居の家族や親族	43.5	38.4	41.5
友人・知人	16.4	19.9	22.8
近所の人	20.4	31.0	37.4
自治会・町会	22.4	29.1	35.2
消防署	21.1	30.3	40.9
警察署	18.3	26.2	36.5
区役所(出先機関も含む)	18.6	20.7	28.4
その他	2.6	2.6	1.9
特に援助を必要としない	1.4	1.7	1.7
無回答	5.1	4.5	3.7

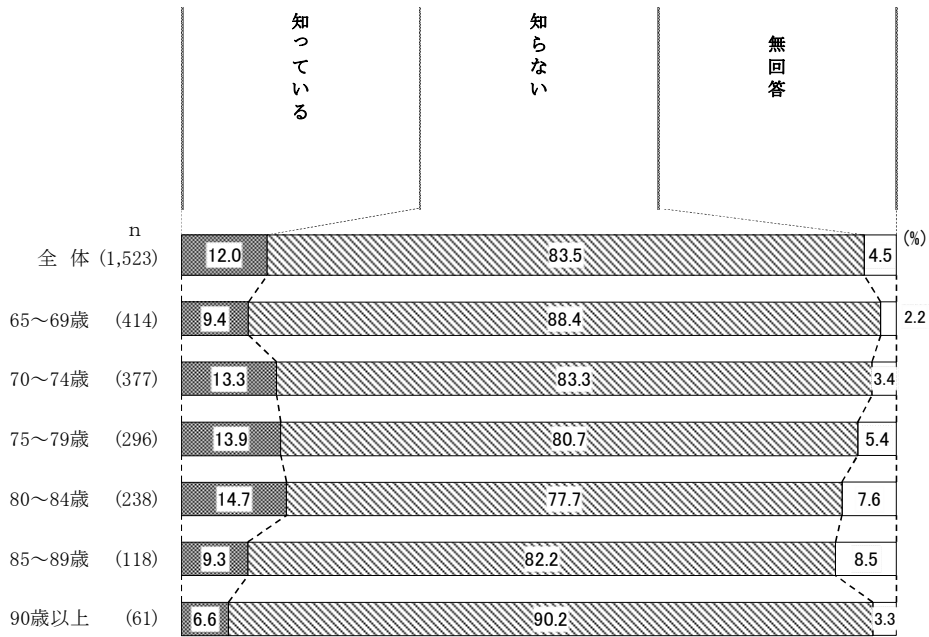
#### (4) 防災施策認知度【高問 35、問 36】

①防災行政無線電話応答サービスの認知度については、65歳以上全体で「知っている」は12.0%、「知らない」は83.5%となっている。

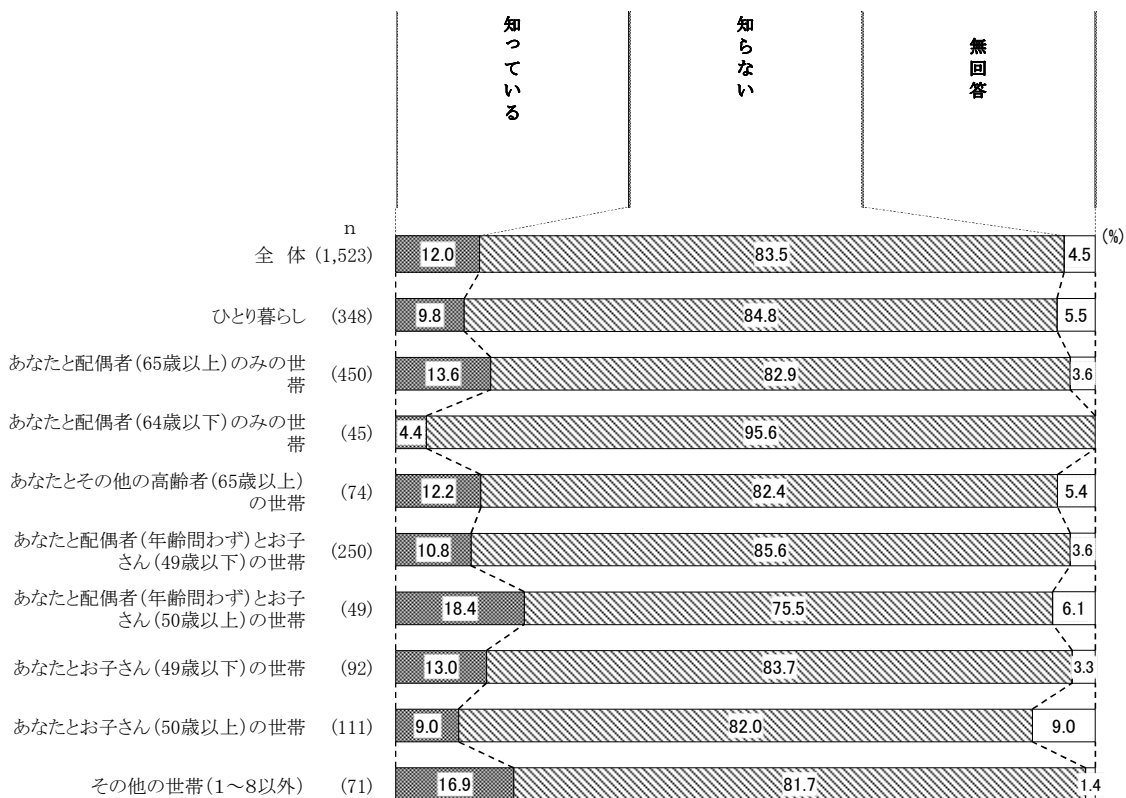
年齢別にみると、70～84歳で「知っている」は10%以上となっている。

家族構成別にみると、「あなたと配偶者(年齢問わず)とお子さん(50歳以上)の世帯」で「知っている」は18.4%となっている。

＜図表 8 - 1 4＞ 年齢別にみた防災行政無線電話応答サービスの認知度(65歳以上)



＜図表 8 - 1 5＞ 家族構成別にみた防災行政無線電話応答サービスの認知度(65歳以上)



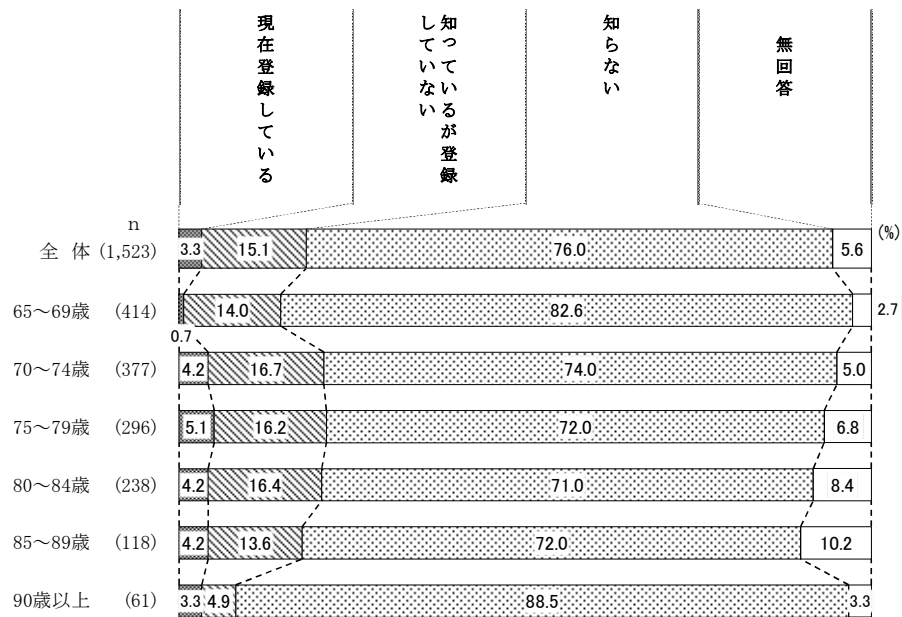
#### (4) 防災施策認知度 (続き)

②避難行動要支援者名簿の認知度については、65歳以上全体で「現在登録している」が3.3%、「知っているが登録していない」が15.1%で、合わせると認知度は18.4%である。一方、「知らない」は76.0%となっている。

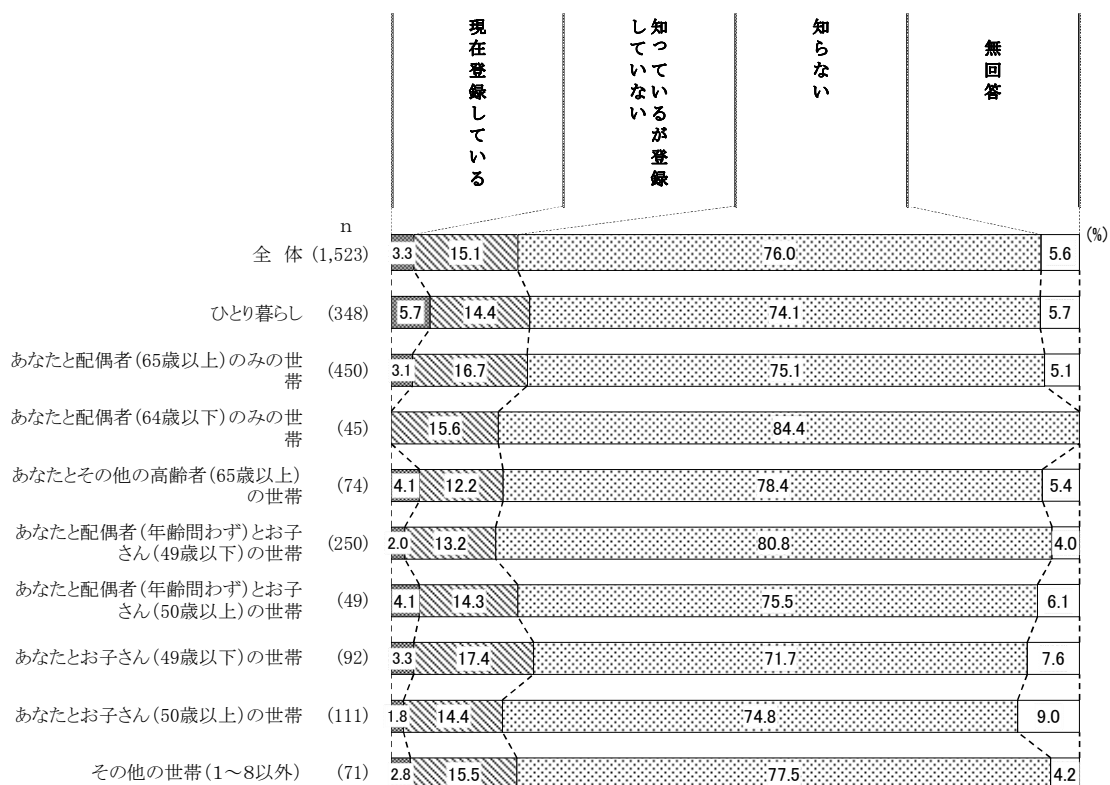
年齢別にみると、70歳～84歳で認知度は20%以上となっている。

家族構成別にみると、「あなたとお子さん(49歳以下)の世帯」で20%以上、次いで、「ひとり暮らし」「あなたと配偶者(65歳以上)のみの世帯」の順となっている。

<図表8-16> 年齢別にみた避難行動要支援者名簿の認知度(65歳以上)



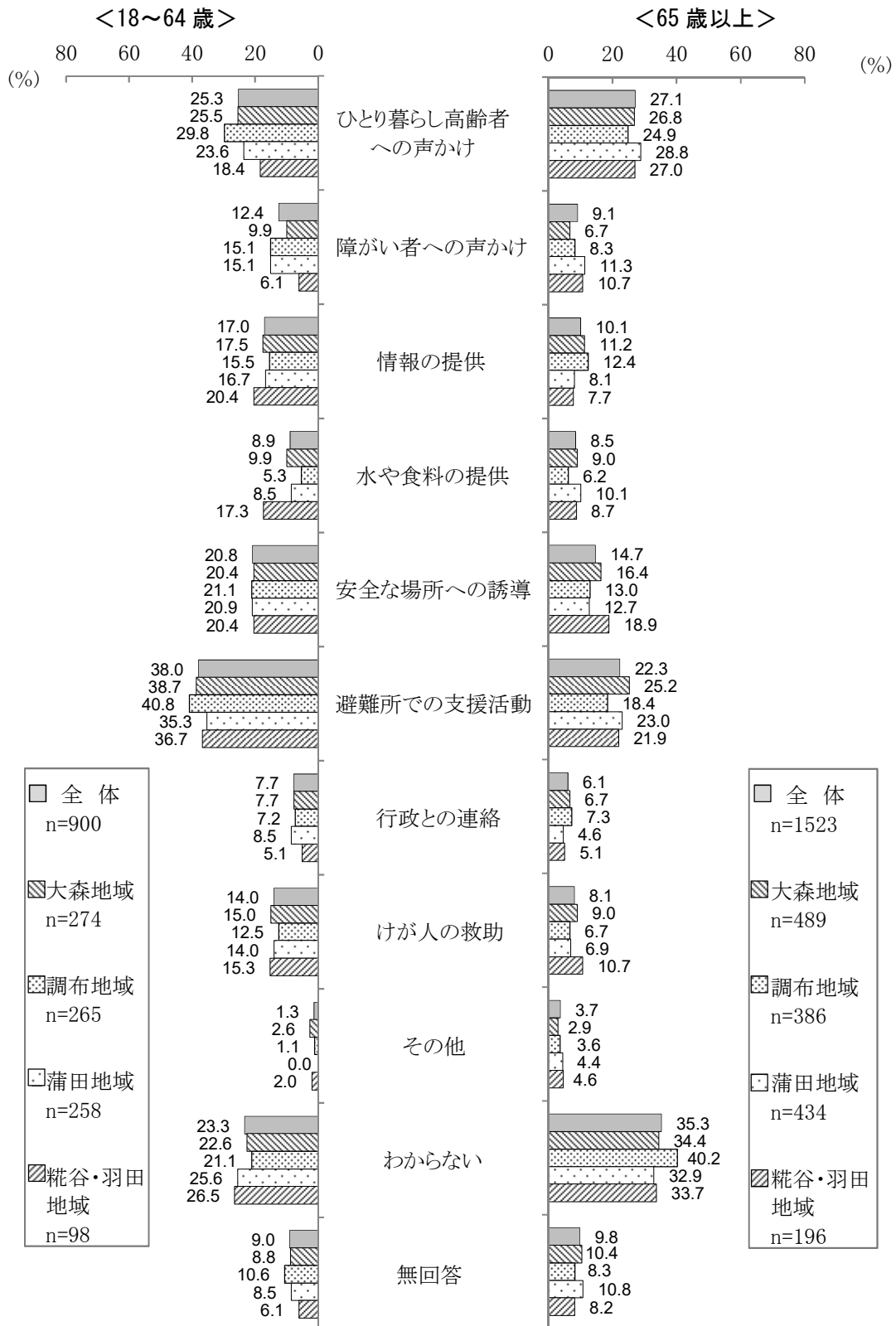
<図表8-17> 家族構成別にみた避難行動要支援者名簿の認知度(65歳以上)



(5) 災害時にできること【若問 32】【高問 37】

①災害時に、地域で自分ができることについて、18～64歳では「避難所での支援活動」が38.0%で最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者への声かけ」が25.3%となっている。  
65歳以上では、「わからない」が35.3%で最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者への声かけ」が27.1%となっている。

<図表 8-18> 居住地域別にみた災害のとき、地域で自分ができること(18～64歳)(65歳以上)

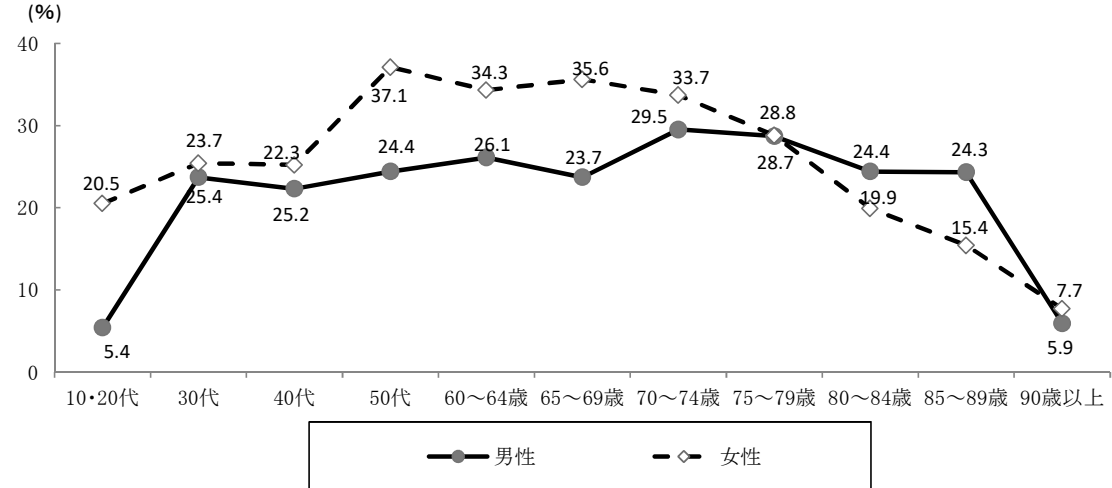


(5) 災害時にできること (続き)

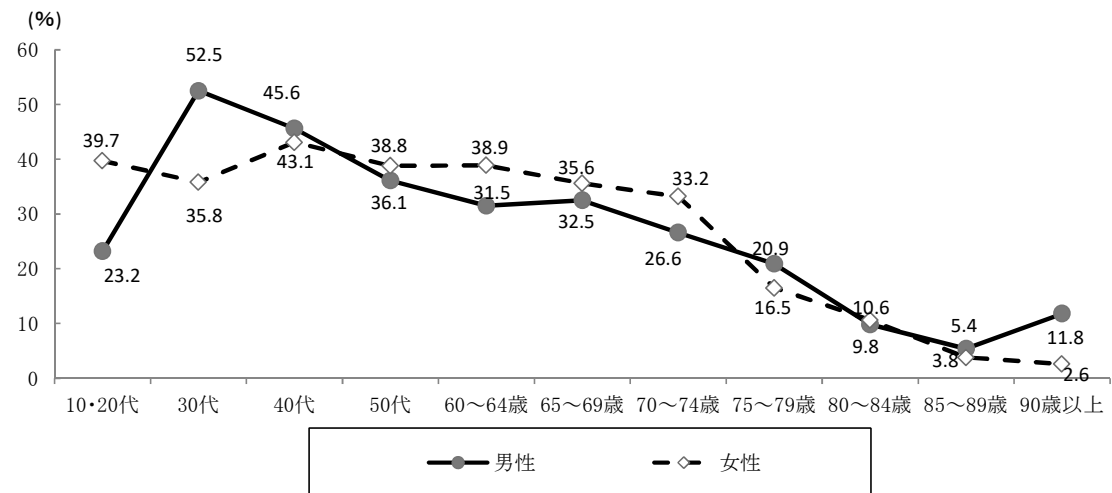
②性別・年齢別にみると、男性では「避難所での支援活動」が30代で52.5%と最も高くなっている。  
女性では、10~70代の幅広い年代で「ひとり暮らし高齢者への声かけ」との回答が高い。

<図表8-19> 性別・年齢別にみた災害のとき、地域で自分ができること(18~64歳)(65歳以上)  
(主な項目)

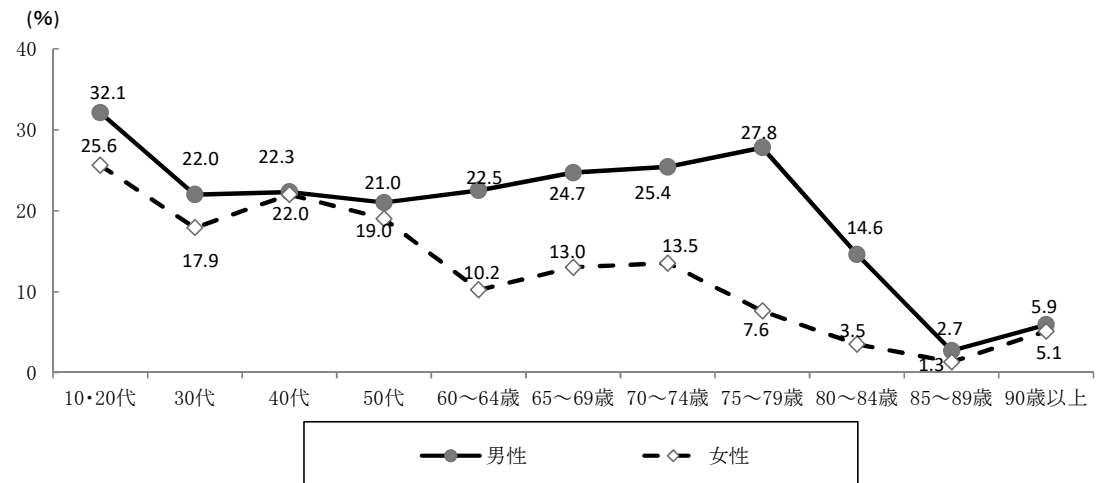
□ひとり暮らし高齢者への声かけ



□避難所での支援活動



□安全な場所への誘導





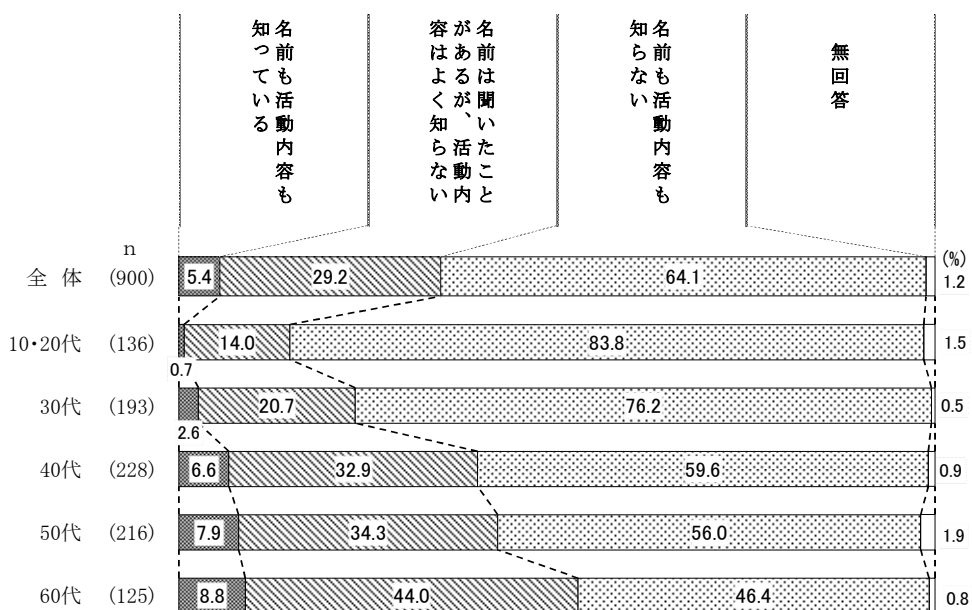
## 9. 社会福祉協議会について

### (1) 社会福祉協議会の認知度・重点とすべき活動【若問 33、問 33-1】

①社会福祉協議会の認知度については、「名前も活動内容も知っている」が5.4%、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」が29.2%で、合わせると認知度は34.6%となっている。

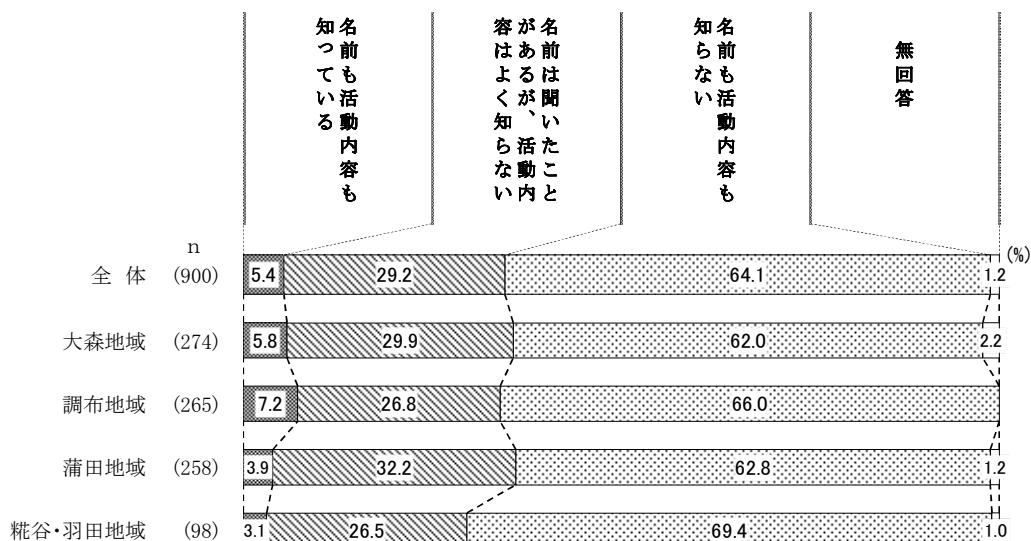
年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、認知度も高くなる傾向がみられる。

＜図表9-1＞ 年齢別にみた社会福祉協議会の認知度(18～64歳)



②居住地域別にみると、「名前も活動内容も知っている」が調布地域で7.2%と最も高く、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」が蒲田地域で32.2%と最も高くなっている。

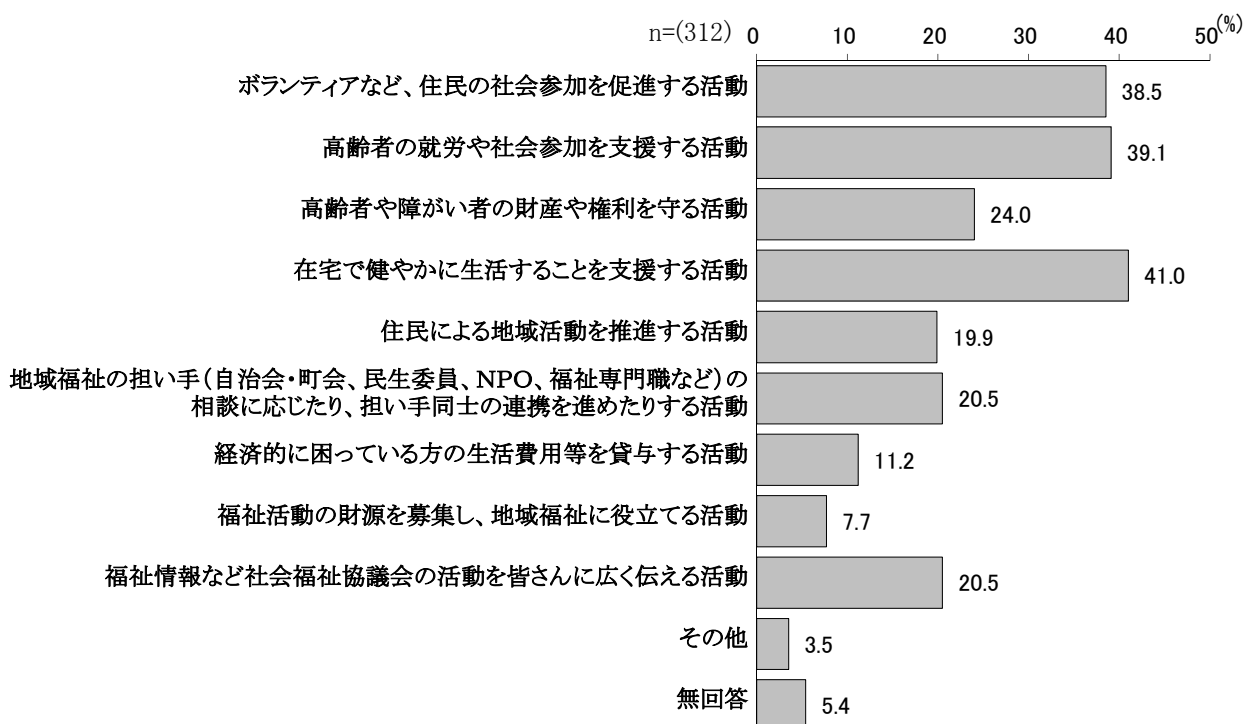
＜図表9-2＞ 居住地域別にみた社会福祉協議会の認知度(18～64歳)



(1) 社会福祉協議会の認知度・重点とすべき活動（続き）

③社会福祉協議会が今後の活動で重視すべきことについては、「在宅で健やかに生活することを支援する活動」が41.0%で最も高く、次いで「高齢者の就労や社会参加を支援する活動」が39.1%、「ボランティアなど、住民の社会参加を促進する活動」が38.5%の順となっている。

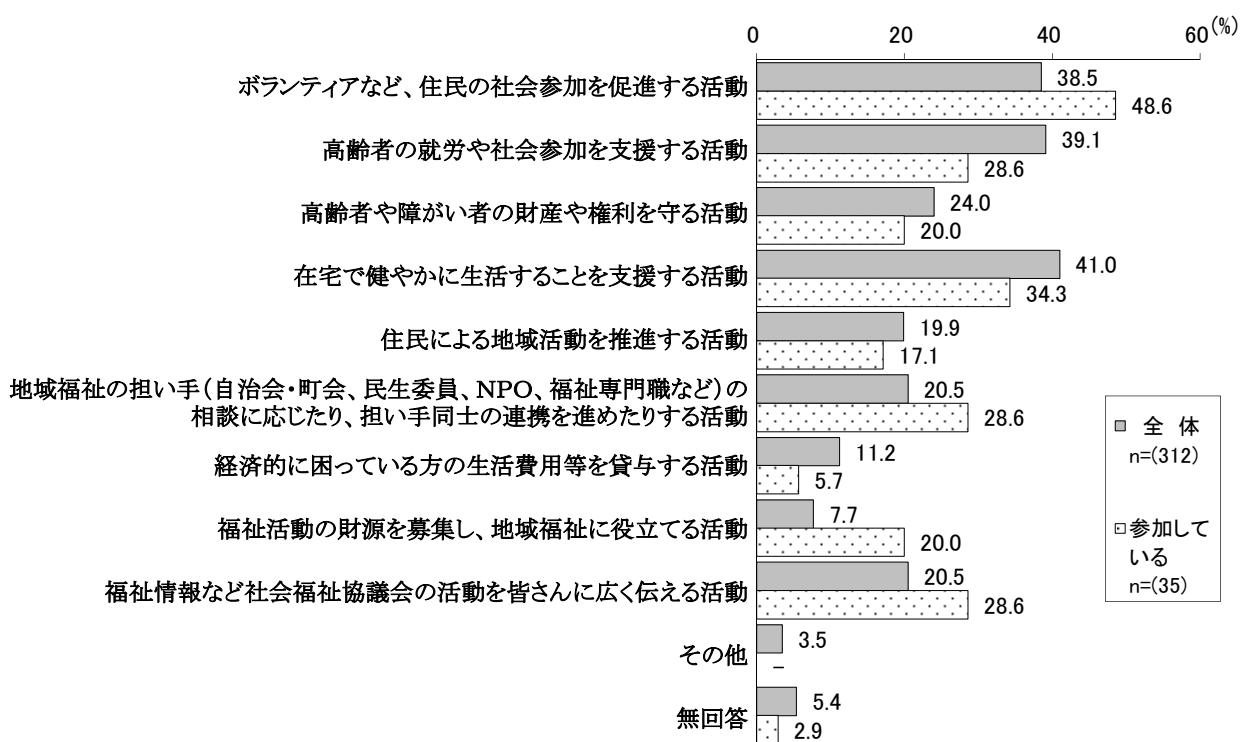
<図表9-3> 社会福祉協議会が今後の活動で重視すべきこと(18~64歳)



(1) 社会福祉協議会の認知度・重点とすべき活動（続き）

④社会福祉協議会が重点とすべき活動について、ボランティア活動の参加者(18～64歳調査 問22で「参加している」と回答した人)別にみると、「ボランティアなど、住民の社会参加を促進する活動」が48.6%で最も高く、次いで「在宅で健やかに生活することを支援する活動」が34.3%となっている。

<図表9-4> ボランティア活動の参加者別にみた社会福祉協議会が今後の活動で重視すべきこと (18～64歳)



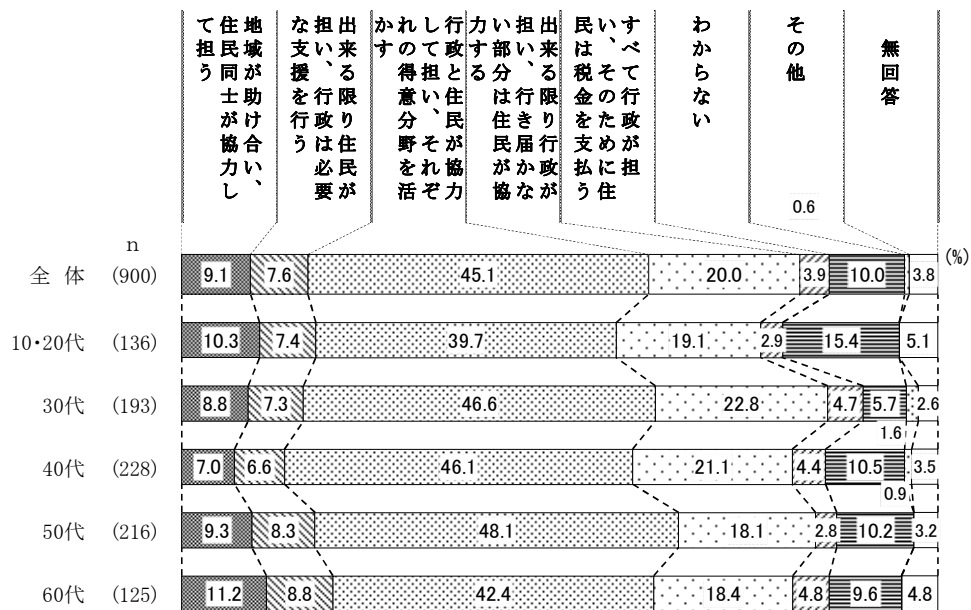
## 10. 地域での課題解決や福祉の向上について

### (1) 地域での課題解決に対する住民と行政の役割【若問 34】【高問 38】

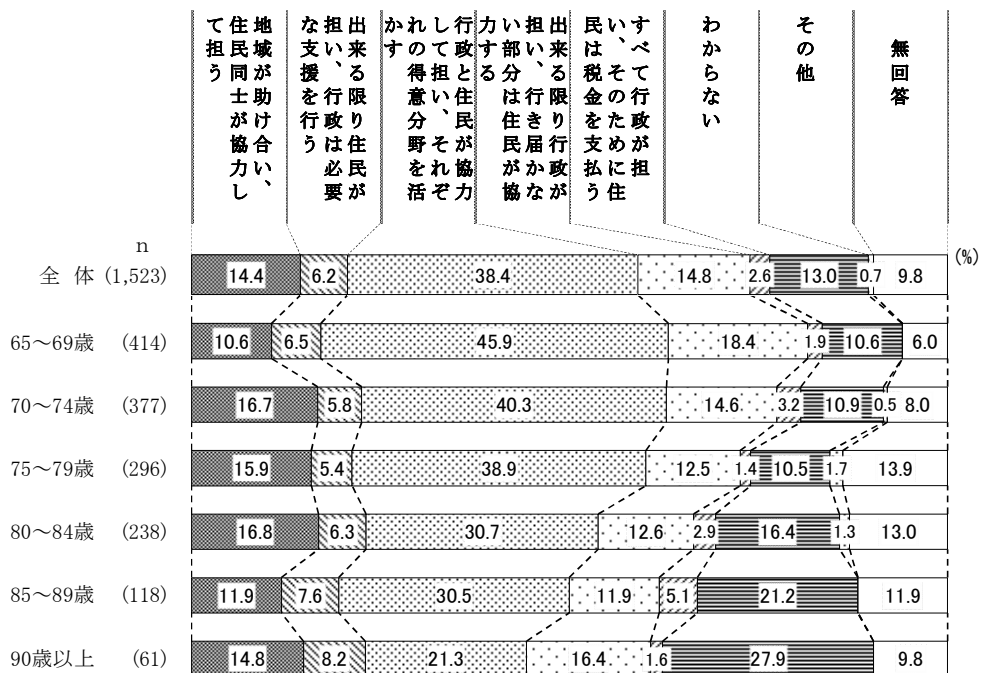
①地域での課題解決に対する住民と行政の役割について年齢別にみると、18～64歳ではすべての年齢で「行政と住民が協力して担い、それぞれの得意分野を活かす」が最も高く、10・20代を除く各年代で40%を超えている。

65歳以上では「行政と住民が協力して担い、それぞれの得意分野を活かす」は65～69歳で45.9%と最も高い。また、18～64歳と比べるとすべての年代において「地域が助け合い、住民同士が協力して担う」と回答した割合が高い。

<図表10-1> 年齢別にみた地域での課題解決に対する住民と行政の役割(18～64歳)



<図表10-2> 年齢別にみた地域での課題解決に対する住民と行政の役割(65歳以上)



(2) 今後、区が重点的に取り組むべき保健福祉施策【若問 35】【高問 39】

①今後、区が重点的に取り組むべき保健福祉施策について、18～64歳では「子どもを安心して産み育てられる子育て支援施策の充実」が62.2%で最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者の見守り体制や介護施設の整備」が55.3%、次いで「ひとり暮らし高齢者の見守り体制や介護施設の整備」が55.3%、次いで「だれもが健康で健やかに暮らせる健康づくりや介護予防の充実」が41.8%の順となっている。

65歳以上では、「ひとり暮らし高齢者の見守り体制や介護施設の整備」が61.8%で最も高く、次いで「だれもが健康で健やかに暮らせる健康づくりや介護予防の充実」が47.5%、「子どもを安心して産み育てられる子育て支援施策の充実」が40.8%の順となっている。

<図表10-3> 今後、区が重点的に取り組むべき保健福祉施策(18～64歳)(65歳以上)

